

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス連番	備考
								科目等 履修生	学部 聴講生		
3541006	アメリカ文学(演習I)	演習	2	後期	金2	廣田 篤彦	日本語	○	○	西洋文化学系119	
3551001	アメリカ文学(講義)	講義	2	前期	水5	森 慎一郎	日本語	○	○	西洋文化学系120	
3551002	アメリカ文学(講義)	講義	2	後期	水5	小林 久美子	日本語	○	○	西洋文化学系121	
3551003	アメリカ文学(講義)	講義	2	前期	火2	佐々木 徹	日本語	○	○	西洋文化学系122	
3551004	アメリカ文学(講義)	講義	2	後期	木1	廣田 篤彦	日本語	○	○	西洋文化学系123	
3551005	アメリカ文学(講義)	講義	2	前期	火3	桂山 康司	日本語	○	○	西洋文化学系124	
3551006	アメリカ文学(講義)	講義	2	後期	火3	桂山 康司	日本語	○	○	西洋文化学系125	
3562001	アメリカ文学(外国語実習)	実習	1	前期	木2	LUDVIK, Catherine	英語	○	○	西洋文化学系126	
3562002	アメリカ文学(外国語実習)	実習	1	後期	火1	LUDVIK, Catherine	英語	○	○	西洋文化学系127	
3562003	アメリカ文学(外国語実習)	実習	1	前期	水3	Stephen Gill	英語	○	○	西洋文化学系128	
3562004	アメリカ文学(外国語実習)	実習	1	後期	月3	Stephen Gill	英語	○	○	西洋文化学系129	
3604001	系共通科目(フランス文学)(講義)	講義	2	前期	火2	永盛 克也	日本語	○	○	西洋文化学系130	
3606001	系共通科目(フランス文学)(講義)	講義	2	後期	火2	村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系131	
3607001	系共通科目(フランス語学)(講義)	講義	2	前期	火3	小田 涼	日本語	○	○	西洋文化学系132	
3631001	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木2	永盛 克也	日本語	○	○	西洋文化学系133	
3631003	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木3	Charles VINCENT	フランス語	○	○	西洋文化学系134	
3631004	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木3	Charles VINCENT	フランス語	○	○	西洋文化学系135	
3631007	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	森本 淳生	日本語	○	○	西洋文化学系136	
3631008	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水3	村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系137	
3631010	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金2	森本 淳生	日本語	○	○	西洋文化学系138	
3631012	フランス語学フランス文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金4	岩根 久	日本語	○	○	西洋文化学系139	
3645003	フランス語学フランス文学(演習)	演習	2	前期	木4	Charles VINCENT	フランス語	○	○	西洋文化学系140	
3645004	フランス語学フランス文学(演習)	演習	2	後期	木4	Charles VINCENT	フランス語	○	○	西洋文化学系141	
3648001	フランス語学フランス文学(演習I)	演習	2	前期	月2	永盛 克也	日本語	○	○	西洋文化学系142	
3648002	フランス語学フランス文学(演習I)	演習	2	後期	月2	村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系143	
3651001	フランス語学フランス文学(講義)	講義	2	後期	月3	永盛 克也	日本語	○	○	西洋文化学系144	
3651002	フランス語学フランス文学(講義)	講義	2	前期	月3	村上 祐二	日本語	○	○	西洋文化学系145	
3651003	フランス語学フランス文学(講義)	講義	2	後期	木2	松原 冬二	日本語	○	○	西洋文化学系146	
3682001	フランス語学フランス文学(外国語実習)	実習	2	通年	火4	Charles VINCENT	フランス語	○	○	西洋文化学系147	
3702001	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	2	前期	火2	村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系148	
3703001	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	2	後期	火2	村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系149	3/11 講義コード変更
3731001	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月4	菊池 正和	日本語	○	○	西洋文化学系150	
3731004	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水3	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	西洋文化学系151	
3731005	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水3	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	西洋文化学系152	
3731006	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水5	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	西洋文化学系153	
3731007	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水5	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	西洋文化学系154	
3731008	イタリア語学イタリア文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月4	菊池 正和	日本語	○	○	西洋文化学系155	
3751001	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	2	前期	水4	村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系156	
3751002	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	2	後期	水4	村瀬 有司	日本語	○	○	西洋文化学系157	
3751003	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	2	前期	金5	河合 成雄	日本語	○	○	西洋文化学系158	
3751004	イタリア語学イタリア文学(講義)	講義	2	後期	金5	河合 成雄	日本語	○	○	西洋文化学系159	
3764001	イタリア語学イタリア文学(外国語実習)	実習	1	前期	火3	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	西洋文化学系160	
3764002	イタリア語学イタリア文学(外国語実習)	実習	1	後期	火3	Marco Daniele LIMONGELLI	イタリア語	○	○	西洋文化学系161	
3902001	西洋文学入門(講義)	講義	2	前期	木5	CIESKO, Martin・中村 唯史・川島 隆・廣田 篤彦・小林 久美子・永盛 克也・村瀬 有司	日本語	×	○	西洋文化学系162	

西洋文化学系 1

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高橋 宏幸 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ演劇史									
【授業の概要・目的】											
主としてプラウトゥスおよびテレンティウスの喜劇作品とセネカの悲劇作品を取り上げ、ジャンルの常套、各作家の作風、表現の特色を紹介する。											
【到達目標】											
演劇を愛したローマ人の感性に触れる。 古典演劇の表現手法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
ローマ喜劇はギリシア新喜劇の筋立てを翻案し、ローマ独自の要素を加味した。そうしてプラウトゥスはすべてを吹き飛ばすような弾ける笑いを、テレンティウスは人情味が滲む優雅な笑いを生み出した。セネカはギリシア悲劇を模しながら、彼が生きたローマとその時代を織り込んだ劇を残した。これらの様相を邦訳テキストに即して見ていく。 第1回 文学史的背景 第2回-第4回 ギリシア新喜劇、ローマの劇場、 第5回-第8回 プラウトゥスの喜劇 第9回-第11回 テレンティウスの喜劇 第12回-第14回 セネカの悲劇 第15回 全体のまとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート：70% 平常点：30%											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
-----系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

ギリシア・ローマ演劇の邦訳をできるだけ数多く読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 2

科目ナンバリング		U-LET15 13102 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CIESKO, Martin 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	英語
題目		Watching Greek Drama									
[授業の概要・目的]											
You will become acquainted with the most memorable, enjoyable or disturbing myths of ancient Greece as portrayed in Greek Tragedy. We will discuss a few pieces, and then watch staged performances (in Japanese or with Japanese subtitles). Through exposure to Greek theatre you will learn about the Greeks' world outlook, attitudes to gods, to life around them, and observe their ethical norms and taboos.											
[到達目標]											
The goal is to introduce the best and most thought-provoking Greek myths and tragedies built around them and to see how Greeks viewed life, heroism, fate and their own place in the world. Who were their gods, how did they behave, and how did this civilization's ethical norms and taboos come to be shaped? We will also touch upon the afterlife of Greek Tragedy in modern literature and philosophy.											
[授業計画と内容]											
The course will be conducted in English. 1. Introduction to Greek theatre. 2-15 We will discuss Greek playwrights, Aeschylus, Sophocles and Euripides and introduce each through a selection of their works. Their plays are a fascinating mixture of thought-provoking but also entertaining stories from mythology combined with perennial questions about politics, religion and ethics. Through direct exposure to such stories you will be able to see for yourselves why they still keep fascinating us after so many centuries. You will be in a position to compare ancient Greeks' ideas about acts of transgression, their thinking about love, gods' power, man's place in the world, and what constitutes true heroism.											
[履修要件]											
Ability to understand spoken English.											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Attendance and participation in class, plus final report. 平常点											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
Read a few excerpts in Japanese or in translation.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 3

科目ナンバリング		U-LET15 33130 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CIESKO, Martin 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		Integrated course of Attic Greek									
【授業の概要・目的】											
Comparative Greek / Latin syntax - we will discuss in detail the most important syntactical phenomena in Attic Greek and at the same time provide Latin counter examples to show what syntactical tools the two languages had at their disposal and how each overcame their respective limitations. Some bilingual texts will be read and studied and lots of exercises on syntax will be done in class.											
【到達目標】											
This programmed course aims at achieving a high level of proficiency in Attic Greek. It consists of 3 modules: A. high-frequency vocabulary and graded reading, B. verbal morphosyntax, C. comparative Greek / Latin syntax. At the end of the course you will be able to read Attic with much more ease, comfort and understanding. Your grasp of the language will also become very practical because you will be encouraged to use the Attic dialect actively in class (esp. through speaking and writing). The students who want to get all the benefits are encouraged to attend all three modules.											
【授業計画と内容】											
Greek syntax is freer, more fluid and more nuanced than Latin syntax. We will discuss all the most important syntactical elements in Greek and contrast them with the tools that Latin had at its disposal. Classes will be very practical - after detailed explanations, a set of exercises will be done to test students' active mastery of the material.											
【履修要件】											
One year of Greek is required.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Attendance and participation in class.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
All work will be done in class, although students will be advised to consult suggested grammatical handbooks.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 4

科目ナンバリング		U-LET15 33130 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高橋 宏幸 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シーリウス・イタリクス研究									
[授業の概要・目的]											
ラテン文学白銀期の叙事詩人シーリウス・イタリクスの詩作について考究する。本年度はPunica第3巻と第4巻を精読し、検討する。											
[到達目標]											
ラテン語原典の読解力を高める。 文献学的アプローチに習熟する。											
[授業計画と内容]											
シーリウス・イタリクスはこれまで広く読まれてきた作品とは言えない。しかし、そこには詩人が受け継いだ文学伝統を自身の表現に生かす創意工夫が見られる。唯一伝存する作品であるPunicaはリーウィウスの歴史書第21巻以降に記された第2次ポエニー戦争を題材としながら、神々の介入や運命の実現など作品の枠組み、また、個々の場面設定、表現手法など叙述全般においてウェルギリウス『アエネーイス』に多くを依拠している。こうした先行作品との比較に重きを置きながら、作品理解を試みる。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第7回 第3巻1-714行 第8回~第15回 第4巻1-829行											
[履修要件]											
ラテン語文法を修得し、なんらか原典を読んだ経験があること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点50パーセント、期末レポート50パーセント。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 5

科目ナンバリング		U-LET15 33140 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高橋 宏幸 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		キケロー『カティリーナ弾劾』第1、第2巻、『カエリウス弁護』									
【授業の概要・目的】											
キケローの演説二作品を精読して、弁論の構成、常套表現を学び、文飾とリズムを味わい、楽しむ。											
【到達目標】											
ラテン語原典の読解力を身につける。 古典文学伝統の受容と継承についての感性を磨く。 雄弁の力強い表現に慣れ親しむ。											
【授業計画と内容】											
『カティリーナ弾劾』はキケローの演説の中でもっとも有名なものの一つで、執政官のとき（前63年）に鎮圧した反逆陰謀の首謀者を糾弾する。国権の頂点に立ち、国難を救った自負によって雄弁がさらなる力を加えながら、滔々と展開する。『カエリウス弁護』は、キケローを追放に追い込んだ宿敵クローディウスの姉で稀代の悪女とされるクローディアによって讒訴された若い友人カエリウスを弁護する。それぞれの文脈とそれに応じた弁論の展開に留意しながら、毎回3ページ前後を読み進む。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第15回 『カティリーナ弾劾』第1、第2巻 第16回~第29回 『カエリウス弁護』 第30回 全体のまとめ											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点80パーセント、期末試験20パーセント。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----											

西洋古典学(演習)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

原典の下調べの他、配布する注釈をよく読んで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 6

科目ナンバリング		U-LET15 33140 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学 (文学演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CIESKO, Martin 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Integrated course of Attic Greek A									
[授業の概要・目的]											
We will study high-frequency vocabulary concerning everyday life in classical Athens; word-lists will be provided and relevant "Realien" discussed and illustrated through texts and pictorial evidence. Graded reading of relevant literary and documentary texts will follow. We will discuss the texts in Greek and try to rephrase or imitate them in composition.											
[到達目標]											
This programmed course aims at achieving a high level of proficiency in Attic Greek. It consists of 3 modules: A. high-frequency vocabulary and graded reading, B. verbal morphosyntax, . comparative Greek / Latin syntax. At the end of the course you will be able to read Attic with much more ease, comfort and understanding. Your grasp of the language will also become very practical because you will be encouraged to use the Attic dialect actively in class (esp. through speaking and writing). The students who want to get all the benefits are encouraged to attend all three modules.											
[授業計画と内容]											
Over the course of the year we will 15 to 20 topics concerning Athenians' private and social life, e.g. schools, marketplace, cooking, social events, festivals, sacrifices, farming, travel, etc. We will create word-lists and word groups and read relevant texts. We will try to use as much spoken Attic Greek in class as humanly possible.											
[履修要件]											
One year of Attic Greek grammar is required.											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Attendance and active participation in class.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学 (文学演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学（文学演習）(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

Students will have to read through vocabulary lists at home and memorize the most frequent vocabulary. No other homework is envisaged.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 7

科目ナンバリング		U-LET15 33140 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CIESKO, Martin 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Integrated course of Attic Greek B									
[授業の概要・目的]											
Practical mastery of verbal morphosyntax of Attic Greek. We will study all the essential intricacies of the Attic verb and lots of practical exercises will be provided to master this most important, if often neglected, aspect of Greek grammar.											
[到達目標]											
This programmed course aims at achieving a high level of proficiency in Attic Greek. It consists of 3 modules: A. high-frequency vocabulary and graded reading, B. verbal morphosyntax, . comparative Greek / Latin syntax. At the end of the course you will be able to read Attic with much more ease, comfort and understanding. Your grasp of the language will also become very practical because you will be encouraged to use the Attic dialect actively in class (esp. through speaking and writing). The students who want to get all the benefits are encouraged to attend all three modules.											
[授業計画と内容]											
We will be looking in great detail at the Greek verb - both from a theoretical and practical point of view. We will go through the whole morphosyntax and do a sufficient amount of exercises to master this most difficult aspect of Greek grammar. All verbal paradigms and typical syntactical features will be discussed and we will also touch upon poetic verbal forms as they appear in classical Athenian literature.											
[履修要件]											
You must have taken a course of elementary Greek.											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Attendance and participation in class.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
We want to achieve an active mastery of the Greek verb and consequently there will be a lot of memorizing to do - but we will do it in the smart way exerting as little effort as is possible while still covering all the material.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 8

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36											
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 文学研究科				平山 晃司 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		カトゥッルス『詩集』											
[授業の概要・目的]													
カトゥッルスの『詩集』に収められた作品を精読することにより、ラテン語の読解力を養う。また、さまざまな詩形に慣れ親しむべく、正確なリズムで詩を朗読する訓練をする。(前年度の続き)													
[到達目標]													
ラテン語の読解力を高める。 さまざまな韻律に習熟する。													
[授業計画と内容]													
第57歌から順に、毎回短い詩は数篇ずつ、長い詩(第61歌～第68歌)は数十行ずつのペースで読み進む。 第1回 導入(注釈書の紹介、韻律の解説など) 第2回～第15回 訳読													
[履修要件]													
ラテン語文法を修得済みであること。													
[成績評価の方法・観点及び達成度]													
出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。													
[教科書]													
D. F. S. Thomson 『Catullus: Edited with a Textual and Interpretative Commentary』(University of Toronto Press) ISBN:9780802085924 コピーを配布する。													
[参考書等]													
(参考書) 授業中に紹介する													
[授業外学習(予習・復習)等]													
毎回の授業に備えてテキストの指定された範囲を丁寧に読んでおくこと。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

西洋文化学系 9

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		高橋 宏幸 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。											
[到達目標]											
ラテン語の基本的な感覚を身につける。 語彙力を高める。 複雑な構文にも対処しうる読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落としやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。第1巻第1章から始めて、毎回、2～3章を読み進める。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 第2巻第1章～ カエサル率いるローマ軍のベルガエ人との戦争から「ガリア平定」までの記述を読む。 第15回 全体のまとめ											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 10

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。											
[到達目標]											
ラテン語の基本的な感覚を身につける。 語彙力を高める。 複雑な構文にも対処しうる読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落とししやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。毎回、2～3章を読み進める。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 第3巻第1章～ カエサル率いるローマ軍とガリア「叛乱」諸部族との戦争の記述を読む。 第15回 全体のまとめ											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 1 1

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古代ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古代ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポーン『アナバシス』の精読を通して、古代ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
クセノポーンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古代ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古代ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470 コピーを配布する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 1 2

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古代ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古代ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古代ギリシア語読解の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古代ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古代ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366 コピーを配布する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。</p> <p>主要な幾つかのトピックに重点を置いて、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。</p> <p>2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回：はじめに											
第2 - 3回：近代以前のロシア文化の流れ 東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設など											
第4 - 13回：以下の3つの系譜を軸に、時代を追って19世紀ロシア文学・思想を概観します。											
<p>1) 自己意識の鏡としてのペテルブルグ神話の系譜： プーシキン『青銅の騎士』、ゴーゴリ『外套』『鼻』、ドストエフスキーのペテルブルグほか</p> <p>2) ロシア文化における「他者」としてのコーカサス表象の系譜： プーシキン『コーカサスの虜』、レールモントフ『現代の英雄』他、トルストイ『コサック』ほか</p> <p>3) 「ロシア的自然」の系譜： プーシキン、レールモントフの詩、ツルゲーネフ『獵人日記』、トルストイ『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』、移動派の絵画ほか</p>											
第14回：農奴解放令以後の文学と社会状況											
第15回：まとめ											
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 13204 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 20世紀ロシア(ソ連)の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回：はじめに											
第2 - 5回：19世紀末から20世紀初頭の文学・絵画・思想 象徴主義(イヴァノフ、ソログープほか)、リアリズム文学(ゴーリキー、チェーホフほか)、近代ロシア絵画の展開(クインジー、レヴィタン、ヴルーベリ、シャガール、マレーヴィチほか)											
第6 - 8回：「ロシア・アヴァンギャルド」の季節 ロシア・フォルマリズム(「異化」とその通時的展開)、未来派の文学と絵画(超意味言語詩、無対象絵画)、建設や映画の展開(タトリン、エイゼンシュテイン、ジガ・ヴェルトフ、モンタージュほか)											
第9 - 13回：ソ連期の文学・思想・文化 文学：ザミャチン、フルマノフ、バーベリ、ブルガーコフ、ベルゴーリツほか 思想：全一性の詩学、規範としての社会主義リアリズムとその溶融 映画：タルコフスキー、シェンゲラーヤ、ゲルマンほか											
第14回：ソ連崩壊後の文化状況(ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか)											
第15回：まとめ											
授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。
後期からの履修も認めます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		服部 文昭 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語学の基礎									
【授業の概要・目的】											
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸事項につき、理解を深めてゆく。											
【到達目標】											
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題を念頭に置きつつ、読解力を高め、専門領域での情報収集能力も身につけること。											
【授業計画と内容】											
第1回：ロシア語学の基本的な諸概念（1） 第2回：ロシア語学の基本的な諸概念（2） 第3回：ロシア語の統語論（1） 第4回：ロシア語の統語論（2） 第5回：ロシア語の形態論（1） 第6回：ロシア語の形態論（2） 第7回：ロシア語の音論 第8回：ロシア語の語彙論 第9回：ロシア語の諸方言の基礎 第10回：ロシア語史の基礎 第11回：ロシア語学の視点からの文学作品研究（1） 第12回：ロシア語学の視点からの文学作品研究（2） 第13回：ロシア語学と翻訳 第14回：総括 第15回：フィードバック * フィードバックについては授業中に指示します。											
単なる講義には終わらず、いくつかのカレントの論文を輪読する形式も一部で取り入れたい。受講生諸君に割り当てる際には、本人の関心・興味と勉学・研究の進み具合を勘案の上、分担を決めようと考えているので、受講する諸君は積極的に参加して欲しい。											
【履修要件】											
ロシア語の読めることが望ましい（週に2回の授業で少なくとも2セメスターは履修済みのレベルで）。											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点とレポートなど提出物の総合評価を原則とする。
総合評価における割合は、到達目標と照らし合わせた上で、受講者の力量や取り組み方などを勘案し、有機的に判断するが、おおむね、半々である。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		服部 文昭 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題につき、理解を深めてゆく。											
【到達目標】											
現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題を念頭に置きつつ、読解力を高め、専門領域での情報収集能力も身につけること。											
【授業計画と内容】											
動詞のアスペクト、名詞・形容詞の格、コピュラを含む構文といったテーマを中心に、取り組む予定である。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 イン트로ダクション(承前)											
第3回 古典的なヴェンドラーの分類をめぐる問題 1											
第4回 古典的なヴェンドラーの分類をめぐる問題 2											
第5回 借用語である動詞と両体動詞との関係の問題 1											
第6回 借用語である動詞と両体動詞との関係の問題 2											
第7回 否定とアスペクトとの問題 1											
第8回 否定とアスペクトとの問題 2											
第9回 動詞のアスペクトと目的語(その格)の問題 1											
第10回 動詞のアスペクトと目的語(その格)の問題 2											
第11回 動詞のアスペクトと目的語(その格)の問題 3											
第12回 コピュラを含む構文の述部での名詞・形容詞の格の選択の問題 1											
第13回 コピュラを含む構文の述部での名詞・形容詞の格の選択の問題 2											
第14回 コピュラを含む構文の述部での名詞・形容詞の格の選択の問題 3											
第15回 フィードバック											
*フィードバックについては授業中に指示します。											
導入的な講義(2回分)の後に、各項目につき、2回ないし3回の講義で扱ってゆく予定であるが、その際に、格とアスペクトとの関係、近隣のスラヴ諸語との対照といった点にも目配りをしてゆきたい。											
単なる講義には終わらず、いくつかのカレントの論文を輪読する形式で進めてゆく。受講生諸君に割り当てる際には、本人の関心・興味と勉学・研究の進み具合を勘案の上、分担を決めようと考えているので、受講する諸君は積極的に参加して欲しい。											
-----スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

ロシア語の読めることが望ましい(週に2回の授業で4セメスターは履修済みのレベルで)。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点とレポートなど提出物の総合評価を原則とする。
総合評価における割合は、到達目標と照らし合わせた上で、受講者の力量や取り組み方などを勘案し、有機的に判断するが、おおむね、半々である。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 17

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ソ連文学・文化研究 1									
[授業の概要・目的]											
ソ連期の文学・文化は、日本ではまだあまりよく知られていません。前期はソ連期を代表する亡命文学者アンドレイ・シニャフスキー（筆名アブラム・テルツ）の論考『社会主義リアリズムとは何か』を講読しながら、この時代の文芸思潮の特徴を考えていきます。											
[到達目標]											
1) 日本であまり知られていないソ連期の文学・文化についての知識を得、理解を深める。 2) ロシア語論文の文体に触れ、これを読みこなせるようにする。											
[授業計画と内容]											
第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明します。 第2 - 14回 ロシア語論考『社会主義リアリズムとは何か』を講読しつつ、ソ連期の文学・文化・思潮について考えていきます。 第15回 まとめ 授業の進度が予定とずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
[履修要件]											
ロシア語の基本文法を理解していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
プリントを配付します。											
[参考書等]											
（参考書） 開講時ほか授業中に適宜指示します。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36											
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 松下 隆志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		ポストソ連現代ロシア文学概説											
【授業の概要・目的】													
<p>ソ連崩壊はロシア文学の在り方に大きな変動をもたらした。社会における文学の重要度が低下する一方、国の検閲から解放されたことで作家たちはかつてない表現の自由を得た。とりわけ90年代に流行したポストモダン文学は、遊戯性・暴力性・エロティシズムといった新たな要素を文学に導入し、ソローキンやペレーヴィンといった世界的に評価の高い作家を生んだ。一方、プーチン政権が誕生した00年代以降は若い世代による保守的なリアリズム文学が台頭するなど、激しい揺り戻しも見られる。</p> <p>本講義では、ポストモダン文学を中心に主に90年代から00年代のポストソ連現代ロシア文学の展開を概観するとともに、外国語（ロシア語または英語）で適宜関連する文学作品の読解を行う。</p>													
【到達目標】													
<p>(1) ポストソ連現代ロシア文学についての知識と理解を深める。</p> <p>(2) 文学作品を読解・考察する能力を養う。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 ペレストロイカ期の文学状況</p> <p>第3回 ポストモダニズムとは何か</p> <p>第4回 日本のポストモダニズム</p> <p>第5-6回 ロシアのポストモダニズム</p> <p>第7回 コンセプチュアリズムとソツツ・アート</p> <p>第8-9回 ポストモダン作家 ウラジーミル・ソローキン</p> <p>第10回 ポストモダン作家 ヴィクトル・ペレーヴィン</p> <p>第11回 ポストモダニズムの終焉と新世代のリアリズム</p> <p>第12回 ゼロ年代文学の作家たち</p> <p>第13回 探偵小説、ファンタスティカ文学</p> <p>第14回 女性文学、ノンフィクション</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業の進み具合により予定にずれが生じる可能性あり。 フィードバックの方法は授業の中で指示する。</p>													
【履修要件】													
ロシア語か英語を理解できること。													
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----													

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点30%、期末レポート70%で評価

[教科書]

適宜プリントを配付。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で紹介した小説・評論を自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識は必須ではない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ソ連文学・文化研究 2									
[授業の概要・目的]											
ソ連期の文学・文化は、日本ではまだあまりよく知られていません。後期はソ連期を代表する作家・芸術家の作品や論説の一部を講読しつつ、その変遷を時系列で追っていきます。											
[到達目標]											
ロシア語の小説や論文の文体に触れ、ロシア文学研究に必要な読解力と知識を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明します。											
第2 - 14回 代表的な作品や論考の一部を講読しつつ、ソ連期の文学・文化の変遷を追っていきます。											
第15回 まとめ 授業の進捗が予定とずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
[履修要件]											
ロシア語の基本文法を理解していること、独習でもかまいません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点50%、期末レポート50%で評価します。											
[教科書]											
プリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Valerij Grecko 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近現代のロシア文学									
【授業の概要・目的】											
19世紀から20世紀初めにかけてのロシア文学を分析する。ロシア文学の作品に親しみ、文学テキストとの付き合い方について学ぶとともに、ロシア語能力を向上させることを目的とする（授業はロシア語を主として、必要に応じて日本語も用いつつ行なわれる）。											
【到達目標】											
ロシア語能力（読解力、コミュニケーション能力）を高め、ロシア文学やロシア文化に対する理解を深めるとともに、文学理論についての知識を得る。											
【授業計画と内容】											
19世紀から20世紀の初めにかけて書かれた短編小説を原語で読み、分析する。ロシア語で書かれたテキストを精読し、それぞれの作家独自の文体や表現をじっくり味わいたい。また、分析にあたっては文学理論に関する論文を適宜参照する。文学研究にとって重要な概念や方法論についての知識を得るとともに、具体的な作品分析にどのように応用できるかを考える。授業で扱う主な作品は次の通り。											
1) 導入											
2) チェーホフ『カシタンカ』（1）											
3) チェーホフ『カシタンカ』（2）											
4) チェーホフ『ロスチャイルドのバイオリン』（1）											
5) チェーホフ『ロスチャイルドのバイオリン』（2）											
6) ハルムス『出来事』（1）											
7) ハルムス『出来事』（2）											
8) ハルムス『出来事』（3）											
9) ゴーシチェンコ『日の出の前に』（1）											
10) ゴーシチェンコ『日の出の前に』（2）											
11) ゴーシチェンコ『日の出の前に』（3）											
12) ブルガーコフ『若き医師の手記』（1）											
13) ブルガーコフ『若き医師の手記』（2）											
14) ブルガーコフ『若き医師の手記』（3）											
15) まとめ											
【履修要件】											
基本的なロシア語読解能力を有すること。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

成績は平常点30%、課題への取り組み40%、討論への貢献度30%で評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に扱うテキストにあらかじめ目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問等がある場合はメールで連絡してください。vgretchko@hotmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 2 1

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学演習									
[授業の概要・目的]											
ツルゲーネフの中短篇を読む											
[到達目標]											
1) ロシア語の読解能力を向上させる。 2) 文学テキストを分析する方法と枠組を身につける。 3) 作品の背景となっている時代と社会についての理解を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション ツルゲーネフという作家の概要とその研究の基本文献について説明します。											
第2回～第10回 後期の幻想小説『夢』を精読し、語彙、視覚イメージ、文体、作品の構造、時代的・思想的背景なども考慮に入れつつ、テキストを分析します。											
第11～14回 初期の『獵人日記』所収の短編を精読します。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
[履修要件]											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 2 2

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学演習									
[授業の概要・目的]											
ドストエフスキー『白夜』を読む											
[到達目標]											
1) ロシア語の読解能力を向上させる。 2) 文学テキストを分析する方法と枠組を身につける。 3) 作品の背景となっている時代と社会についての理解を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODakション 作家と作品、基本文献について説明します。											
第2回～第14回 ドストエフスキー初期の小説『白夜』を精読し、語彙、視覚イメージ、文体、作品の構造、時代的・思想的背景なども考慮に入れつつ、テキストを分析します。											
第15回 まとめ 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
[履修要件]											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 2 3

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学講読									
[授業の概要・目的]											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、チェーホフの戯曲『ヴァーニャ伯父さん』を読んでいます。チェーホフの戯曲は、概して構文が簡潔であり、日常的な語彙を用いているので、ロシア語の文法事項や語彙の確認に適しています。それとともに、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 ガイダンス：作品の紹介</p> <p>第2回～第15回 『ヴァーニャ伯父さん』読解</p> <p>フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
[履修要件]											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に適宜紹介します。</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
<p>次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

西洋文化学系 2 4

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中村 唯史 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学講読									
[授業の概要・目的]											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、チャーホフの戯曲『ヴァーニャ伯父さん』を読んでいます。チャーホフの戯曲は、概して構文が簡潔であり、日常的な語彙を用いているので、ロシア語の文法事項や語彙の確認に適しています。それとともに、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 ガイダンス：作品の紹介</p> <p>第2回～第15回 『ヴァーニャ伯父さん』読解</p> <p>フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
[履修要件]											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に適宜紹介します。</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
<p>次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		服部 文昭 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア語講読の基本									
【授業の概要・目的】											
名詞・形容詞はもとより、人称代名詞の格変化、さらに、関係代名詞の用法、分詞の用法などに目配りしつつ、ロシア語の文章を読み解く訓練をする。											
【到達目標】											
ロシア語の文章を読解する上での基本的な文法や構文を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション。											
第2回 イン트로ダクション。承前											
第3回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 1											
第4回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 2											
第5回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 3											
第6回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 4											
第7回 関係代名詞や分詞を含む文章を読む。 1											
第8回 関係代名詞や分詞を含む文章を読む。 2											
第9回 関係代名詞や分詞を含む文章を読む。 3											
第10回 関係代名詞や分詞を含む文章を読む。 4											
第11回 チェーホフの短編などに挑戦してみたい。 1											
第12回 チェーホフの短編などに挑戦してみたい。 2											
第13回 チェーホフの短編などに挑戦してみたい。 3											
第14回 チェーホフの短編などに挑戦してみたい。 4											
第15回 フィードバック。											
*フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
初級は履修済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価と試験の総合（おおむね、半分ずつ）。											
【教科書】											
プリントなど。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

紙媒体の辞書を用意すること。具体的なことは教室で指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		服部 文昭 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の講読(実践編)									
【授業の概要・目的】											
関係代名詞の用法、分詞の用法などに目配りしつつ、さらに、動詞の完了体、不完了体の用法などにも注意して、ロシア語の文章を読み解く訓練をする。											
【到達目標】											
ロシア語の文章を読解する上での重要な文法事項や構文を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション。											
第2回 イントロダクション。 承前。											
第3回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 1											
第4回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 2											
第5回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 3											
第6回 基本的な文法を復習しながら雑誌や新聞の記事などやさしい文章を読む。 4											
第7回 チェーホフの短編などを読む。 1											
第8回 チェーホフの短編などを読む。 2											
第9回 チェーホフの短編などを読む。 3											
第10回 チェーホフの短編などを読む。 4											
第11回 現代のロシア小説にも挑戦してみたい。 1											
第12回 現代のロシア小説にも挑戦してみたい。 2											
第13回 現代のロシア小説にも挑戦してみたい。 3											
第14回 現代のロシア小説にも挑戦してみたい。 4											
第15回 フィードバック。											
*フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
初級は履修済みが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価と試験の総合(おおむね、半分ずつ)。											
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

使用しない
プリントなど。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

紙媒体の辞書を用意すること。具体的なことは教室で指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33262 PJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Svetlana, Vinogradova 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	ロシア語
題目		ロシア語実習									
【授業の概要・目的】											
話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 日常的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 日常生活に必要な書かれた文章をすばやく理解し、自分でも作成する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。それぞれのテーマはロシアにおける実際の生活の場を想定したテキストとそれを発展させる対話、さらに練習問題からなります。一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。											
第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につけます。											
第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につけます。											
第5回～第14回 日常の生活におけるコミュニケーション能力を身につけます。日常の生活を題材とする書かれたテキストを読んで理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、またテキストの内容を要約するといった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。											
第15回 試験。											
第16回 フィードバック。											
【履修要件】											
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)

[教科書]

授業時にプリントの形で配付します。

[参考書等]

(参考書)

必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回の授業で出される課題をきちんと行ってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33262 PJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Svetlana, Vinogradova 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	ロシア語
題目		ロシア語実習									
【授業の概要・目的】											
話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 複雑な、また知的な内容の文章を理解し、自分でも作成する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。教材とするテキストは、それぞれの学生が興味を持つ分野を考慮にいれ、たとえば文学作品、文化に関するもの、ロシアの歴史に関するものといった形で選びます。日常的会話の場面だけでなく、知的な対話の場面を想定した訓練や一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。											
第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につける。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につける。 第5回～第14回 学術的・知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につけます。知的な内容の書かれたテキストを材料に、それを自由に理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、テキストの内容を要約する、といった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。また文法の知識を復習し、複雑な構文を実際に使いこなせるように身につけます。 第15回 試験。 第16回 フィードバック。											
【履修要件】											
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。前期の授業から継続して出席することが望ましいが、絶対的条件とはしません。											
----- スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。

[教科書]

授業時にプリントの形で配付します。

[参考書等]

(参考書)

必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回の授業で与えられる課題を、きちんと行ってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 13302 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		松村 朋彦 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		恋愛・友情・家族 人間関係から読むドイツ文学									
【授業の概要・目的】											
この授業では、18世紀から20世紀へといたるドイツ文学の作品を毎回1～2篇ずつ取り上げ、恋愛、友情、家族など、作品のなかで描かれる人間関係に焦点をあてて読みなおしてみたい。作家の経歴や作品の成立事情、文学史・文化史的背景や、さまざまな読みの可能性についても考察する。											
【到達目標】											
ドイツ文学の作家や作品にかんする基礎的な知識と理解を身につけるとともに、文学作品を通して人間関係について考察する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
各回のテーマと取り上げる予定の作家・作品は、次の通り。											
1 はじめに											
2 愛の諸相：ドイツ語圏の恋愛詩											
3 三角関係：ゲーテ『若きヴェルターの悩み』											
4 友愛の讃歌：シラー『歓喜に寄す』 / 『人質』											
5 水の精との結婚：フーケー『ウンディーネ』											
6 幼なじみの愛：シュトルム『みずうみ』											
7 愛と死：ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』											
8 没落する家族：マン『ブデンブローク家の人々』											
9 一方通行の愛：マン『トーニオ・クレーガー』 / 『ヴェニスに死す』											
10 愛することと愛されること：リルケ『マルテの手記』											
11 父と息子：カフカ『判決』 / 『変身』											
12 夫婦の危機：シュニッツラー『夢小説』											
13 教師と生徒：ケストナー『飛ぶ教室』											
14 愛の不可能性：ジュースキント『香水』											
15 おわりに											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
毎回の授業時にコメントペーパーを提出してもらい、その内容(50%)と期末レポート(50%)によって評価する。											
期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 13304 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学は戦争をどう描いたか									
【授業の概要・目的】											
<p>戦争を描くことは、古来、文学にとって重要なテーマでありつづけている。ドイツにおいても、たとえば巨大な災厄として人々に経験された三十年戦争、ドイツ・ナショナリズムを産んだナポレオン戦争、統一国家ドイツの出発点としての普仏戦争、もはや人間の知覚が全体像を把握することはできないものとしての第一次世界大戦、人類にとっての巨大なトラウマとなった第二次世界大戦、さらには現代のユーゴスラヴィア内戦や「対テロ戦争」に至るまで、戦争は文学作品の中でさまざまに描かれてきた。特に二度の大戦後、文学が戦争を描くことの不可能性も強く意識されるようになるが、それでも戦争は繰り返し文学作品のテーマとして取り上げられ、ドイツ人の集合的記憶を形成する不可欠の要素となっている。こうした観点から、戦争を描いたドイツ文学の作品を読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 繰り返される戦争の経験を軸にドイツの歴史について学ぶ 2. 歴史的背景を前提に、作品ごとの戦争の描かれ方の違いを把握する 3. そもそも文学は戦争を描くことができるのかを考える 											
【授業計画と内容】											
講義形式で授業を進める。各回のテーマ(予定)は以下の通り。											
第1回	イントロダクション	文学が描く戦争									
第2回	叙事詩『ニーベルンゲンの歌』	中世の戦争イメージ									
第3回	グリンメルスハウゼン『阿呆物語』	三十年戦争の経験									
第4回	ゲーテ『ヘルマンとドロテア』	フランス革命とその余波									
第5回	クライスト『サント・ドミンゴ島の婚約』	フランス革命とその余波									
第6回	ハイネ『二人の擲弾兵』	ナポレオンの評価をめぐって									
第7回	シュティフター『石さまざま』	戦争が起こらないということ									
第8回	フォンターネ『対仏戦争』	ジャーナリズムが捉えた普仏戦争									
第9回	エルンスト・ユンガー『鋼鉄の嵐の中で』	第一次世界大戦の経験									
第10回	レマルク『西部戦線異状なし』	反戦文学(?)									
第11回	トーマス・マン『魔の山』	兵士になるということ									
第12回	ハインリヒ・ベル『汽車は遅れなかった』	第二次世界大戦の経験									
第13回	ケストナー『1945年の行進曲』	引き揚げと戦後のドイツ人									
第14回	ゼーバルト『空襲と文学』	戦争の記憶									
第15回	まとめ	文学が描けるものと描けないもの									
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回の授業時に小課題を提出してもらい、平常点（50％）と期末レポート（50％）で評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業で扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ユダヤ人とドイツ									
【授業の概要・目的】											
<p>ナチス・ドイツによるホロコースト（ユダヤ人大虐殺）という歴史上の巨大な汚点を抱えるドイツにとって、「ユダヤ人」は重いテーマである。しかし、「ユダヤ人を虐殺したナチス・ドイツ」という像は、あまりにも繰り返シメディアにおいて表象された結果、かえってステレオタイプのな「悪」のイメージとして固定化されているきらいがある。この授業では、まず18世紀の啓蒙主義時代に遡り、そこからアウシュヴィッツ後に至るまでの時期にこのテーマについてドイツ語で書かれたテキストを（小説、戯曲、手紙、ノンフィクション等）なるべく多様なジャンルから取り上げ、そこでユダヤ人の存在や周囲のドイツ社会との関係がどのように描かれているかを確認し、なぜそのような描写がなされているのか、その意味を考える。</p>											
【到達目標】											
<p>ステレオタイプのな「ナチス・ドイツ＝悪」のイメージの背後にある、ユダヤ人とドイツの現実の多様な関係を歴史をひもときつつ確認する一方で、反ユダヤ主義的な言説がどのようにドイツ語圏の社会で拡散して定着していったかを知ることを通じ、排外主義やヘイトスピーチが蔓延する今日の状況に対して批判的な目を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に一つのテキストについて二回の授業をあてる。一回目の授業で作品の概要や歴史的背景について講義形式で情報提供を行い、受講者はこれを前提に当該テキストを読み、二回目の授業でディスカッションを行う。取り上げる予定のテーマは以下の通り（ただし、授業の進行速度や受講者の興味などを勘案して予定変更する場合がある）。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション　そもそも「ユダヤ人」とは誰か 第2～3回 レッシング『賢者ナータン』　啓蒙主義とユダヤ人解放 第4～5回 ドロステ＝ヒュルスホフ『ユダヤ人のブナの木』　差別の構図 第6～7回 シュニッツラー『ベルンハルディ教授』　同化と反ユダヤ主義 第8～9回 カフカ『ミレナへの手紙』　「ユダヤ人の自己嫌悪」 第10～11回 フランクル『夜と霧』　アウシュヴィッツの経験 第12～13回 リヒター『あのころはフリードリヒがいた』　誰が悪いのか？ 第14～15回 シュリンク『朗読者』　過去の罪の相対化</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

普段からマスメディアの報道を批判的な観点から（ただし全否定に陥ることなく）評価する習慣をつけておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 3 2

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		松村 朋彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間中心主義を超えて ドイツ文学の他者像									
【授業の概要・目的】											
この授業では、「人間」と「人間ならざるもの」とのあいだの境界が流動化しつつある現代の状況をふまえて、「人間」の周縁やその外部に位置する存在が、ドイツ文学のなかでどのように描かれてきたかを再検討することによって、人間中心主義を相対化する可能性を探ってみることにしたい。											
【到達目標】											
ドイツ文学の作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を通して人間中心主義とその限界について考察する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回のテーマと取り上げる予定の主な作家・作品は、次の通り。											
1 はじめに											
2 人間中心主義とその限界：レッシング『賢者ナータン』/ゲーテ『タウリスのイフィゲーニエ』/シュティフター『石さまさま』											
3 異類婚：民衆本『うるわしのメルジーナ』/フーケー『ウンディーネ』/バッハマン『去りゆくウンディーネ』											
4 動物：ヘルダー『言語起源論』/ホフマン『ある教養ある若者についての報告』/カフカ『あるアカデミーへの報告』											
5 子供：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』/シュティフター『白雲母』/グラス『ブリキの太鼓』											
6 悪魔：民衆本『ファウスト博士』/ゲーテ『ファウスト』/マン『ファウスト博士』											
7 天使：リルケ『ドゥイノの悲歌』/ベンヤミン『歴史の概念について』/ヴェンダース『ベルリン・天使の詩』											
8 幽霊：シラー『招霊妖術師』/シュトルム『白馬の騎手』/リルケ『マルテの手記』											
9 夢：ノヴァーリス『青い花』/ホフマン『磁気催眠術師』/シュニッツラー『夢小説』											
10 狂気：ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』/ホフマン『隠者セラピオン』/ビューヒナー『ヴォイツェク』											
11 犯罪：シラー『失われた名誉ゆえの犯罪者』/ホフマン『スキュデリー嬢』/ジュースキント『香水』											
12 分身：ジャン・パウル『貧民弁護士ジーベンケース』/ホフマン『悪魔の霊液』/ドロステ『鏡像』											
13 人形・人造人間：クライスト『マリオネット芝居について』/ホフマン『砂男』/ゲーテ『ファウスト』											
14 誰でもないもの：カフカ『山への遠足』/リルケ『墓碑銘』/ツェラン『讃歌』											
15 おわりに											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

ドイツ語の知識は必要としない。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 3 3

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		河崎 靖 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学入門									
[授業の概要・目的]											
印欧語の世界を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。史的言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											
[到達目標]											
言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。											
[授業計画と内容]											
ドイツ語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。											
第1回～第3回 ゲルマン語学の諸問題											
第4回～第8回 ドイツ語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論）											
第9回～第10回 ドイツ語圏の方言学											
第11回～第13回 ゲルマン語学・ドイツ語学と一般言語学											
第14回～第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
主に研究発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書）											
河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』（現代書館）											
河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』（大学書林）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材に関し、授業の前後（予習・復習）に課題を課し、授業時に発表できる準備をしよう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 3 4

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Expressionistische Literatur (I)									
【授業の概要・目的】											
In diesem Kurs sprechen wir über die deutschsprachige Literatur des Expressionismus von ihren Anfängen um 1910 bis zum Ende des Ersten Weltkriegs.											
【到達目標】											
Der literarische Expressionismus war die wichtigste neue Literaturrechtung zu Beginn des 20. Jahrhunderts. Im ersten Teil des Kurses sprechen wir darüber, wie sich der Expressionismus in seiner Frühphase von vorangegangenen und gleichzeitigen anderen Literaturrechtungen abzugrenzen versuchte und was seine stilistischen wie inhaltlichen Zielsetzungen waren. Wir lesen expressionistische Manifeste, Gedichte sowie Auszüge aus Romanen und Dramen.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche wird ein Textbeispiel eines wichtigen Autors des frühen Expressionismus vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Die Studenten erhalten alle notwendigen Informationen, mit deren Hilfe sie die Textanalyse selbst vornehmen können. 1. Woche: Vorstellung des Themas. 2. Woche: Einführung in die historischen Grundlagen des frühen Expressionismus. 3.-14. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Werke der Epoche (auch nach Absprache mit den Studenten). 15. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学習(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Expressionistische Literatur (II)									
【授業の概要・目的】											
In diesem Kurs sprechen wir über die Entwicklung der expressionistischen Literatur seit der Weimarer Republik und die Diskussion über diese Literaturrichtung in der Folgezeit.											
【到達目標】											
Zu Beginn der Weimarer Republik war der Expressionismus bereits eine etablierte Literaturrichtung. Im zweiten Teil des Kurses sprechen wir über die Entwicklungen expressionistischer Literatur bis etwa 1925, die Gründe für seine Ablösung durch andere Literaturrichtungen, die sog. "Expressionismusdebatte" sowie das Nachleben des expressionistischen Stils nach dem Zweiten Weltkrieg. Wir lesen Gedichte, Auszüge aus Romanen und Dramen sowie theoretische Texte, die sich mit dem Expressionismus auseinandersetzen.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche wird ein Textbeispiel eines wichtigen expressionistischen Autors der Zeit oder eine theoretische Auseinandersetzung mit diesem Stil vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund interpretiert. Die Studenten erhalten alle notwendigen Informationen, mit deren Hilfe sie die Textanalyse selbst vornehmen können.											
1. Woche: Vorstellung des Themas.											
2. Woche: Überblick über die historischen Entwicklungslinien.											
3.-14. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Werke der Epoche (auch nach Absprache mit den Studenten).											
15. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten. Eine Teilnahme am ersten Teil dieses Kurses ist zwar wünschenswert aber nicht unbedingt notwendig.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.											
【参考書等】											
(参考書)											
Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

（その他（オフィスアワー等））

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 3 6

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岡田 暁生 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モーツァルトの現代性について									
【授業の概要・目的】											
<p>モーツァルトは音楽史最大の「天才」として名高い。しかし天才とは何なのか、一体モーツァルトの何が、どのような意味で不滅なのであるか等については、正面から論じて来られたことはあまりない。この講義ではモーツァルトの生きた18世紀の思想的な文脈から彼の音楽の特質を明らかにする。</p>											
【到達目標】											
モーツァルトの生涯と主要作品ならびに18世紀啓蒙思想とのつながりについての基本的な知識を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>1回-3回：モーツァルトの何が比類ないのか（少年時代、天才の概念の歴史、教育パパの問題などを扱う） 4回 - 6回：天才と成熟について（ウィーン時代および自由芸術家について扱う） 7回 - 10回：「偉大」と「父性」について（主としてバッハならびにベートーヴェンとの比較） 11 - 12回：芸術作品の不滅性と賞味期限について 13 - 15回：モーツァルトと啓蒙思想（「愛」「礼節」「優美」「メランコリー」等の概念について扱う）</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。

[教科書]

使用しない
毎回レジメを配布する

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『恋愛哲学者モーツァルト』 (新潮社)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 3 7

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岡田 暁生 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モーツァルトと21世紀について									
[授業の概要・目的]											
音楽史で最大の天才として名高いモーツァルトであるが、その不滅性は作品の「美的な質」にあるだけではない。21世紀の今日なお彼の音楽は、極めてアクチュアルな時代の問いを我々につきつけてくる。この講義ではモーツァルトの音楽を通して、我々が直面している21世紀的な諸問題を考える。											
[到達目標]											
この講義ではモーツァルトに「ついて」というより、むしろモーツァルトを「通して」、現代芸術の諸問題について考える。単なる知識ではなく、身近でアクチュアルな問題について一人一人が自分自身で思索することを望む。											
[授業計画と内容]											
1 - 3回：モーツァルトを胎教に使ってはいけない（美の冷酷さおよび「人間性」の概念について）											
4 - 9回：AIはモーツァルトをシミュレーションできるか（アドリブ精神（Takt）および時間芸術の諸問題について）											
10 - 12回：音楽が時間芸術だということの意味（独創性という概念の歴史、「表現」と「提示」の違いについて）											
13 - 15回：光を追いかけるアインシュタインの夢（芸術のアクチュアリティと未来性について）											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 岡田暁生 『恋愛哲学者モーツァルト』（新潮社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		対テロ戦争とドイツ文学									
[授業の概要・目的]											
<p>2001年のアメリカ同時多発テロ(「9.11」)は、戦争というものの位置づけをめぐっても新たな時代の幕開けを印象づけた。これ以降、「テロとの戦い」を目標に掲げてアフガニスタン派兵やイラク戦争が行われたが、その正当性については議論が絶えない。誰を「敵」と定義するかはメディアの情報戦略に左右され、テロ組織の側もインターネットを通じて勢力を拡大する時代が始まったのである。</p> <p>ドイツもこの新しい形の「戦争」に否応なく巻き込まれた。アメリカ主導のイラク侵攻には批判的な距離を取ったものの、主に人道支援を目的としてアフガニスタンには多数の兵士を派遣し、結果的にドイツ兵に多数の死傷者を出したことから、ひいては徴兵制の廃止へとつながる。こうしたテーマを扱った文学作品をひもときつつ、関連する研究論文を読んでいく。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。											
第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキストの輪読と討論 第15回 まとめ											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		対テロ戦争とドイツ文学									
[授業の概要・目的]											
<p>2001年のアメリカ同時多発テロ(「9.11」)は、戦争というものの位置づけをめぐっても新たな時代の幕開けを印象づけた。これ以降、「テロとの戦い」を目標に掲げてアフガニスタン派兵やイラク戦争が行われたが、その正当性については議論が絶えない。誰を「敵」と定義するかはメディアの情報戦略に左右され、テロ組織の側もインターネットを通じて勢力を拡大する時代が始まったのである。</p> <p>ドイツもこの新しい形の「戦争」に否応なく巻き込まれた。アメリカ主導のイラク侵攻には批判的な距離を取ったものの、主に人道支援を目的としてアフガニスタンには多数の兵士を派遣し、結果的にドイツ兵に多数の死傷者を出したことから、ひいては徴兵制の廃止へとつながる。こうしたテーマを扱った文学作品をひもときつつ、関連する研究論文を読んでいく。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文または作品を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 4 0

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		松村 朋彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Rainer Maria Rilke: Die Aufzeichnungen des Malte Laurids Brigge									
[授業の概要・目的]											
この授業では、20世紀初頭のドイツ語圏を代表する詩人リルケ（1875-1926）の散文の分野における代表作『マルテの手記』（1910）を読む。この作品を読みながら、世紀転換期のドイツ語圏の文学や芸術を特徴づけるさまざまな問題について考察してみたい。											
[到達目標]											
ドイツ語で書かれた文学作品を読みこなすための語学力を身につけるとともに、世紀転換期のドイツ語圏の文学や芸術にかんする知識と理解を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 はじめに： リルケの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 テキスト講読： この作品では、詩人志望の青年マルテの大都市パリでの経験と、彼の故郷デンマークでの幼年時代の思い出が交互に語られるが、この授業では、とくに後者に焦点をあてて精読する。 第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 4 1

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学の名作を読む									
[授業の概要・目的]											
この授業では、受講者の興味と関心にしたがって、ドイツ文学の作品をいくつか選び出し、重要な箇所を抜粋して読む。どの作品を読むかについては、初回の授業時に受講者全員で協議して決定するので、初回の授業には必ず出席すること。											
[到達目標]											
ドイツ文学のさまざまな作品を読みこなすための語学力を身につけるとともに、ドイツ文学の作家や作品にかんする知識と理解を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 はじめに： 受講者全員で協議のうえ、授業で取り上げる作品を決定する。 第2回～第14回 テキスト講読： 選び出した作品のなかから重要な箇所を抜粋し、作家の経歴や作品の成立事情について解説したのち、受講者全員で輪読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 4 2

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深めるとともに、研究発表とディスカッションの技法を身につける。											
【授業計画と内容】											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回 はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。											
第2回～第6回 修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。											
第7回～第10回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第11回～第14回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第15回 おわりに： 前期の授業の総括。											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
【授業外学習(予習・復習)等】											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 4 3

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深めるとともに、研究発表とディスカッションの技法を身につける。											
【授業計画と内容】											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。 第1回～第4回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。 第5回～第6回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。 第7回～第10回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。 第11回～第15回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
【授業外学習(予習・復習)等】											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 橋本 紘樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		エーリッヒ・ケストナー 『飛ぶ教室』 (Erich Kästner: Das fliegende Klassenzimmer)									
【授業の概要・目的】											
<p>『ふたりのロツテ』『エーミールと探偵たち』などの児童小説で著名なエーリッヒ・ケストナー(1899-1974)の代表作『飛ぶ教室(Das fliegende Klassenzimmer, 1933)』をドイツ語で読む。児童小説を入り口に、ドイツ語で作品を読むことに慣れることを目標にする。</p> <p>ケストナーは児童文学作家であるだけでなく、ワイマール共和国時代には社会批判的な詩やエッセイも執筆している。そして、こういった背景から、ナチスが政権を握ると彼の著作は焚書の対象になった。</p> <p>『飛ぶ教室』は、ワイマール共和国が終わり、ナチスによる独裁が始まったまさにその転換点で書かれた著作である。授業では、ケストナーが置かれていた当時の社会・文化状況を視野に入れて読み進めることで、この物語の持つ魅力についてあらためて考えてみたい。</p> <p>最終回では、トミー・ヴィガント監督により2003年に公開された本作の映画化作品を鑑賞し、ケストナーの現代的受容についても考えたい。</p>											
【到達目標】											
ドイツ語の基本的な読解能力を身につけること。 当時の社会状況と文学の関係について理解を深めること。											
【授業計画と内容】											
ドイツ語のテキストを輪読形式で読みます。 第1回 時代背景の紹介、ケストナーの生涯と作品について解説 第2～14回 『飛ぶ教室(Das fliegende Klassenzimmer)』を読む 第15回 映画鑑賞・まとめ											
【履修要件】											
ドイツ語初級の授業を履修済みであること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(予習の有無、授業への積極的参加、ドイツ語読解力が向上したかどうか)によって評価します。											
【教科書】											
プリントを配布します。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

輪読形式で進めますので、必ず予習して出席してください。予習範囲は授業中に指定します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 4 5

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅 由紀子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		E. T. A. Hoffmann: Nussknacker und Mausekönig									
[授業の概要・目的]											
<p>19世紀前半に活躍したドイツ・ロマン派の作家E. T. A. ホフマン（1776～1822）の『くるみ割り人形とネズミの王様Nussknacker und Mausekönig』（1816）を読む。バレエや映画などの翻案によって広く親しまれている本作は、医事顧問官シュタールバウム家の幼い娘マリーがクリスマス・プレゼントとしてくるみ割り人形をもらうことから始まるメルヒェンである。大人が子供に語りかけるような文体で書かれているため、ホフマン作品の中では比較的読みやすい。</p> <p>この授業では本作の読解を通じてホフマン文学の特徴である遊戯性や幻想性を味わいながら、ドイツ語の読解力を高めることを目標とする。</p>											
[到達目標]											
ドイツ・ロマン派文学に親しむとともにドイツ語の基礎的な読解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入。E. T. A. ホフマンの生涯と作品について解説する。 第2回～第14回 ドイツ語の原文で『くるみ割り人形とネズミの王様』を読む。 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
ドイツ語初級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業は輪読形式でおこなうので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 4 6

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 森口 大地 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランツ・カフカ『流刑地にて (In der Strafkolonie)』を読む									
[授業の概要・目的]											
フランツ・カフカは日本においても名前がよく知られている作家であり、彼の作品の多くが邦訳されている。しかし、その明確で平易な文章に比べて、物語の内容は理解しづらいところがある。この授業ではカフカの『流刑地にて』(1919)の輪読を通じて、ただ単にドイツ語を読むだけでなく、物語の筋や登場人物にどのような意味があるのかを考えたい。											
[到達目標]											
ドイツ文学作品を通じて、ドイツ語の生の文章を理解できる基礎的読解力を身につけるとともに、文学研究に関する知識を深める。											
[授業計画と内容]											
輪読形式でテキストを読み進める。											
第1回 導入 作者カフカと作品『流刑地にて』の紹介 第2～14回 『流刑地にて』を読み進める 第15回 まとめ											
[履修要件]											
ドイツ語初級程度の語学力を有することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点により、文章の理解度、授業への積極的参加、授業目標の到達度に基づいて評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 辞書を必ず用意すること。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
輪読形式で進めるので、辞書を用いて指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 益 敏郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ニーチェ『ツァラトウストラはこう言った』(Nietzsche: Also sprach Zarathustra)を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>言わずと知れた思想家フリードリヒ・ニーチェ (Friedrich Nietzsche, 1844-1900) の代表作『ツァラトウストラはこう言った (Also sprach Zarathustra)』(1883-1885年)をドイツ語の原文で精読する。この作品は神の死、超人、永劫回帰の思想が述べられる哲学書ではあるものの、多くの寓話的エピソードからなるツァラトウストラの物語という形式をとっており、ドイツ語としても決して難解ではない。</p> <p>授業ではまずこの作品を通じて、ドイツ語読解力の向上を目指す。名文家として有名なニーチェの文章を、じっくり吟味しながら読み進めていきたい。さらに、個々の寓話に託された意味をそのつど考察しながら、ニーチェ思想の理解も深めたい。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語の読解力を高める 原典から内容解釈を行うための思考力を養う											
[授業計画と内容]											
輪読形式でドイツ語のテキストを読む。授業の進行予定は以下の通り。											
第1回 導入(テキスト配布。ニーチェの生涯と作品紹介)											
第2~14回 テキスト講読											
第15回 まとめ											
[履修要件]											
ドイツ語初級の授業を履修済みであること。 あるいは同程度の語学力を有すること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による評価。 テキストの理解度、予復習の有無、授業への積極的参加などから総合的に評価する。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業時に指示した範囲を、辞書等を用いてあらかじめ読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Tiergeschichten von Gustav Meyrink									
【授業の概要・目的】											
Zwischen 1901 und 1926 veröffentlichte Gustav Meyrink (1868-1932) Erzählungen in der Münchner satirischen Wochenzeitschrift "Simplicissimus", darunter auch etliche kurze Tiergeschichten, z. B. "Tschitrakarna das vornehme Kamel", "Die Geschichte vom Löwen Alois", "Das Wildschwein Veronika" und "Amadeus Knödlseher, der unverbesserliche Lämmergeier". In diesem Kurs lesen wir einige von Meyrinks Tiergeschichten und sprechen wir über ihre kulturhistorischen Hintergründe.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-13. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 14. Woche: Test 15. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75 %) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

[授業外学習(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Kölner Sagen und Legenden									
【授業の概要・目的】											
In diesem Kurs lesen wir alte Sagen und Legenden aus Köln und seiner Umgebung, die noch heute bei den Menschen im Rheinland sehr bekannt und beliebt sind, z. B. "Die kölnische Stadtmutter", "Sankt Ursula und ihre elftausend Jungfrauen", "Das Gebein der Heiligen Drei Könige", "Die Pferdeköpfe am Haus "Zum Papageien" und "Jan und Jriet". Die Studenten lernen die geschichtlichen Wurzeln der deutschen Kultur kennen und damit das Leben der Menschen heute besser verstehen.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-13. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 14. Woche: Test 15. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75%) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden im Kurs verteilt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

[授業外学習(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史A									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語のいくつかの文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語 第3回： 英語の外面史と内面史（導入） 第4回： 借用語（ラテン語を中心に） 第5回： 借用語（スカンディナヴィア語を中心に） 第6回： 借用語（フランス語を中心に） 第7回： 語形成、およびその歴史の変遷 第8回： 意味の歴史の変遷 第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史の変遷 第10回： 発音の歴史の変遷 第11回： 人称代名詞の形態全般 第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史の変遷 第13回： 指示代名詞の歴史の変遷 第14回： 関係代名詞の歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への貢献度（30%）およびレポート（70%）によって評価を行います。											
----- 系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く -----											

系共通科目(英語学)(講義A)(2)

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』 (ひつじ書房)

[参考書等]

(参考書)

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』 (中央大学出版)

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』 (CUP)

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』 (中公新書)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm> にも参考情報あります。

(関連URL)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指定する課題の担当となった人は、提示資料を準備してください。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史B									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語のいくつかの文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： 語形変化の実際 第3回： 語順の歴史の変遷と前置詞の使用の拡大 第4回： 主節と従属節の歴史の変遷 第5回： 不規則変化動詞とその歴史の変遷 第6回： 直説法と仮定法の歴史の変遷 第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史の変遷 第8回： 法助動詞の歴史の変遷 第9回： be動詞の歴史の変遷 第10回： 進行形と受動態の歴史の変遷 第11回： 完了形の歴史の変遷 第12回： 不定詞と動名詞の歴史の変遷 第13回： 否定構文の歴史の変遷 第14回： 助動詞doの歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解（言語の揺れを中心に）</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>											
【履修要件】											
<p>内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。</p>											
-----系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く-----											

系共通科目(英語学)(講義B)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への貢献度（30％）およびレポート（70％）によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

[参考書等]

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm> にも参考情報あります。

（関連URL）

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習（予習・復習）等]

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当となった人は、提示資料を準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 5 2

科目ナンバリング		U-LET18 13406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義A) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(中世から18世紀の風刺文学)									
【授業の概要・目的】											
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史の変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。今学期は風刺文学の歴史を取り上げ、ここから見えてくるこの時代の英文学全体、また、英国社会の一般的な状況を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>中世から18世紀の風刺文学を、代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な英語表現の変遷 2. 風刺と形式の関係 3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：英文学の範囲、特徴、歴史一般と文学史の関係についての解説 第2回：西洋文学における風刺文学の伝統についての解説 第3回：中世風刺文学の解説 第4回：講読(The Canterbury Tales, ‘ General Prologue ’) 第5回：同(The Canterbury Tales, ‘ The Wife of Bath ’ s Tale ’) 第6回：16世紀風刺文学の解説 第7回：講読(John Donne, Satires) 第8回：同(William Shakespeare, The Merchant of Venice) 第9回：17世紀風刺文学の解説 第10回：講読(Ben Jonson, Bartholomew Fair) 第11回：同(John Dryden, Absalom and Achitophel) 第12回：18世紀風詩文学の解説 第13回：講読(Alexander Pope, The Rape of the Lock) 第14回：同(Jonathan Swift, Gulliver ’ s Travels) 第15回：全体のまとめ 定期試験は行わない(成績評価は中間レポートと期末レポートによる)。</p>											
【履修要件】											
<p>後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。</p>											
----- 系共通科目(英文学)(講義A)(2)へ続く -----											

系共通科目(英文学)(講義A)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

中間レポート(50%)と学期末レポート(50%)により評価する。両方のレポートを提出することが単位取得の条件。題目、提出期間等詳細については授業中に指示をする。

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

喜志哲雄 『英米演劇入門』 (研究社) ISBN:978-4327375119

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱うプリント(英語)は予め配布するので、辞書を丹念に引いて内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は、扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 5 3

科目ナンバリング		U-LET18 13408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義B) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		佐々木 徹 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(小説・散文)									
【授業の概要・目的】											
英文学史上の有名な小説・散文を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について考える。											
【到達目標】											
英国小説についての一般的な基礎知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
通常、文学史は古いところから説き起こすのであるが、この講義では新しいところから遡る。少しでも馴染みのある世界から入ったほうがわかりやすいのではないかと、という発想に基づく配慮である。											
第1回 Kazuo Ishiguro 第2回 Salman Rushdie, Zadie Smith 第3回 第2次大戦後の作家たち 第4回 Graham Greene, Evelyn Waugh 第5回 George Orwell, E. M. Forster 第6回 James Joyce, Virginia Woolf 第7回 D. H. Lawrence, Joseph Conrad 第8回 Thomas Hardy, George Eliot 第9回 Charles Dickens 第10回 The Brontes 第11回 Jane Austen 第12回 ゴシック小説、歴史小説 第13回 Samuel Richardson, Henry Fielding 第14回 Daniel Defoe, Jonathan Swift 第15回 フィードバック (研究室にて授業内容に関連する質問に答える)											
【履修要件】											
前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、学期末に提出してもらったレポートによって評価する。											
----- 系共通科目(英文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(英文学)(講義B)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch 『The Concise Oxford Companion to English Literature 4th Edition』 (OUP) ISBN:978-0199608218

[授業外学習(予習・復習)等]

予習の必要はないが、授業で紹介した作家について、知的好奇心をもって、自力でどんどん読み進めるように。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜 14 : 15 ~ 15 : 15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Donne, La Corona Sonnets, Holy Sonnets研究									
【授業の概要・目的】											
初期近代イングランドを代表する詩人の一人であるJohn Donneが書いた宗教詩の内、La Corona SonnetsとHoly Sonnetsに解説を加えながら精読し、詩中で提示される諸問題を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・初期近代の詩（特にソネット形式の詩）の読み方を身につける。 ・John Donneの詩言語の特徴を理解し、そのリズムを身につける。 ・授業で扱う詩に描かれた宗教と英文学の関係を理解する。 											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション John Donne並びに授業で扱う詩の解説 第2回：La Corona Sonnets 1 / 2 の精読と解釈 第3回：La Corona Sonnets 3 / 4 の精読と解釈 第4回：La Corona Sonnets 5 / 6 の精読と解釈 第5回：La Corona Sonnet 7 / Holy Sonnet 1 の精読と解釈 第6回：Holy Sonnets 2 / 3 の精読と解釈 第7回：Holy Sonnets 4 / 5 の精読と解釈 第8回：Holy Sonnets 6 / 7 の精読と解釈 第9回：Holy Sonnets 8 / 9 の精読と解釈 第10回：Holy Sonnets 10 / 11 の精読と解釈 第11回：Holy Sonnets 12 / 13 の精読と解釈 第12回：Holy Sonnets 14 / 15 の精読と解釈 第13回：Holy Sonnets 16 / 17 の精読と解釈 第14回：Holy Sonnets 18 / 19 の精読と解釈 第15回：全体のまとめ フィードバックについては授業中に指示をする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
第3 - 15回は毎回授業の冒頭に、前週扱った詩を暗記してきたものを筆記し、解釈とともに提出する。この提出物によって評価をする。正当な理由がなく2回提出がなかった場合または白紙（もしくは白紙に近いと判断されるもの）が提出された場合は、単位は与えられない。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

定期試験は行わない。

[教科書]

John Donne 『John Donne ' s Poetry (Norton Critical Text)』 (W.W.Norton) ISBN: 978-0393926484

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

各回に割り当てたソネットについては、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで、指定された暗記をすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		佐々木 徹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語圏の小説理論と批評									
【授業の概要・目的】											
英語の小説理論をヘンリー・ジェームズから説き起こすと共に、小説批評の実践例をいくつか取り上げて精査する。											
【到達目標】											
小説理論に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、小説を批評するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回：序論											
第2回：ヘンリー・ジェームズ「小説の芸術」 前半の解説											
第3回：ヘンリー・ジェームズ「小説の芸術」 後半の解説											
第4回：ヴァーノン・リーの小説論											
第5回：パーシー・ラボックの小説論											
第6回：ウェイン・ブースの小説論『小説の修辞学』 前半の解説											
第7回：ウェイン・ブースの小説論『小説の修辞学』 後半の解説											
第8回：イアン・ワットによる『大使たち』論 前半の解説											
第9回：イアン・ワットによる『大使たち』論 後半の解説											
第10回：レオ・シュピッツァーの文体論 序論											
第11回：レオ・シュピッツァーの文体論 発展的解説											
第12回：デイヴィッド・ロッジの小説批評 序論											
第13回：デイヴィッド・ロッジの小説批評 発展的解説											
第14回：まとめ											
第15回：フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、学期末レポートによって評価する。											
【教科書】											
必要に応じてプリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

望まれる予習、復習については授業中に説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化的空間としてのカリフォルニア									
【授業の概要・目的】											
<p>様々な文化が相互嵌入する空間としてのカリフォルニアを描いた英語テキストを通じて、アメリカ文化の多様性、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。異文化交流の実践の一環として、本学の留学生あるいは文学部外国人教員を招請し、異文化に身を置くことについて、受講生も交えて英語でのパネルディスカッションを行い、異文化間コミュニケーションの理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：【序論】 20世紀初頭におけるカリフォルニアの初期の移民文化を描出する英語テキストを読み、その歴史と発生を確認する</p> <p>第2回：【移民コミュニティの様相】 1930年代から1940年代にかけてのカリフォルニアにおける日系移民のコミュニティの在り方を学ぶために、トシオ・モリ “ The Woman Who Makes Swell Doughnuts ” を読む</p> <p>第3回：【移民の価値観】 1930年代から1940年代にかけてのカリフォルニアにおける日系移民の思想的側面を学ぶために、トシオ・モリ “ The Seventh Street Philosopher ” を読む</p> <p>第4回：【移民の娯楽文化】 1930年代から1940年代にかけてのカリフォルニアにおける日系移民の娯楽文化を学ぶために、トシオ・モリ “ Toshio Mori ” を読む</p> <p>第5回：【祖国と移住先における女性の地位】 中国本土およびサンフランシスコの中華街における女性の社会的位置を、マキシン・ホン・キングストンの “ No Name Woman ” の読解を通じて検討する</p> <p>第6回：【移民の伝統継承】 中国系アメリカ人女性による中国本土の伝承文化の再構築の方法をマキシン・ホン・キングストン “ White Tigers ” の読解を通じて検討する</p> <p>第7回：【移民一世と移民二世の世代間の衝突】 マキシン・ホン・キングストン “ A Song for a Barbarian Reed Pipe ” に描かれる中国系移民一世と二世の対立を読むことで、世代間の相互理解に向けての課題を把握する</p> <p>第8回：【異文化体験についてのパネルディスカッション】 前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、本学の留学生等、外国から来た人々と英語で意見交換を行う</p> <p>第9回：【移民のユース・カルチャー】 1930年代のアルメニア系移民の若者像をウィリアム・サロイヤン “ The Daring Young Man on the Flying Trapeze ” の読解を通じて理解する</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

第10回：【移民の自己定位】1930年代のアルメニア系移民がどのようにアメリカ社会においてアイデンティティを確立するののかということ、ウィリアム・サロイヤン “Seventy Thousand Assyrians” を通じて考察する

第11回：【異なる出自の移民間交流】1930年代におけるアルメニア系移民とフィリピン系移民の異文化間交流の様子を、ウィリアム・サロイヤン “The Filipino and the Drunkard” を通じて理解する

第12回：【アメリカの自然と禅思想】カリフォルニアのサンタルチア高地を背景に、日本の禅文化とアメリカの自然についての関わりを、ゲイリー・スナイダー “The Etiquette of Freedom” を読むことで理解する

第13回：【人間と自然の共存】カリフォルニアの自然と人間の健全な関わり合いの在り方を考察したゲイリー・スナイダー “Blue Mountains Constantly Walking” を読み、環境問題について検討する

第14回：【異種族間交流】動物と人間の関係性について、ゲイリー・スナイダー “The Woman Who Married a Bear” を読むことで理解する

第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としてのカリフォルニアを包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回で取りあげる。発表は担当するテキストに関するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

テキストはすべてウェブにアップロードする

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

事前にテキストを必ず読んでから授業に参加すること。内容確認のために毎回小テストを行う予定。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。 ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。 ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

性を探る

第14回：翻訳の限界と可能性（2）：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（60％）と期末の翻訳課題（40％）を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』（Penguin）ISBN: 978-0241954300

[授業外学習（予習・復習）等]

各回、こちらで指定した英文テキスト（短めのもの）を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメールで提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		谷口 一美 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 ・ 大学院生を主体とした授業であるため、受講者多数の場合は履修制限を設ける場合がある。 											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末のレポート(70%)、授業への取り組みの状況(30%)から総合的に評価する。

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		谷口 一美 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。											
第1回：イントロダクション 第2-3回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化 第4-5回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性 第6-7回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー 第8-9回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ 第10-11回：イメージ・スキーマと言語の意味 第12-13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 ・ 大学院生を主体とした演習授業であるため、受講者多数の場合は履修制限を設ける場合がある。 											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポート (70%)、授業への取り組みの状況 (30%) から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

【授業外学習（予習・復習）等】

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		水野 尚之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Herman MelvilleのMoby-Dickを読む。									
【授業の概要・目的】											
1 9世紀アメリカ文学を代表する作家Herman Melvilleの大作Moby-Dickは、その複雑な成立事情、時代背景、象徴性などにより、これまでに様々な解釈がなされてきた。2 1世紀の読者である我々がこの作品を読む時、どのような読み方が可能か考える。学期末に各自の作品解釈をレポートにまとめることを課す。論文・レポートの書き方も指導する。											
【到達目標】											
1 9世紀アメリカ文学を代表する作家Herman MelvilleのMoby-Dickを精読し、作品についての様々な解釈を試みる。資料収集の方法も学ぶ。											
【授業計画と内容】											
授業では毎回10章を目安に読み進む。											
第1回 Melville文学を概観する。											
第2回 第1章～第10章を精読する。											
第3回 第11章～第20章を精読する。											
第4回 第21章～第30章を精読する。											
第5回 第31章～第40章を精読する。											
第6回 第41章～第50章を精読する。											
第7回 第51章～第60章を精読する。											
第8回 第61章～第70章を精読する。											
第9回 第71章～第80章を精読する。											
第10回 第81章～第90章を精読する。											
第11回 第91章～第100章を精読する。											
第12回 第101章～第110章を精読する。											
第13回 第111章～第120章を精読する。											
第14回 第121章～第130章を精読する。											
第15回 Moby-Dickについての様々な解釈を紹介する。レポートの書き方についての 資料を配布する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常の授業への取り組み(50%)と学期末レポート(50%)により、総合的に評価する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
テキストは主として授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回扱う章について、十分に予習をして授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日、金曜日の昼休み(12時から13時)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		水野 尚之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文芸表象論									
【授業の概要・目的】											
Herman Melvilleの短編小説を読む。 “ Moby-Dick”の作者Herman Melvilleの短編“The Piazza”、“ Bartleby”、“ Benito Cereno”、“ The Lightning-Rod Man ”、“ The Encantadas or Enchanted Isles”、“ The Bell-Tower”を精読する。寓意性、象徴性、作家の自伝的要素、時代背景、ロマン主義的要素など、多様な観点からの分析が可能な作品である。学期末にレポートを課す。											
【到達目標】											
1 9世紀中葉のやや古いアメリカ英語の書き物を読みこなす力をつける。 アメリカ文学の作品を、明確な方法論によって分析し、レポートにまとめる能力を養う。											
【授業計画と内容】											
比較的短い作品は、2回ほどの授業で扱う。訳読を主とするが、参考・補助資料も適宜読む。学期末のレポート（どれか2作品について論じる）に備える。 第1回 メルヴィルの文学を概観する。 第2～3回 “The Piazza”を精読する。 第4～5回 “Bartleby”を精読する。 第6～8回 “Benito Cereno”を精読する。 第9～10回 “The Lightning-Rod Man”を精読する。 第11～13回 “The Encantadas or Enchanted Isles”を精読する。 第14～15回 “The Bell-Tower”を精読する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常の授業への取り組み（50％）と学期末のレポート(50%)により、総合的に評価する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
テキストは主として授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱う章や論文について、十分に予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日、金曜日(12時~13時)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Chaucer研究									
【授業の概要・目的】											
<p>イギリス中世期最大の詩人ジェフリー・チョーサー (Geoffrey Chaucer 1343?-1400)の代表作『カンタベリー物語』(The Canterbury Tales)から「バースの女房の物語」(The Wife of Bath's Tale)を取り上げて精読し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語に親しむこと ・チョーサーの英語を手掛かりに、英語史で学んだ事項を検証すること ・チョーサー文学の特質、その背後にある世界観を理解すること <p>をめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語を理解するために必要な事項（音韻・形態・語彙・統語・意味・文体等）を学びながら、彼の詩作の技法を探求すること ・辞書(OED, MED)や諸注釈書を丹念に参照しながらテキストと向き合う態度を身につけること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること <p>を目標にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 英語史の復習 第2回 『カンタベリー物語』の写本と刊本 第3回 チョーサーの英語概観 第4回 辞書の引き方 第5回 「総序の歌」(General Prologue)におけるバースの女房 第6回～第7回 「バースの女房の序」精読(1) 第8回 チョーサーの英語(1) - 発音と綴り字 第9回～第10回 「バースの女房の序」精読(2) 第11回 チョーサーの英語(2) - 代名詞 第12回～第13回 「バースの女房の序」精読(3) 第14回 チョーサーの英語(3) - 否定構文 第15回 まとめ</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

「特殊講義」ではあるが、テキストの精読を重視するので受講者には事前の準備が求められる。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点およびレポートで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

【教科書】

Larry D. Benson (gen. ed.) 『_The Riverside Chaucer_ 3rd edn』 (Oxford University Press) ISBN:978-0199552092

Riverside版以外のテキストの使用も歓迎する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

【授業外学習(予習・復習)等】

・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

・受講にあたっては入念な下調べが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Chaucer研究									
【授業の概要・目的】											
イギリス中世期最大の詩人ジェフリー・チョーサー (Geoffrey Chaucer 1343?-1400)の代表作『カンタベリー物語』(The Canterbury Tales)から「バースの女房の物語」(The Wife of Bath's Tale)を取り上げて精読し、											
<ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語に親しむこと ・チョーサーの英語を手掛かりに、英語史で学んだ事項を検証すること ・チョーサー文学の特質、その背後にある世界観を理解すること 											
をめざす(前期からの継続)。											
【到達目標】											
この授業では、											
<ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語を理解するために必要な事項(音韻・形態・語彙・統語・意味・文体等)を学びながら、彼の詩作の技法を探求すること ・辞書(OED, MED)や諸注釈書を丹念に参照しながらテキストと向き合う態度を身につけること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること 											
を目標にする。											
【授業計画と内容】											
第1回 前期の復習											
第2回～第3回 「バースの女房の序」精読(4)											
第4回 チョーサーの英語(4) - 非人称構文											
第5回～第6回 「バースの女房の物語」精読(1)											
第7回 チョーサーの英語(5) - 語彙											
第8回～第9回 「バースの女房の物語」精読(2)											
第10回 チョーサーの英語(6) - 語順											
第11回～第12回 「バースの女房の物語」精読(3)											
第13回 チョーサーの英語(7) - 詩作の技巧											
第14回 Marriage Groupにおける「バースの女房の物語」の位置											
第15回 まとめ											
「特殊講義」ではあるが、テキストの精読を重視するので受講者には事前の準備が求められる。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点およびレポートで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

【教科書】

Larry D. Benson (gen. ed.) 『_The Riverside Chaucer_ 3rd edn』 (Oxford University Press) ISBN:978-0199552092

Riverside版以外のテキストの使用も歓迎する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

【授業外学習(予習・復習)等】

・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

・受講にあたっては入念な下調べが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 出口 菜摘 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Margaret Atwoodの詩と評論を読む									
【授業の概要・目的】											
この授業ではカナダの作家・詩人であるMargaret Atwoodの詩集Power Politics(1971)に収録された作品を読解・考察し翻訳する。作品にあらわれるモチーフやイメージ、文体上の特徴に注意を払うことで、作品のテーマに接近し、その上で翻訳においてはどのような日本語を選択するかについて議論する。アトウッドの問題意識や批評態度を確認するために、評論やインタビューも読み進める。授業は講義方式を基本とするが、適宜ディスカッションを導入する。											
【到達目標】											
Margaret Atwoodの詩・評論を読み解く読解力を身につける。また、作品の文体上の特徴や修辭的技法を踏まえたうえで、独自の視点で作品全体を考察する力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . He reappears 2 . She considers evading him 3 . They eat out(1) 4 . They eat out(2) 5 . 評論 6 . Their attitudes differ 7 . They travel by air(1) 8 . They travel by air(2) 9 . インタビュー記事 10 . Small tactics 11 . There are better ways of doing this(1) 12 . There are better ways of doing this(2) 13 . He shifts from east to west(1) 14 . He shifts from east to west(2) 15 . 期末レポート・フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点60%(出席状況、コメントやディスカッション等)と期末レポート40%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。											
【教科書】											
Margaret Atwood 『Power Politics:Poems』 (List) ISBN:1487004559 (各自準備のこと) 評論については初回授業でプリントを配布する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

テキストを精読のうえで問題点とテーマを整理し、日本語訳を用意すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 文学部 教授 西山 けい子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		The Scarlet Letterにおける嘘・欺瞞・真実									
【授業の概要・目的】											
HawthorneのThe Scarlet Letterを読み、そこに現れる嘘、欺瞞、秘密、真実という主題について考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Hawthorneの代表作を読んで、文体および作品構成の特徴について説明できる。 ・ The Scarlet Letterにおける嘘と真実のテーマについて考察を深める。 ・ 作品を解釈するにあたって、「嘘」の言説についての批評的アプローチを知る。 ・ 個別の作品から普遍的なテーマを取り出すことができる。 											
【授業計画と内容】											
導入として短編をひとつ読んで主要なポイントを講義したあと、受講生からのコメントを受けて細部を検討し、議論しながら理解を深めていきたい。											
第1回: 導入 "Wakefield"											
第2回: The Custom-House / I. The Prison-Door											
第3回: II. The Market-Place / III. The Recognition											
第4回: IV. The Interview / V. Hester at her Needle											
第5回: VI. Pearl / VII. The Governor's Hall											
第6回: VIII. The Elf-Child and the Minister / IX. The Leech											
第7回: X. The Leech and his Patient / XI. The Interior of a Heart											
第8回: XII The Minister's Vigil / XIII. Another View of Hester											
第9回: XIV. Hester and the Physician / XV. Hester and Pearl											
第10回: XVI. A Forest Walk / XVII. The Pastor and his Parishioner											
第11回: XVIII. A Flood of Sunshine / XIX. The Child at the Brook-Side											
第12回: XX. The Minister in a Maze / XXI. The New England Holiday											
第13回: XXII. The Procession / XXIII. The Revelation of the Scarlet Letter											
第14回: XXIV. Conclusion											
第15回 まとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(50%)、レポート(50%)により評価する。
平常点とは、コメントシートの提出および授業での発言、参加度を総合的に評価するもの。レポート課題については、授業内で具体的に指示する。

[教科書]

Nathaniel Hawthorne 『The Scarlet Letter』 (Penguin Classics) ISBN:0143107666

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

指定された作品を読んで、コメントや質問を用意したうえで、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 文学研究科		メドロック 麻弥 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov研究 -- Transparent Thingsを読む									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)晩年の英語小説 Transparent Things (1972)を精読し、Nabokovの文章技法を学ぶ。											
【到達目標】											
比較的難解な英文を読み解く想像力と思考力を習得する Nabokovの文体について説明することができるようになる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 Transparent Things 1-3章											
第3回 Transparent Things 4-5章											
第4回 Transparent Things 6-8章											
第5回 Transparent Things 9-10章											
第6回 Transparent Things 11-12章											
第7回 Transparent Things 13-14章											
第8回 Transparent Things 15-16章											
第9回 Transparent Things 16-17章											
第10回 Transparent Things 18-19章											
第11回 Transparent Things 20-21章											
第12回 Transparent Things 22-23章											
第13回 Transparent Things 24-25章											
第14回 Transparent Things 26章											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Vladimir Nabokov 『Transparent Things』 (Penguin Classics) ISBN:10: 9780141198040

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

毎回テキストを7 - 8ページほど読み進めます。自分なりの日本語訳ができるように、指定範囲を毎回予習して授業にのぞんでください。難しめの英語ですので、個人差はありますが予習には時間がかかります。訳の難しいところにはゆっくり時間をかけて、丁寧に取り組むよう心がけてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 文学部 准教授 藤井 光 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		2018年のアメリカ短編小説を翻訳する									
【授業の概要・目的】											
現代アメリカ作家たちの短編小説のなかで、2018年に出版されたものを取り上げ、読解を交えながら翻訳を試みていく。作品に書き込まれた社会問題に対する視点はどのようなものかを確認しながら、それを日本語に表現する際のさまざまな問題について、翻訳実践を通じて探求する。											
【到達目標】											
翻訳の作業を通じて、英語を正確に読み取れるようになること。 翻訳における社会背景などのリサーチを正確に行えるようになること。 現代アメリカ作家の作風としての寓話性や政治・社会意識を把握できるようになること。											
【授業計画と内容】											
一作品を4~5回かけて翻訳していく。 第一回 イントロダクション 第二回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(1)"Black Lives Matter"と作家たち 第三回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(2)翻訳ディスカッション1 第四回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(3)翻訳ディスカッション2 第五回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(4)翻訳ディスカッション3 第六回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (1)移住と日本 第七回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (2)翻訳ディスカッション1 第八回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (3)翻訳ディスカッション2 第九回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (4)翻訳ディスカッション3 第十回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (1)南アジア作家とジェンダー 第十一回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (2)翻訳ディスカッション1 第十二回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (3)翻訳ディスカッション2 第十三回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (4)翻訳ディスカッション3 第十四回 番外編：Sabrina Orsh Mark (1)ユダヤ作家の世紀 第十五回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点100%(各作品の翻訳およびディスカッション参加)											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

適宜プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

それぞれの作品を事前に読み、指定箇所を翻訳してくること。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先については、初回時の授業で配布する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院 文学研究科 教授 文学研究科		服部 典之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		女の一生－18世紀イギリス小説の女性主人公ロクサーナの生き様									
【授業の概要・目的】											
<p>ダニエル・デフォーの作品と言えば『ロビンソン・クルーソー』が最も有名だが、実は女性主人公の物語の傑作も書いている。本講義では2017年の講義で取り上げた『モル・フランダース』と並び立つ『ロクサーナ』(1724)を取り上げる。ロクサーナはこの作品の女性主人公であり、18世紀イギリスの女性、特に庶民の女性がどう生きたかについての厳しい状況を知ることができる。もちろん実を踏まえたフィクションであるし、劇的な浮き沈みの物語とすることで当時の読者に受容されたわけだから、この「虚」のおもしろさの根幹を読解することも目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>文学作品の読解は、文法的表面的なものだけでは不十分で、社会的状況、文学伝統、作者の特質など、極めて多層的な視線で読まなくてはならない。18世紀の女性を描いた小説を読解することで、受講生は18世紀文化への理解を深めることができる。また、特に女性の自立に関して、文学作品としては、イギリス史で初めて極めてラディカルな発言を行っている。このラディカルさに関して、現代の女性像に照らしてどのようなことが考えられるかについて受講生は洞察を得ることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>『ロクサーナ』は比較的長い作品なので、授業では前期に前半、後期に後半について講義を行う。ページ数を授業回数で割って着実に進んでいく。(前期1・イントロダクション、2～15・1頁～156頁。後期1～15・157頁～330頁)、プラス・フィードバック。講義であるから受講生を授業中に指名して意見を求めたり議論をしたりはしないが、毎回授業の終わりにコメントペーパーを書いてもらい、質問や感想を記入してもらい、それを次回の講義でフィードバックする。論点に関しては、その回ごとにテーマを設定する。</p>											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>コメントペーパーを重視することもあり、出席は必須である(やむを得ない事情があるときはあらかじめ通知すること)。授業参加が40パーセント、期末に書いてもらうレポートが60パーセントで授業評価を行う。</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義) (2)

[教科書]

Daniel Defoe 『Roxana』 (Oxford University Press, Reissued 2008) ISBN:978-0-19-953674-0

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

(その他 (オフィスアワー等))

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院 文学研究科 教授 文学研究科		服部 典之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		女の一生－18世紀イギリス小説の女性主人公ロクサーナの生き様									
【授業の概要・目的】											
<p>ダニエル・デフォーの作品と言えば『ロビンソン・クルーソー』が最も有名だが、実は女性主人公の物語の傑作も書いている。本講義では2017年の講義で取り上げた『モル・フランダース』と並び立つ『ロクサーナ』(1724)を取り上げる。ロクサーナはこの作品の女性主人公であり、18世紀イギリスの女性、特に庶民の女性がどう生きたかについての厳しい状況を知ることができる。もちろん実を踏まえたフィクションであるし、劇的な浮き沈みの物語とすることで当時の読者に受容されたわけだから、この「虚」のおもしろさの根幹を読解することも目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>文学作品の読解は、文法的表面的なものだけでは不十分で、社会的状況、文学伝統、作者の特質など、極めて多層的な視線で読まなくてはならない。18世紀の女性を描いた小説を読解することで、受講生は18世紀文化への理解を深めることができる。また、特に女性の自立に関して、文学作品としてはイギリス史で初めて極めてラディカルな発言を行っている。このラディカルさに関して、現代の女性像に照らしてどのようなことが考えられるかについて受講生は洞察を得ることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>『ロクサーナ』は比較的長い作品なので、授業では前期に前半、後期に後半について講義を行う。ページ数を授業回数で割って着実に進んでいく。(前期1・イントロダクション、2～15・1頁～156頁。後期1～15・157頁～330頁)、プラス・フィードバック。講義であるから受講生を授業中に指名して意見を求めたり議論をしたりはしないが、毎回授業の終わりにコメントペーパーを書いてもらい、質問や感想を記入してもらい、それを次回の講義でフィードバックする。論点に関しては、その回ごとにテーマを設定する。</p>											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>コメントペーパーを重視することもあり、出席は必須である(やむを得ない事情があるときはあらかじめ通知すること)。授業参加が40パーセント、期末に書いてもらうレポートが60パーセントで授業評価を行う。</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Daniel Defoe 『Roxana』 (Oxford University Press, Reissued 2008) ISBN:978-0-19-953674-0

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

(その他 (オフィスアワー等))

授業は原則として日本語で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 7 0

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目	Elementary Academic Writing in the Humanities										
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
This class's primary goal is improvement of skills related to academic writing. At the completion of the class, students who have successfully understood, practiced and mastered these skills will be able to formulate and organize their ideas for an essay, work through successive drafts or versions of the essay, engage in self- and peer-editing, and to revise their writing through these stages.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous one, meaning that regular attendance is necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook and other times being editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by instruction in rhetorical language or grammar related to specific types of essay writing.											
The semester will be almost equally divided into three study units: moving from paragraph to short essay writing, descriptive essays, and finally narrative essays.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There are no examinations as this is a writing class.											
Evaluation will be decided in the following way: Attendance 26% Homework in the textbook 26% Completed essays 48%											
【教科書】											
A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay』 (Oxford University Press) Students are not required to purchase a textbook for the course. The instructor will provide materials on a											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

weekly basis.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion the following week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
The class's primary goal remains, as in the first semester, an improvement of skills related to academic writing.											
Building on the foundation built during the spring term, students will continue to structure, compose and refine essays from conceptual to finished stages.											
At the completion of the course, students will have increased the varieties of essays they have written, which will give them not only expertise, but confidence to go on to longer essays. They will be able to more independently formulate longer essays from start to completion, and will have increased their critical thinking.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous week's, making regular attendance necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework, which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook, other times editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by introduction of rhetorical language or grammar presentations related to specific types of essays.											
The class will be divided into three study units, focussing on three types of essays: Opinion, Compare and Contrast, and Cause and Effect.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There are no examinations for this writing class.											
Evaluation will be determined as follows: Attendance 26%											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

Homework in the textbook 26%
Completed Essays 48%

[教科書]

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay』 (Oxford University Press)
Students should bring the textbook to the first class as well as always bring a dictionary to be used when writing.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹村 はるみ 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代初期英文学における騎士道ロマンスの系譜									
【授業の概要・目的】											
<p>中世の騎士道ロマンスや19世紀のゴシック・ロマンス、果ては現代のファンタジー文学やライトノベルに至るまで、波瀾万丈の恋を描いた物語を基軸とするロマンスは、長い歴史の中で様々な姿を変えて逞しく生き延びてきた不撓不屈の文学ジャンルと言える。本講義では、ロマンスの原型である騎士道ロマンスが近代初期イングランドにおいて迎える発展と変容のプロセスを概観すると共に、想像文学(imaginative literature)の髄として騎士道ロマンスを位置づけ、様々な概念、作品構造、主題とモチーフの比較分析を行う。また、騎士道ロマンスの受容のあり方を文化史的に捉えることを通して、文学と大衆文化の双方向的関係について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 多種多様なジャンルの文学作品を英語で読解する力を身につける。 (2) 複数の作品を主題や構造といった文学的観点から比較分析し、作品の特性を実証主義的に考察する力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ロマンスとは何か？ 第2回 ロマンス事始め アーサー王伝説と騎士道ロマンス 第3回 騎士の恋 ロマンス的恋愛の奥義 第4回 魔女が棲む島ールネサンスの幕開けとイタリアの騎士道ロマンス 第5回 ロマンスの船は地球をめぐる一大航海時代のファンタジー 第6・7回 ロマンシング・イングランド 女王の時代とそのロマンス 第8回 騎士達の闘争 政治化するロマンス 第9・10回 異性装の騎士 騎士道ロマンスのジェンダー論 第11回 遁走する騎士 牧歌との混淆 第12回 ロマンスは誰のものか 読者層の問題 第13・14回 異形の騎士の誕生 騎士道ロマンスの社会的拡散 第15回 ロマンスの展望</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義で扱った作品ないしテーマに関するレポート（60点）。 ・ 授業中に行うディスカッションへの貢献度などの平常点（40点）。 											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
教科書は使用せず、教員が作成した資料を授業時に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

本講義では多岐に亘る作品や文化的事象を取り扱う予定なので、復習の際には、授業時に紹介する参考文献を活用しながら、理解を深めることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 阿部 公彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	英米詩入門										
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は英詩への入門を目指します。英語で書かれた詩を読むためのコツや、詩について語るときに気をつけたいポイントなどについて考えつつ、受講者にも実践的に読みのプロセスに参加してもらいます。</p> <p>教科書の該当箇所を元に話を進め、追加の詩作品も配って知識を深めてもらえればと思います。英米の作品から代表的なものをえらんで見ていくことで、ある程度文学史的な知識も身につけてもらえればと思います。</p> <p>今まであまり詩に接する機会がなかった人でもついていけるような授業にするつもりです。</p>											
【到達目標】											
詩とは何か、詩の機能とは何かといったことについて理解を深め、言語一般の根本にあるものについても考察を進めます。											
【授業計画と内容】											
1日目：1-2章(英詩の「うれしさ」など) 2日目：3章(英詩と「失敗」) 3日目：4章(英詩と「問答」) 4日目：5章(英詩と「権威」)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表・ディスカッションへの貢献度 60% レポート 40%											
【教科書】											
阿部公彦 『英詩のわかり方』(研究社) ISBN:978-4-327-48150-6											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://abemasahiko.my.coocan.jp/> (講師のHPです。必要に応じて参照してください。資料などは「授業」のページにアップします。)

[授業外学習(予習・復習)等]

教科書の該当箇所と、事前に指定した作品は目を通しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23432 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	文法化入門										
【授業の概要・目的】											
P. Hopper & E. C. Traugott の Grammaticalization を読みながら、文法化を歴史的な視点から概観します。											
【到達目標】											
文法化を概観し、文法化に特徴的な現象としてどのようなものがあるかを学びます。主に英語を議論の題材としますが、文法化の枠組みがさまざまな言語に応用可能であることを具体的な事例を通して理解することを目標とします。											
【授業計画と内容】											
1回目 インTRODクシヨン 2回目～8回目 以下の作業の組み合わせによって進めていきます。 ・指定した教科書の講読 ・参考図書、関連する論文の講読 ・テーマごとに1名以上からなるグループによるプレゼンテーション											
【履修要件】											
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
プレゼンテーションおよび授業への貢献度(70%)、簡易なレポート(30%)によって評価を行います。											
【教科書】											
教科書としては、P. Hopper & E. C. Traugott, Grammaticalization (CUP) を使用しますが、図書館のものを使用していただいてもかまいません。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

保坂道雄 『文法化する英語』 (開拓社)

秋元実治・保坂道雄 『文法化 新たな展開』 (英潮社)

秋元実治・他 『コーパスに基づく言語研究 文法化を中心に』 (ひつじ書房)

(関連URL)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習(予習・復習)等]

プレゼンテーションは集中講義期間内に、レポートは授業終了後に提出することになります。プレゼンテーションの準備を短時間で行うことが必要になりますので、期間中はできるだけ集中して授業の準備をする時間を確保するようにしてください。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習 I) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会言語学入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Graeme Trousdale (著) の An Introduction to English Sociolinguistics を講読し、言語を社会という視点から観察する力を養うとともに、両者のかかわりについての理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第 1 回： イントロダクション 第 2 回： 英語と方言 第 3 回： 世界における英語の役割 第 4 回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論 第 5 回： 方言研究の手法と社会言語学 第 6 回： 英語のスタイル 第 7 回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論 第 8 回： 言語変化が意味するもの 第 9 回： 言語変化と社会的要因 第 10 回： 言語接触全般 第 11 回： ピジン・クレオール・コード切り換え 第 12 回： 社会言語学と言語理論 第 13 回： 言語のコミュニティーとネットワーク 第 14 回： 言語計画 第 15 回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への貢献度 (40%) およびレポート (60%) によって評価を行います。											
【教科書】											
Graeme Trousdale 『An Introduction to English Sociolinguistics』 (Edinburgh University Press)											
----- 英語学英文学(演習 I)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)

Sali Tagliamonte 『Analysing Sociolinguistic Variation』 (CUP)

(関連URL)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習(予習・復習)等]

教科書の予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		William Caxtonの英語									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
William Caxtonの翻訳によるテキストParis and Vienneの講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法											
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項											
第3回： Paris and Vienneの講読および初期印刷本の特徴											
第4回： Paris and Vienneの講読および中英語の綴り字											
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第6回： Paris and Vienneの講読および中英語の語順											
第7回： Paris and Vienneの講読および中英語の名詞・形容詞											
第8回： Paris and Vienneの講読および中英語の代名詞全般											
第9回： Paris and Vienneの講読および中英語の語彙											
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第11回： Paris and Vienneの講読および中英語の前置詞											
第12回： Paris and Vienneの講読および中英語の副詞											
第13回： Paris and Vienneの講読および中英語の助動詞											
第14回： Paris and Vienneの講読および中英語の動詞											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への貢献度(40%)およびレポート(60%)によって評価を行います。											
【教科書】											
Early English Books Online(京都大学図書館所蔵)等を使用します。											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習 I)(2)

[参考書等]

(参考書)

Norman Davis 『Chaucer Glossary』 (Oxford University Press)

(関連URL)

<http://homepage3.nifty.com/iyeyiri/students/index.htm>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習 (予習・復習) 等]

教科書の予習 (全員) 及び、論文の講読 (担当者) をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他 (オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeyiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習 I) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代英国演劇演習A									
【授業の概要・目的】											
David Hare, The Absence of War, Act Oneの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。あわせて第3回に提出するレポートについて説明をする。</p> <p>第2回：The Absence of War 1 - 4 ページの講読と討論</p> <p>第3回：The Absence of War 5 - 8ページの講読と討論</p> <p>第4回：The Absence of War 9 - 12ページの講読と討論</p> <p>第5回：The Absence of War 13 - 16ページの講読と討論</p> <p>第6回：The Absence of War 17 - 20ページの講読と討論</p> <p>第7回：The Absence of War 21 - 24ページの講読と討論</p> <p>第8回：The Absence of War 25 - 28ページの講読と討論</p> <p>第9回：The Absence of War 29 - 32ページの講読と討論</p> <p>第10回：The Absence of War 33 - 36ページの講読と討論</p> <p>第11回：The Absence of War 37 - 40ページの講読と討論</p> <p>第12回：The Absence of War 41 - 44ページの講読と討論</p> <p>第13回：The Absence of War 45 - 48ページの講読と討論</p> <p>第14回：The Absence of War 49 - 53ページの講読と討論</p> <p>第15回：The Absence of War 54 - 56ページの講読と討論。あわせて Act Oneのまとめを行う。</p> <p>定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、第3回に提出するレポートの内容30%、平常点70%(担当箇所解釈50%ならびに討論への参加20%)にて評価する。											
----- 英語学英文学(演習 I)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

上記レポートの提出が単位取得の条件となる。提出しない者には単位は与えられないので注意すること。レポートの詳細については第1回に指示をする。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

David Hare 『The Absence of War』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571325894

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習 I) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代英国演劇演習B									
【授業の概要・目的】											
David Hare, The Absence of War, Act Twoの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 ・英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。特にAct Oneの内容を振り返り、あわせて第14回に提出するレポートについて説明する。</p> <p>第2回：The Absence of War 57 - 60ページの講読と討論</p> <p>第3回：The Absence of War 61 - 64ページの講読と討論</p> <p>第4回：The Absence of War 65 - 68ページの講読と討論</p> <p>第5回：The Absence of War 69 - 72ページの講読と討論</p> <p>第6回：The Absence of War 73 - 76ページの講読と討論</p> <p>第7回：The Absence of War 77 - 80ページの講読と討論</p> <p>第8回：The Absence of War 81 - 84ページの講読と討論</p> <p>第9回：The Absence of War 85 - 88ページの講読と討論</p> <p>第10回：The Absence of War 89 - 92ページの講読と討論</p> <p>第11回：The Absence of War 93 - 96ページの講読と討論</p> <p>第12回：The Absence of War 97 - 100ページの講読と討論</p> <p>第13回：The Absence of War 101 - 104ページの講読と討論</p> <p>第14回：The Absence of War 105 - 108ページの講読と討論</p> <p>第15回：The Absence of War 109 - 110ページの講読と討論。あわせてAct Twoのまとめと劇全体についての討論を行う。</p> <p>定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。											
----- 英語学英文学(演習 I)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習 I)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

到達目標の達成度に基づき、第14回に提出するレポートの内容30%、平常点70%（担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加20%）にて評価する。

上記レポートの提出が単位取得の条件となる。提出しない者には単位は与えられないので注意すること。レポートの詳細については第1回に指示をする。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

David Hare 『The Absence of War』（Faber and Faber）ISBN:978-0571325894

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ小説における文章									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：アメリカ小説における文章 到達目標：アメリカの小説をテキストとして、小説がいかにより多様な種類の文章を取りこむことで成立しているかを理解する。また、代表的なアメリカ文学作品の数々に触れることで、アメリカ文学および文化を包括的に捉える。</p>											
【到達目標】											
小説における種々の文章を、代表的アメリカ小説を例に挙げて分析する。											
【授業計画と内容】											
第1回：序論--小説内の文章の判別法 第2回：地の文--“Miriam” 第3回：地の文--“Chef’s Kitchen” 第4回：地の文--The Road 第5回：会話文--“Hills Like White Elephants” 第6回：会話文--“That Evening Sun” 第7回：会話文--“Roman Fever” 第8回：手紙文--Daddy-Long-Legs 第9回：手紙文--“For Esme--with Love and Squalor” 第10回：日記文--The Yellow Wallpaper 第11回：日記文--Dangling Man前半 第12回：日記文--Dangling Man後半 第13回：ナラトロジーに関する英語の論文を読む 第14回：レポートワークショップ 第15回：まとめ											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％；予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表は担当作品の語り手について考察するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげた作品から選ぶこと。

[教科書]

授業中に指示する
テキストは授業サポートにすべてアップロードする。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読んでこないと（毎回およそ15頁から20頁ほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習 I) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		F. Scott Fitzgerald, Tender Is the Nightを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>大戦間のアメリカ文学の主要作家の一人、F. Scott Fitzgeraldの代表的長篇小説Tender Is the Night (1934)を読む。授業は基本的に発表形式で進める。各回につき数人の担当者をあらかじめ指名し、その回に読み進む範囲についてそれぞれの視点から報告をしてもらう。それをもとに全員で議論を重ね、作品への理解を深める。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。</p>											
【到達目標】											
<p>辞書等を活用しつつ文学作品を妥協なく読み解く姿勢を養うこと、英語読解の精度を高めることを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Book I, i-iii (pp. 3-16) 冒頭を読む 第3回：Book I, iv-vi (pp. 16-32) 冒頭場面の続きを読む 第4回：Book I, vii-xi (pp. 32-51) 冒頭場面の結末を読む 第5回：Book I, xii-xvi (pp. 51-71) パリでの場面を読む 第6回：Book I, xvii-xx (pp. 71-91) パリでの場面の続きを読む 第7回：Book I, xxi-xxv (pp. 92-112) パリでの場面の結末を読む 第8回：Book II, i-v (pp. 115-136) フラッシュバックの前半を読む 第9回：Book II, vi-x (pp. 137-162) フラッシュバックの後半を読む 第10回：Book II, xi-xiv (pp. 162-186) 南仏～スイス(診療所)での場面を読む 第11回：Book II, xv-xix (pp. 186-208) スイス～旅先での場面を読む 第12回：Book II, xx-xxiii (pp. 209-235) ローマでの場面を読む 第13回：Book III, i-iv (pp. 239-265) スイス(診療所)での場面を読む 第14回：Book III, v-vii (pp. 265-290) 南仏での場面を読む 第15回：Book III, viii-xiii (pp. 290-315) 結末を読む</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、平常点(60%)と期末レポート(40%)で評価する。											
----- 英語学英文学(演習 I)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

F. Scott Fitzgerald 『Tender Is the Night』 (Scribner) ISBN:978-0684801544

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
教室で随時指示する。

[授業外学習 (予習・復習) 等]

各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は全員必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		佐々木 徹 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イギリス小説精読									
【授業の概要・目的】											
Robert Louis Stevenson, "Dr. Jekyll and Mr. Hyde"を精読する。翻訳ではなく、原書の英語を読む面白さを知ってほしい。											
【到達目標】											
一語一語にこだわりながら、辞書を引いて丁寧に読む癖をつけ、英語による文学作品読解の基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 PP. 1-4 第3回 PP. 5-8 第4回 PP. 9-12 第5回 PP. 13-17 第6回 PP. 18-22 第7回 PP. 23-27 第8回 PP. 28-32 第9回 PP. 33-37 第10回 PP. 38-42 第11回 PP. 43-47 第12回 PP. 48-52 第13回 PP. 53-57 第14回 PP. 58-62 第15回 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、平常点により評価する。											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはパブリック・ドメインにあるので、ネットからダウンロードできる。紙媒体を好む人はペーパーバックのテキストを各自購入すること。真剣に勉強したい人にはNorton Critical Edition (ISBN-13: 978-0393974652)を薦める。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Philip Larkin, The Whitsun Weddings 講読									
【授業の概要・目的】											
Philip Larkin (1922-85)は、20世紀英国を代表する詩人の一人である。この詩人の最初の詩集 The Whitsun Weddings の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英国詩と詩の言語についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の詩の特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 ・ Philip Larkinの詩の世界を楽しめるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者ならびに作品についての解説と、時代背景の概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 詩の精読と内容についての討論。講読した詩は次回までに暗記してくることが求められる（書いて提出）。</p> <p>詩の長さや難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね1 - 2篇程度を読み進めることになる。なお、講読する詩の選択には参加者の意向も考慮に入れる。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈40%、詩の暗記40%、討論への参加20%）にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[教科書]

Philip Larkin 『The Whitsun Weddings』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571326297

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は詩全体を理解したうえで暗記をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		20世紀アメリカ短篇を読む									
【授業の概要・目的】											
20世紀アメリカ(北米)文学を代表する作家たちの短篇小説を読む。取り上げる予定の作家は、Ernest Hemingway, William Faulkner, Flannery O' Connor, John Cheever, Bernard Malamud, Vladimir Nabokov, Alice Munroの7名。授業は精読(輪読)と発表形式を組み合わせる。各作家につき2回の授業をあて、1回目は作品の精読、2回目は読み切れなかった範囲についての発表とディスカッションを行う。学期末には、授業で読んだいずれかの作品について各自の視点から論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
丁寧な辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Ernest Hemingway(精読) 第3回：Ernest Hemingway(発表、ディスカッション) 第4回：William Faulkner(精読) 第5回：William Faulkner(発表、ディスカッション) 第6回：Flannery O' Connor(精読) 第7回：Flannery O' Connor(発表、ディスカッション) 第8回：John Cheever(精読) 第9回：John Cheever(発表、ディスカッション) 第10回：Bernard Malamud(精読) 第11回：Bernard Malamud(発表、ディスカッション) 第12回：Vladimir Nabokov(精読) 第13回：Vladimir Nabokov(発表、ディスカッション) 第14回：Alice Munro(精読) 第15回：Alice Munro(発表、ディスカッション)											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

青山南 『短編小説のアメリカ 52講』（平凡社ライブラリー）

[授業外学習（予習・復習）等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『八月の光』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>フォークナー『八月の光』を講読する。20世紀アメリカ文学の最重要作品の一つとして名高い本作は、文体や視点の置き方など、表現面において種々の工夫を凝らしつつ、奴隷制度や宗教といった、アメリカという国が抱える根本問題を取り扱うものである。本作の表現・主題の両面を検討することで、英文テキストの読み方とアメリカ文学における歴史表象のあり方を包括的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
『八月の光』の講読を通じて、20世紀の言語芸術とアメリカ南部の歴史を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクションその1--William Faulknerとモダニズム 第2回：イントロダクションその2--William Faulknerとアメリカ南部 第3回：Light in August講読--Ch. 1 第4回：Light in August講読--Ch. 2 第5回：Light in August講読--Ch. 3 & 4 第6回：Light in August講読--Ch. 5 & 6 第7回：Light in August講読--Ch. 7 & 8 第8回：Light in August講読--Ch. 9 & 10 第9回：Light in August講読--Ch. 11 & 12 第10回：Light in August講読--Ch. 13 & 14 第11回：Light in August講読--Ch. 15 & 16 第12回：Light in August講読--Ch. 17 & 18 第13回：Light in August講読--Ch. 19 & 20 第14回：Light in August講読--Ch. 21 第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表は担当作品に関するもので、20分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。予習度合いについては、毎授業冒頭にて行われる【あらすじ小テスト】によって確認される。つまり、読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。</p>											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[教科書]

Faulkner, William 『Light in August』 (Vintage) ISBN:0099283158

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習 (予習・復習) 等]

毎授業で指定されたテキストの範囲内に関する小テストを行うので、予習は必須である。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		桂山 康司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度は特にワーズワス(1770-1850)の抒情詩を中心に読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

筆記試験の成績(60点)に、発表を含む平常点評価(40点)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

上島建吉(解説注釈)『リリカル・バラッズ(II)ー愛と人生ー』(研究社小英文叢書)ISBN:9784327013013

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』(世界思想社)ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』(研究社)ISBN:9784327452216

[授業外学習(予習・復習)等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの(英詩を含む)を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		桂山 康司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度後期は、前期に引き続きWilliam Wordsworth(1770-1850)の抒情詩を読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

筆記試験の成績(60点)に、発表を含む平常点評価(40点)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

上島建吉(解説注釈)『リリカル・バラッズ(II)ー愛と人生ー』(研究社小英文叢書)ISBN:9784327013013

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』(世界思想社)ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』(研究社)ISBN:9784327452216

[授業外学習(予習・復習)等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの(英詩を含む)を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.</p> <p>2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.</p> <p>3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”</p> <p>4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.</p> <p>5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).</p> <p>6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”</p> <p>7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples</p> <p>8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).</p> <p>9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)</p>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Review Test

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Class attendance and participation in discussions (20%)
Written assignments (25%)
Class presentations (30%)
In-class test (25%)

【教科書】

Dougill, John 『Kyoto: A Cultural History』 (Oxford University Press) ISBN:978-0195301380
Kyoto Journal 『Kyoto Lives: Interviews, Memoirs, Essays』 (Kyoto Journal 70) ISBN:ISSN0913-5200 (<http://kyotojournal.org/backissues/kj-70/> (digital issue also available))
Whelan, Christal 『Kansai Cool: A Journey into the Cultural Heartland of Japan』 (Tuttle Publishing) ISBN:978-4-8053-1280-3

【参考書等】

(参考書)

【授業外学習 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

英語学英文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film “ Water, the Lifeblood of Kyoto ” (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 “ Dry Landscapes ” ; pp. 133-138 “ Tea Garden ” “ Tea Room ” .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, “ The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan ” (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, “ Machiya Townhouses ” (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film “ Traditional Skills in the Kyoto State Guest House ” (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Review Test

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

In-class test (25%)

【教科書】

Dougill, John 『Kyoto: A Cultural History』 (Oxford University Press) ISBN:978-0195301380

Kyoto Journal 『Kyoto Lives: Interviews, Memoirs, Essays』 (Kyoto Journal 70) ISBN:ISSN0913-5200 (<http://kyotojournal.org/backissues/kj-70/> (digital issue also available))

Whelan, Christal 『Kansai Cool: A Journey into the Cultural Heartland of Japan』 (Tuttle Publishing) ISBN:978-4-8053-1280-3

【参考書等】

(参考書)

英語学英文学(外国語実習)(3)

[授業外学習（予習・復習）等]

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. The second wave, in the 1950's, were those written by the 'Beat' poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. Students will anthologise and critique their selection of the best American and British haiku during the first semester and present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA 3. Oriental translations 4. Orientalism 5. Imagism 6. Western view of Zen 7. Beat poets 8. 1960s 9. Haiku Society of America 10. British Haiku Society 11. World Haiku 12. Haiku radio 13. Haiku in other Western media 14. Internet haiku (and critiqued anthology reports) 15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports) 											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in class.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない
Handouts will be provided by the teacher in every class.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学習(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They must revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as ‘ Orientalist ’ or ‘ Imagist ’ . Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation and links from last semester 2. Japanese and English: linguistic differences 3. pond frog plop! 4. Lineation, translation workshop 5. Break, image contrast (cf. famous poets ' work) 6. Seasons in English Haiku I: spring 7. Seasons in English Haiku II: summer 8. Seasons in English Haiku III: autumn 9. Creating an English haiku, composition workshop 10. Seasons in English Haiku IV: winter 11. Seasons in English Haiku V: all/no season 12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku 13. Haiku ‘ moment ’ and hints on researching examples 14. Rensaku, rengay and report preparation/submission 15. Haibun and report preparation/submission 											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in class.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない

Handouts will be provided by the teacher in every class.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Cobb, David & Lucas, Martin 『The Iron Book of British Haiku』 ISBN:0906228670

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学習(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義A) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史 I									
【授業の概要・目的】											
植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。											
【到達目標】											
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義B）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)へ続く -----											

系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

毎授業の最後に行われるコメントシートの記入（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

[教科書]

使用しない
資料はプリントにて配布する。

[参考書等]

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

[授業外学習（予習・復習）等]

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 13503 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義B) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史									
【授業の概要・目的】											
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。											
【到達目標】											
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：自然主義（Crane, Norris, Dreiserなど） 第3回：Wharton, Cather, Anderson 第4回：モダニズムと詩（Pound, Eliot, Steinなど） 第5回：Hemingwayと失われた世代 第6回：Fitzgeraldと1920年代 第7回：1930年代の文学（Wolfe, Steinbeck, Westなど） 第8回：Faulknerと南部文学 第9回：演劇（O'Neill, Williams, Millerなど） 第10回：アフリカ系文学（Wright, Ellison, Morrisonなど） 第11回：ユダヤ系文学（Bellow, Malamud, Rothなど） 第12回：その他戦後文学（Nabokov, Updikeなど） 第13回：ポストモダン（Barth, Pynchonなど） 第14回：その後の文学 第15回：まとめ											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義A）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力および読者としてのセンスを評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)

[参考書等]

(参考書)

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』 (南雲堂) ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』 (三修社) ISBN:9784384057485

[授業外学習(予習・復習)等]

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない(必要のある場合は授業中に指示する)。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化的空間としてのカリフォルニア									
【授業の概要・目的】											
<p>様々な文化が相互嵌入する空間としてのカリフォルニアを描いた英語テキストを通じて、アメリカ文化の多様性、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。異文化交流の実践の一環として、本学の留学生あるいは文学部外国人教員を招請し、異文化に身を置くことについて、受講生も交えて英語でのパネルディスカッションを行い、異文化間コミュニケーションの理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：【序論】 20世紀初頭におけるカリフォルニアの初期の移民文化を描出する英語テキストを読み、その歴史と発生を確認する</p> <p>第2回：【移民コミュニティの様相】 1930年代から1940年代にかけてのカリフォルニアにおける日系移民のコミュニティの在り方を学ぶために、トシオ・モリ “ The Woman Who Makes Swell Doughnuts ” を読む</p> <p>第3回：【移民の価値観】 1930年代から1940年代にかけてのカリフォルニアにおける日系移民の思想的側面を学ぶために、トシオ・モリ “ The Seventh Street Philosopher ” を読む</p> <p>第4回：【移民の娯楽文化】 1930年代から1940年代にかけてのカリフォルニアにおける日系移民の娯楽文化を学ぶために、トシオ・モリ “ Toshio Mori ” を読む</p> <p>第5回：【祖国と移住先における女性の地位】 中国本土およびサンフランシスコの中華街における女性の社会的位置を、マキシン・ホン・キングストンの “ No Name Woman ” の読解を通じて検討する</p> <p>第6回：【移民の伝統継承】 中国系アメリカ人女性による中国本土の伝承文化の再構築の方法をマキシン・ホン・キングストン “ White Tigers ” の読解を通じて検討する</p> <p>第7回：【移民一世と移民二世の世代間の衝突】 マキシン・ホン・キングストン “ A Song for a Barbarian Reed Pipe ” に描かれる中国系移民一世と二世の対立を読むことで、世代間の相互理解に向けての課題を把握する</p> <p>第8回：【異文化体験についてのパネルディスカッション】 前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、本学の留学生等、外国から来た人々と英語で意見交換を行う</p> <p>第9回：【移民のユース・カルチャー】 1930年代のアルメニア系移民の若者像をウィリアム・サロイアン “ The Daring Young Man on the Flying Trapeze ” の読解を通じて理解する</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

第10回：【移民の自己定位】1930年代のアルメニア系移民がどのようにアメリカ社会においてアイデンティティを確立するのかということ、ウィリアム・サロイヤン “Seventy Thousand Assyrians” を通じて考察する

第11回：【異なる出自の移民間交流】1930年代におけるアルメニア系移民とフィリピン系移民の異文化間交流の様子を、ウィリアム・サロイヤン “The Filipino and the Drunkard” を通じて理解する

第12回：【アメリカの自然と禅思想】カリフォルニアのサンタルチア高地を背景に、日本の禅文化とアメリカの自然についての関わりを、ゲイリー・スナイダー “The Etiquette of Freedom” を読むことで理解する

第13回：【人間と自然の共存】カリフォルニアの自然と人間の健全な関わり合いの在り方を考察したゲイリー・スナイダー “Blue Mountains Constantly Walking” を読み、環境問題について検討する

第14回：【異種族間交流】動物と人間の関係性について、ゲイリー・スナイダー “The Woman Who Married a Bear” を読むことで理解する

第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としてのカリフォルニアを包括的に理解する

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回で取りあげる。発表は担当するテキストに関するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

テキストはすべてウェブにアップロードする

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

事前にテキストを必ず読んでから授業に参加すること。内容確認のために毎回小テストを行う予定。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。 ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。 ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能性を探る</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

第14回：翻訳の限界と可能性(2)：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(60%)と期末の翻訳課題(40%)を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』 (Penguin) ISBN: 978-0241954300

【授業外学習(予習・復習)等】

毎回、こちらで指定した英文テキスト(短めのもの)を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメールで提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Donne, La Corona Sonnets, Holy Sonnets研究									
【授業の概要・目的】											
初期近代イングランドを代表する詩人の一人であるJohn Donneが書いた宗教詩の内、La Corona SonnetsとHoly Sonnetsに解説を加えながら精読し、詩中で提示される諸問題を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期近代の詩（特にソネット形式の詩）の読み方を身につける。 ・ John Donneの詩言語の特徴を理解し、そのリズムを身につける。 ・ 授業で扱う詩に描かれた宗教と英文学の関係を理解する。 											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション John Donne並びに授業で扱う詩の解説 第2回：La Corona Sonnets 1 / 2 の精読と解釈 第3回：La Corona Sonnets 3 / 4 の精読と解釈 第4回：La Corona Sonnets 5 / 6 の精読と解釈 第5回：La Corona Sonnet 7 / Holy Sonnet 1 の精読と解釈 第6回：Holy Sonnets 2 / 3 の精読と解釈 第7回：Holy Sonnets 4 / 5 の精読と解釈 第8回：Holy Sonnets 6 / 7 の精読と解釈 第9回：Holy Sonnets 8 / 9 の精読と解釈 第10回：Holy Sonnets 10 / 11 の精読と解釈 第11回：Holy Sonnets 12 / 13 の精読と解釈 第12回：Holy Sonnets 14 / 15 の精読と解釈 第13回：Holy Sonnets 16 / 17 の精読と解釈 第14回：Holy Sonnets 18 / 19 の精読と解釈 第15回：全体のまとめ フィードバックについては授業中に指示をする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
第3 - 15回は毎回授業の冒頭に、前週扱った詩を暗記してきたものを筆記し、解釈とともに提出する。この提出物によって評価をする。正当な理由がなく2回提出がなかった場合または白紙（もしくは白紙に近いと判断されるもの）が提出された場合は、単位は与えられない。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

定期試験は行わない。

[教科書]

John Donne 『John Donne ' s Poetry (Norton Critical Text)』 (W.W.Norton) ISBN:978-0393926484

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

各回に割り当てたソネットについては、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで、指定された暗記をすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		佐々木 徹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語圏の小説理論と批評									
【授業の概要・目的】											
英語の小説理論をヘンリー・ジェームズから説き起こすと共に、小説批評の実践例をいくつか取り上げて精査する。											
【到達目標】											
小説理論に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、小説を批評するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回：序論											
第2回：ヘンリー・ジェームズ「小説の芸術」 前半の解説											
第3回：ヘンリー・ジェームズ「小説の芸術」 後半の解説											
第4回：ヴァーノン・リーの小説論											
第5回：パーシー・ラボックの小説論											
第6回：ウェイン・ブースの小説論『小説の修辞学』 前半の解説											
第7回：ウェイン・ブースの小説論『小説の修辞学』 後半の解説											
第8回：イアン・ワットによる『大使たち』論 前半の解説											
第9回：イアン・ワットによる『大使たち』論 後半の解説											
第10回：レオ・シュピッツァーの文体論 序論											
第11回：レオ・シュピッツァーの文体論 発展的解説											
第12回：デイヴィッド・ロッジの小説批評 序論											
第13回：デイヴィッド・ロッジの小説批評 発展的解説											
第14回：まとめ											
第15回：フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、学期末レポートによって評価する。											
【教科書】											
必要に応じてプリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

望まれる予習、復習については授業中に説明する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは月曜 14 : 15 ~ 15 : 15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		水野 尚之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Herman MelvilleのMoby-Dickを読む。									
【授業の概要・目的】											
1 9 世紀アメリカ文学を代表する作家Herman Melvilleの大作Moby-Dickは、その複雑な成立事情、時代背景、象徴性などにより、これまでに様々な解釈がなされてきた。2 1 世紀の読者である我々がこの作品を読む時、どのような読み方が可能か考える。学期末に各自の作品解釈をレポートにまとめることを課す。論文・レポートの書き方も指導する。											
【到達目標】											
1 9 世紀アメリカ文学を代表する作家Herman MelvilleのMoby-Dickを精読し、作品についての様々な解釈を試みる。資料収集の方法も学ぶ。											
【授業計画と内容】											
授業では毎回 1 0 章を目安に読み進む。											
第 1 回 Melville文学を概観する。											
第 2 回 第 1 章～第 1 0 章を精読する。											
第 3 回 第 1 1 章～第 2 0 章を精読する。											
第 4 回 第 2 1 章～第 3 0 章を精読する。											
第 5 回 第 3 1 章～第 4 0 章を精読する。											
第 6 回 第 4 1 章～第 5 0 章を精読する。											
第 7 回 第 5 1 章～第 6 0 章を精読する。											
第 8 回 第 6 1 章～第 7 0 章を精読する。											
第 9 回 第 7 1 章～第 8 0 章を精読する。											
第 1 0 回 第 8 1 章～第 9 0 章を精読する。											
第 1 1 回 第 9 1 章～第 1 0 0 章を精読する。											
第 1 2 回 第 1 0 1 章～第 1 1 0 章を精読する。											
第 1 3 回 第 1 1 1 章～第 1 2 0 章を精読する。											
第 1 4 回 第 1 2 1 章～第 1 3 0 章を精読する。											
第 1 5 回 Moby-Dickについての様々な解釈を紹介する。レポートの書き方についての 資料を配布する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常の授業への取り組み (5 0 %) と学期末のレポート (5 0 %) により、総合的に評価する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
テキストは主として授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回扱う章について、十分に予習をして授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日、金曜日の昼休み(12時から13時)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		水野 尚之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文芸表象論									
【授業の概要・目的】											
<p>Herman Melvilleの短編小説を読む。</p> <p>“Moby-Dick”の作者Herman Melvilleの短編“The Piazza”、“Bartleby”、“Benito Cereno”、“The Lightning-Rod Man”、“The Encantadas or Enchanted Isles”、“The Bell-Tower”を精読する。寓意性、象徴性、作家の自伝的要素、時代背景、ロマン主義的要素など、多様な観点からの分析が可能な作品である。学期末にレポートを課す。</p>											
【到達目標】											
<p>19世紀中葉のやや古いアメリカ英語の書き物を読みこなす力をつける。</p> <p>アメリカ文学の作品を、明確な方法論によって分析し、レポートにまとめる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>比較的短い作品は、2回ほどの授業で扱う。訳読を主とするが、参考・補助資料も適宜読む。学期末のレポート（どれか2作品について論じる）に備える。</p> <p>第1回 メルヴィルの文学を概観する。 第2～3回 “The Piazza”を精読する。 第4～5回 “Bartleby”を精読する。 第6～8回 “Benito Cereno”を精読する。 第9～10回 “The Lightning-Rod Man”を精読する。 第11～13回 “The Encantadas or Enchanted Isles”を精読する。 第14～15回 “The Bell-Tower”を精読する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常の授業への取り組み（50%）と学期末のレポート(50%)により、総合的に評価する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
テキストは主として授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱う作品について、十分に予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日、金曜日(12時から13時)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		谷口 一美 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 ・ 大学院生を主体とした授業であるため、受講者多数の場合は履修制限を設ける場合がある。 											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末のレポート(70%)、授業への取り組みの状況(30%)から総合的に評価する。

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		谷口 一美 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。											
第1回：イントロダクション 第2-3回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化 第4-5回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性 第6-7回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー 第8-9回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ 第10-11回：イメージ・スキーマと言語の意味 第12-13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 ・ 大学院生を主体とした演習授業であるため、受講者多数の場合は履修制限を設ける場合がある。 											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポート (70%)、授業への取り組みの状況 (30%) から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 出口 菜摘 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Margaret Atwoodの詩と評論を読む									
【授業の概要・目的】											
この授業ではカナダの作家・詩人であるMargaret Atwoodの詩集Power Politics(1971)に収録された作品を読解・考察し翻訳する。作品にあらわれるモチーフやイメージ、文体上の特徴に注意を払うことで、作品のテーマに接近し、その上で翻訳においてはどのような日本語を選択するかについて議論する。アトウッドの問題意識や批評態度を確認するために、評論やインタビューも読み進める。授業は講義方式を基本とするが、適宜ディスカッションを導入する。											
【到達目標】											
Margaret Atwoodの詩・評論を読み解く読解力を身につける。また、作品の文体上の特徴や修辭的技法を踏まえたうえで、独自の視点で作品全体を考察する力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . He reappears 2 . She considers evading him 3 . They eat out(1) 4 . They eat out(2) 5 . 評論 6 . Their attitudes differ 7 . They travel by air(1) 8 . They travel by air(2) 9 . インタビュー記事 10 . Small tactics 11 . There are better ways of doing this(1) 12 . There are better ways of doing this(2) 13 . He shifts from east to west(1) 14 . He shifts from east to west(2) 15 . 期末レポート・フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点60%(出席状況、コメントやディスカッション等)と期末レポート40%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。											
【教科書】											
Margaret Atwood 『Power Politics:Poems』 (List) ISBN:1487004559 (各自、準備のこと)											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

評論については初回授業でプリントを配布する。

[授業外学習(予習・復習)等]

テキストを精読のうえで問題点とテーマを整理し、日本語訳を用意すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 文学部 教授 西山 けい子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		The Scarlet Letterにおける嘘・欺瞞・真実									
【授業の概要・目的】											
HawthorneのThe Scarlet Letterを読み、そこに現れる嘘、欺瞞、秘密、真実という主題について考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Hawthorneの代表作を読んで、文体および作品構成の特徴について説明できる。 ・ The Scarlet Letterにおける嘘と真実のテーマについて考察を深める。 ・ 作品を解釈するにあたって、「嘘」の言説についての批評的アプローチを知る。 ・ 個別の作品から普遍的なテーマを取り出すことができる。 											
【授業計画と内容】											
導入として短編をひとつ読んで主要なポイントを講義したあと、受講生からのコメントを受けて細部を検討し、議論しながら理解を深めていきたい。											
第1回: 導入 "Wakefield"											
第2回: The Custom-House / I. The Prison-Door											
第3回: II. The Market-Place / III. The Recognition											
第4回: IV. The Interview / V. Hester at her Needle											
第5回: VI. Pearl / VII. The Governor's Hall											
第6回: VIII. The Elf-Child and the Minister / IX. The Leech											
第7回: X. The Leech and his Patient / XI. The Interior of a Heart											
第8回: XII The Minister's Vigil / XIII. Another View of Hester											
第9回: XIV. Hester and the Physician / XV. Hester and Pearl											
第10回: XVI. A Forest Walk / XVII. The Pastor and his Parishioner											
第11回: XVIII. A Flood of Sunshine / XIX. The Child at the Brook-Side											
第12回: XX. The Minister in a Maze / XXI. The New England Holiday											
第13回: XXII. The Procession / XXIII. The Revelation of the Scarlet Letter											
第14回: XXIV. Conclusion											
第15回 まとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(50%)、レポート(50%)により評価する。
平常点とは、コメントシートの提出および授業での発言、参加度を総合的に評価するもの。レポート課題については、授業内で具体的に指示する。

[教科書]

Nathaniel Hawthorne 『The Scarlet Letter』 (Penguin Classics) ISBN:0143107666

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

指定された作品を読んで、コメントや質問を用意したうえで、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 文学研究科		メドロック 麻弥 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov研究 -- Transparent Thingsを読む									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)晩年の英語小説 Transparent Things (1972)を精読し、Nabokovの文章技法を学ぶ。											
【到達目標】											
比較的難解な英文を読み解く想像力と思考力を習得する Nabokovの文体について説明することができるようになる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 Transparent Things 1-3章 第3回 Transparent Things 4-5章 第4回 Transparent Things 6-8章 第5回 Transparent Things 9-10章 第6回 Transparent Things 11-12章 第7回 Transparent Things 13-14章 第8回 Transparent Things 15-16章 第9回 Transparent Things 16-17章 第10回 Transparent Things 18-19章 第11回 Transparent Things 20-21章 第12回 Transparent Things 22-23章 第13回 Transparent Things 24-25章 第14回 Transparent Things 26章 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点70点+学期末レポート30点として評価する。 平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。 レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Vladimir Nabokov 『Transparent Things』 (Penguin Classics) ISBN:10: 9780141198040

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

毎回テキストを7 - 8ページほど読み進めます。自分なりの日本語訳ができるように、指定範囲を毎回予習して授業にのぞんでください。難しめの英語ですので、個人差はありますが予習には時間がかかります。訳の難しいところにはゆっくり時間をかけて、丁寧に取り組むよう心がけてください。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 文学部 准教授 藤井 光 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		2018年のアメリカ短編小説を翻訳する									
【授業の概要・目的】											
現代アメリカ作家たちの短編小説のなかで、2018年に出版され、時代の感性を色濃く映し出す作品を取り上げ、読解を交えながら翻訳を試みていく。人種・ジェンダー・文化といった主題に各作品がどのような視点を提供しているのかを確認しながら、翻訳の実践を行う。											
【到達目標】											
翻訳の作業を通じて、英語を正確に読み取れるようになること。 文化的・言語的な差異が翻訳においてどこまで保持されるのかを考察できるようになること。 現代アメリカ作家の作風と現代社会の諸問題を関連づけて把握できるようになること。											
【授業計画と内容】											
一作品を4~5回かけて翻訳していく。 第一回 イントロダクション 第二回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(1)"Black Lives Matter"と作家たち 第三回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(2)翻訳ディスカッション1 第四回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(3)翻訳ディスカッション2 第五回 Nana Kwame Adjei-Brenyah, "Finkelstein 5"(4)翻訳ディスカッション3 第六回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (1)移住と日本 第七回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (2)翻訳ディスカッション1 第八回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (3)翻訳ディスカッション2 第九回 Jen Silverman, "The Safest Place in the World" (4)翻訳ディスカッション3 第十回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (1)南アジア作家とジェンダー 第十一回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (2)翻訳ディスカッション1 第十二回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (3)翻訳ディスカッション2 第十三回 Chaya Bhuvaneshwar, "A Shaker Chair" (4)翻訳ディスカッション3 第十四回 番外編：Sabrina Orsh Mark (1)ユダヤ作家の新世紀 第十五回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点100%(各作品の翻訳およびディスカッション参加)											
【教科書】											
適宜プリントを配布する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

それぞれの作品を事前に読み、指定箇所を翻訳してくること。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先については、初回時の授業で配布する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Chaucer研究									
【授業の概要・目的】											
<p>イギリス中世期最大の詩人ジェフリー・チョーサー (Geoffrey Chaucer 1343?-1400)の代表作『カンタベリー物語』(The Canterbury Tales)から「バースの女房の物語」(The Wife of Bath's Tale)を取り上げて精読し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語に親しむこと ・チョーサーの英語を手掛かりに、英語史で学んだ事項を検証すること ・チョーサー文学の特質、その背後にある世界観を理解すること <p>をめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語を理解するために必要な事項（音韻・形態・語彙・統語・意味・文体等）を学びながら、彼の詩作の技法を探求すること ・辞書(OED, MED)や諸注釈書を丹念に参照しながらテキストと向き合う態度を身につけること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること <p>を目標にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 英語史の復習 第2回 『カンタベリー物語』の写本と刊本 第3回 チョーサーの英語概観 第4回 辞書の引き方 第5回 「総序の歌」(General Prologue)におけるバースの女房 第6回～第7回 「バースの女房の序」精読(1) 第8回 チョーサーの英語(1) - 発音と綴り字 第9回～第10回 「バースの女房の序」精読(2) 第11回 チョーサーの英語(2) - 代名詞 第12回～第13回 「バースの女房の序」精読(3) 第14回 チョーサーの英語(3) - 否定構文 第15回 まとめ</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

「特殊講義」ではあるが、テキストの精読を重視するので受講者には事前の準備が求められる。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点およびレポートで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

【教科書】

Larry D. Benson (gen. ed.). 『_The Riverside Chaucer_ 3rd edn』 (Oxford University Press) ISBN:978-0199552092

Riverside版以外のテキストの使用も歓迎する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

【授業外学習(予習・復習)等】

・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

・受講にあたっては入念な下調べが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Chaucer研究									
【授業の概要・目的】											
<p>イギリス中世期最大の詩人ジェフリー・チョーサー (Geoffrey Chaucer 1343?-1400)の代表作『カンタベリー物語』(The Canterbury Tales)から「バースの女房の物語」(The Wife of Bath's Tale)を取り上げて精読し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語に親しむこと ・チョーサーの英語を手掛かりに、英語史で学んだ事項を検証すること ・チョーサー文学の特質、その背後にある世界観を理解すること <p>をめざす(前期からの継続)。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チョーサーの英語を理解するために必要な事項(音韻・形態・語彙・統語・意味・文体等)を学びながら、彼の詩作の技法を探求すること ・辞書(OED, MED)や諸注釈書を丹念に参照しながらテキストと向き合う態度を身につけること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること <p>を目標にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 前期の復習 第2回～第3回 「バースの女房の序」精読(4) 第4回 チョーサーの英語(4) - 非人称構文 第5回～第6回 「バースの女房の物語」精読(1) 第7回 チョーサーの英語(5) - 語彙 第8回～第9回 「バースの女房の物語」精読(2) 第10回 チョーサーの英語(6) - 語順 第11回～第12回 「バースの女房の物語」精読(3) 第13回 チョーサーの英語(7) - 詩作の技巧 第14回 Marriage Groupにおける「バースの女房の物語」の位置 第15回 まとめ</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

「特殊講義」ではあるが、テキストの精読を重視するので受講者には事前の準備が求められる。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点およびレポートで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

【教科書】

Larry D. Benson (gen. ed.) 『_The Riverside Chaucer_ 3rd edn』 (Oxford University Press) ISBN:978-0199552092

Riverside版以外のテキストの使用も歓迎する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

【授業外学習（予習・復習）等】

・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

・受講にあたっては入念な下調べが要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院 文学研究科 教授 文学研究科		服部 典之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		女の一生－18世紀イギリス小説の女性主人公ロクサーナの生き様									
【授業の概要・目的】											
<p>ダニエル・デフォーの作品と言えば『ロビンソン・クルーソー』が最も有名だが、実は女性主人公の物語の傑作も書いている。本講義では2017年の講義で取り上げた『モル・フランダース』と並び立つ『ロクサーナ』(1724)を取り上げる。ロクサーナはこの作品の女性主人公であり、18世紀イギリスの女性、特に庶民の女性がどう生きたかについての厳しい状況を知ることができる。もちろん実を踏まえたフィクションであるし、劇的な浮き沈みの物語とすることで当時の読者に受容されたわけだから、この「虚」のおもしろさの根幹を読解することも目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>文学作品の読解は、文法的表面的なものだけでは不十分で、社会的状況、文学伝統、作者の特質など、極めて多層的な視線で読まなくてはならない。18世紀の女性を描いた小説を読解することで、受講生は18世紀文化への理解を深めることができる。また、特に女性の自立に関して文学としては、イギリス史で初めて極めてラディカルな発言を行っている。このラディカルさに関して、現代の女性像に照らしてどのようなことが考えられるかについて受講生は洞察を得ることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>『ロクサーナ』は比較的長い作品なので、授業では前期に前半、後期に後半について講義を行う。ページ数を授業回数で割って着実に進んでいく。(前期1・イントロダクション、2～15・1頁～156頁。後期1～15・157頁～330頁)、プラス・フィードバック。講義であるから受講生を授業中に指名して意見を求めたり議論をしたりはしないが、毎回授業の終わりにコメントペーパーを書いてもらい、質問や感想を記入してもらい、それを次回の講義でフィードバックする。論点に関しては、その回ごとにテーマを設定する。</p>											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>コメントペーパーを重視することもあり、出席は必須である(やむを得ない事情があるときはあらかじめ通知すること)。授業参加が40パーセント、期末に書いてもらうレポートが60パーセントで授業評価を行う。</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Daniel Defoe 『Roxana』 (Oxford University Press, Reissued 2008) ISBN:978-0-19-953674-0

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

(その他 (オフィスアワー等))

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院 文学研究科 教授 文学研究科		服部 典之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		女の一生－18世紀イギリス小説の女性主人公ロクサーナの生き様									
【授業の概要・目的】											
<p>ダニエル・デフォーの作品と言えば『ロビンソン・クルーソー』が最も有名だが、実は女性主人公の物語の傑作も書いている。本講義では2017年の講義で取り上げた『モル・フランダース』と並び立つ『ロクサーナ』(1724)を取り上げる。ロクサーナはこの作品の女性主人公であり、18世紀イギリスの女性、特に庶民の女性がどう生きたかについての厳しい状況を知ることができる。もちろん実を踏まえたフィクションであるし、劇的な浮き沈みの物語とすることで当時の読者に受容されたわけだから、この「虚」のおもしろさの根幹を読解することも目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>文学作品の読解は、文法的表面的なものだけでは不十分で、社会的状況、文学伝統、作者の特質など、極めて多層的な視線で読まなくてはならない。18世紀の女性を描いた小説を読解することで、受講生は18世紀文化への理解を深めることができる。また、特に女性の自立に関して、文学作品としては、イギリス史で初めて極めてラディカルな発言を行っている。このラディカルさに関して、現代の女性像に照らしてどのようなことが考えられるかについて受講生は洞察を得ることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>『ロクサーナ』は比較的長い作品なので、授業では前期に前半、後期に後半について講義を行う。ページ数を授業回数で割って着実に進んでいく。(前期1・イントロダクション、2～15・1頁～156頁。後期1～15・157頁～330頁)、プラス・フィードバック。講義であるから受講生を授業中に指名して意見を求めたり議論をしたりはしないが、毎回授業の終わりにコメントペーパーを書いてもらい、質問や感想を記入してもらい、それを次回の講義でフィードバックする。論点に関しては、その回ごとにテーマを設定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>コメントペーパーを重視することもあり、出席は必須である(やむを得ない事情があるときはあらかじめ通知すること)。授業参加が40パーセント、期末に書いてもらうレポートが60パーセントで授業評価を行う。</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Daniel Defoe 『Roxana』 (Oxford University Press, Reissued 2008) ISBN: 978-0-19-953674-0

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

(その他 (オフィスアワー等))

授業は原則として日本語で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Elementary Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to refine their English writing skills, and particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
This class's primary goal is improvement of skills related to academic writing. At the completion of the class, students who have successfully understood, practiced and mastered these skills will be able to formulate and organize their ideas for an essay, work through successive drafts or versions of the essay, engage in self- and peer-editing, and to revise their writing through these stages.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous one, meaning that regular attendance is necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook and other times being editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by instruction in rhetorical language or grammar related to specific types of essay writing.											
The semester will be almost equally divided into three study units: moving from paragraph to short essay writing, descriptive essays, and finally narrative essays.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There are no examinations as this is a writing class.											
Evaluation will be decided in the following way: Attendance 26% Homework in the textbook 26% Completed essays 48%											
【教科書】											
A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay』 (Oxford University Press) Students should bring the textbook to the first class as we will begin it from that first session.											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion the following week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, and particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
The class's primary goal remains, as in the first semester, an improvement of skills related to academic writing.											
Building on the foundation built during the spring term, students will continue to structure, compose and refine essays from conceptual to finished stages.											
At the completion of the course, students will have increased the varieties of essays they have written, which will give them not only expertise, but confidence to go on to longer essays. They will be able to more independently formulate longer essays from start to completion, and will have increased their critical thinking.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous week's, making regular attendance necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework, which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook, other times editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by introduction of rhetorical language or grammar presentations related to specific types of essays.											
The class will be divided into three study units, focussing on three types of essays: Opinion, Compare and Contrast, and Cause and Effect.											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There are no examinations for this writing class.											
Evaluation will be determined as follows: Attendance 26%											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Homework in the textbook 26%

Completed Essays 48%

[教科書]

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay』 (Oxford University Press)
Students should bring the textbook to the first class as well as always bring a dictionary to be used when writing.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 阿部 公彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	英米詩入門										
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は英詩への入門を目指します。英語で書かれた詩を読むためのコツや、詩について語るときに気をつけたいポイントなどについて考えつつ、受講者にも実践的に読みのプロセスに参加してもらいます。</p> <p>教科書の該当箇所を元に話を進め、追加の詩作品も配って知識を深めてもらえればと思います。英米の作品から代表的なものをえらんで見ていくことで、ある程度文学史的な知識も身につけてもらえればと思います。</p> <p>今まであまり詩に接する機会がなかった人でもついていけるような授業にするつもりです。</p>											
【到達目標】											
詩とは何か、詩の機能とは何かといったことについて理解を深め、言語一般の根本にあるものについても考察を進めます。											
【授業計画と内容】											
1日目：1-2章(英詩の「うれしさ」など) 2日目：3章(英詩と「失敗」) 3日目：4章(英詩と「問答」) 4日目：5章(英詩と「権威」)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表・ディスカッションへの貢献度 60% レポート 40%											
【教科書】											
阿部公彦 『英詩のわかり方』(研究社) ISBN:978-4-327-48150-6											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://abemasahiko.my.coocan.jp/> (講師のHPです。必要に応じて参照してください。資料などは「授業」のページにアップします。)

[授業外学習(予習・復習)等]

教科書の該当箇所と、事前に指定した作品は目を通しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹村 はるみ 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代初期英文学における騎士道ロマンスの系譜									
【授業の概要・目的】											
<p>中世の騎士道ロマンスや19世紀のゴシック・ロマンス、果ては現代のファンタジー文学やライトノベルに至るまで、波瀾万丈の恋を描いた物語を基軸とするロマンスは、長い歴史の中で様々な姿を変えて逞しく生き延びてきた不撓不屈の文学ジャンルと言える。本講義では、ロマンスの原型である騎士道ロマンスが近代初期イングランドにおいて迎える発展と変容のプロセスを概観すると共に、想像文学(imaginative literature)の髄として騎士道ロマンスを位置づけ、様々な概念、作品構造、主題とモチーフの比較分析を行う。また、騎士道ロマンスの受容のあり方を文化史的に捉えることを通して、文学と大衆文化の双方向的関係について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 多種多様なジャンルの文学作品を英語で読解する力を身につける。 (2) 複数の作品を主題や構造といった文学的観点から比較分析し、作品の特性を実証主義的に考察する力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ロマンスとは何か？ 第2回 ロマンス事始め アーサー王伝説と騎士道ロマンス 第3回 騎士の恋 ロマンス的恋愛の奥義 第4回 魔女が棲む島ールネサンスの幕開けとイタリアの騎士道ロマンス 第5回 ロマンスの船は地球をめぐるー大航海時代のファンタジー 第6・7回 ロマンシング・イングランド 女王の時代とそのロマンス 第8回 騎士達の闘争 政治化するロマンス 第9・10回 異性装の騎士 騎士道ロマンスのジェンダー論 第11回 遁走する騎士 牧歌との混淆 第12回 ロマンスは誰のものか 読者層の問題 第13・14回 異形の騎士の誕生 騎士道ロマンスの社会的拡散 第15回 ロマンスの展望</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

- ・ 講義で扱った作品ないしテーマに関するレポート（60点）。
- ・ 授業中に行うディスカッションへの貢献度などの平常点（40点）。

[教科書]

使用しない
教科書は使用せず、教員が作成した資料を授業時に配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

本講義では多岐に亘る作品や文化的事象を取り扱う予定なので、復習の際には、授業時に紹介する参考文献を活用しながら、理解を深めることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23532 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家入 葉子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	文法化入門										
【授業の概要・目的】											
P. Hopper & E. C. Traugott の Grammaticalization を読みながら、文法化を歴史的な視点から概観します。											
【到達目標】											
文法化を概観し、文法化に特徴的な現象としてどのようなものがあるかを学びます。主に英語を議論の題材としますが、文法化の枠組みがさまざまな言語に応用可能であることを具体的な事例を通して理解することを目標とします。											
【授業計画と内容】											
1回目 インTRODクシヨン 2回目～8回目 以下の作業の組み合わせによって進めていきます。 ・指定した教科書の講読 ・参考図書、関連する論文の講読 ・テーマごとに1名以上からなるグループによるプレゼンテーション											
【履修要件】											
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
プレゼンテーションおよび授業への貢献度(70%)、簡易なレポート(30%)によって評価を行います。											
【教科書】											
使用しない 教科書としては、P. Hopper & E. C. Traugott, Grammaticalization (CUP) を使用しますが、図書館のものを使用していただいてもかまいません。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

保坂道雄 『文法化する英語』 (開拓社)

秋元実治・保坂道雄 『文法化 新たな展開』 (英潮社)

秋元実治・他 『コーパスに基づく言語研究 文法化を中心に』 (ひつじ書房)

(関連URL)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習(予習・復習)等]

プレゼンテーションは集中講義期間内に、レポートは授業終了後に提出することになります。プレゼンテーションの準備を短時間で行うことが必要になりますので、期間中はできるだけ集中して授業の準備をする時間を確保するようにしてください。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ小説における文章									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：アメリカ小説における文章 到達目標：アメリカの小説をテキストとして、小説がいかにより多様な種類の文章を取りこむことで成立しているかを理解する。また、代表的なアメリカ文学作品の数々に触れることで、アメリカ文学および文化を包括的に捉える。</p>											
【到達目標】											
小説における種々の文章を、代表的アメリカ小説を例に挙げて分析する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：序論--小説内の文章の判別法 第2回：地の文--“ Miriam ” 第3回：地の文--“ Chef ’ s Kitchen ” 第4回：地の文--The Road 第5回：会話文--“ Hills Like White Elephants ” 第6回：会話文--“ That Evening Sun ” 第7回：会話文--“ Roman Fever ” 第8回：手紙文--Daddy-Long-Legs 第9回：手紙文--“ For Esme--with Love and Squalor ” 第10回：日記文--The Yellow Wallpaper 第11回：日記文--Dangling Man前半 第12回：日記文--Dangling Man後半 第13回：ナラトロジーに関する英語の論文を読む 第14回：レポートワークショップ 第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表は担当作品の語り手について考察するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげた作品から選ぶこと。</p>											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

授業中に指示する
テキストは授業サポートにすべてアップロードする。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読んでこないと(毎回およそ15頁から20頁ほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		F. Scott Fitzgerald, Tender Is the Nightを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>大戦間のアメリカ文学の主要作家の一人、F. Scott Fitzgeraldの代表的長篇小説Tender Is the Night (1934)を読む。授業は基本的に発表形式で進める。各回につき数人の担当者をあらかじめ指名し、その回に読み進む範囲についてそれぞれの視点から報告をしてもらう。それをもとに全員で議論を重ね、作品への理解を深める。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。</p>											
【到達目標】											
<p>辞書等を活用しつつ文学作品を妥協なく読み解く姿勢を養うこと、英語読解の精度を高めることを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Book I, i-iii (pp. 3-16) 冒頭を読む 第3回：Book I, iv-vi (pp. 16-32) 冒頭場面の続きを読む 第4回：Book I, vii-xi (pp. 32-51) 冒頭場面の結末を読む 第5回：Book I, xii-xvi (pp. 51-71) パリでの場面を読む 第6回：Book I, xvii-xx (pp. 71-91) パリでの場面の続きを読む 第7回：Book I, xxi-xxv (pp. 92-112) パリでの場面の結末を読む 第8回：Book II, i-v (pp. 115-136) フラッシュバックの前半を読む 第9回：Book II, vi-x (pp. 137-162) フラッシュバックの後半を読む 第10回：Book II, xi-xiv (pp. 162-186) 南仏～スイス(診療所)での場面を読む 第11回：Book II, xv-xix (pp. 186-208) スイス～旅先での場面を読む 第12回：Book II, xx-xxiii (pp. 209-235) ローマでの場面を読む 第13回：Book III, i-iv (pp. 239-265) スイス(診療所)での場面を読む 第14回：Book III, v-vii (pp. 265-290) 南仏での場面を読む 第15回：Book III, viii-xiii (pp. 290-315) 結末を読む</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、平常点(60%)と期末レポート(40%)で評価する。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

F. Scott Fitzgerald 『Tender Is the Night』 (Scribner) ISBN:978-0684801544

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
教室で随時指示する。

[授業外学習 (予習・復習) 等]

各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は全員必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習 I) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会言語学入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Graeme Trousdale (著) の An Introduction to English Sociolinguistics を講読し、言語を社会という視点から観察する力を養うとともに、両者のかかわりについての理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション 第2回： 英語と方言 第3回： 世界における英語の役割 第4回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論 第5回： 方言研究の手法と社会言語学 第6回： 英語のスタイル 第7回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論 第8回： 言語変化が意味するもの 第9回： 言語変化と社会的要因 第10回： 言語接触全般 第11回： ピジン・クレオール・コード切り換え 第12回： 社会言語学と言語理論 第13回： 言語のコミュニティーとネットワーク 第14回： 言語計画 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への貢献度 (40%) およびレポート (60%) によって評価を行います。											
【教科書】											
Graeme Trousdale 『An Introduction to English Sociolinguistics』 (Edinburgh University Press)											
----- アメリカ文学(演習 I)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)

Sali Tagliamonte 『Analysing Sociolinguistic Variation』 (CUP)

(関連URL)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習(予習・復習)等]

教科書の予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		家人 葉子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		William Caxtonの英語									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
William Caxtonの翻訳によるテキストParis and Vienneの講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を变化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法											
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項											
第3回： Paris and Vienneの講読および初期印刷本の特徴											
第4回： Paris and Vienneの講読および中英語の綴り字											
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第6回： Paris and Vienneの講読および中英語の語順											
第7回： Paris and Vienneの講読および中英語の名詞・形容詞											
第8回： Paris and Vienneの講読および中英語の代名詞全般											
第9回： Paris and Vienneの講読および中英語の語彙											
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第11回： Paris and Vienneの講読および中英語の前置詞											
第12回： Paris and Vienneの講読および中英語の副詞											
第13回： Paris and Vienneの講読および中英語の助動詞											
第14回： Paris and Vienneの講読および中英語の動詞											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。											
【教科書】											
Early English Books Online（京都大学図書館所蔵）等を使用します。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)

Norman Davis 『Chaucer Glossary』 (Oxford University Press)

(関連URL)

<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学習(予習・復習)等]

教科書の予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他(オフィスアワー等))

メールアドレスは、<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm>にあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習 I) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代英国演劇演習A									
【授業の概要・目的】											
David Hare, The Absence of War, Act Oneの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。あわせて第3回に提出するレポートについて説明をする。</p> <p>第2回：The Absence of War 1 - 4 ページの講読と討論</p> <p>第3回：The Absence of War 5 - 8ページの講読と討論</p> <p>第4回：The Absence of War 9 - 12ページの講読と討論</p> <p>第5回：The Absence of War 13 - 16ページの講読と討論</p> <p>第6回：The Absence of War 17 - 20ページの講読と討論</p> <p>第7回：The Absence of War 21 - 24ページの講読と討論</p> <p>第8回：The Absence of War 25 - 28ページの講読と討論</p> <p>第9回：The Absence of War 29 - 32ページの講読と討論</p> <p>第10回：The Absence of War 33 - 36ページの講読と討論</p> <p>第11回：The Absence of War 37 - 40ページの講読と討論</p> <p>第12回：The Absence of War 41 - 44ページの講読と討論</p> <p>第13回：The Absence of War 45 - 48ページの講読と討論</p> <p>第14回：The Absence of War 49 - 53ページの講読と討論</p> <p>第15回：The Absence of War 54 - 56ページの講読と討論。あわせて Act Oneのまとめを行う。</p> <p>定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、第3回に提出するレポートの内容30%、平常点70%(担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加20%)にて評価する。											
----- アメリカ文学(演習 I)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

上記レポートの提出が単位取得の条件となる。提出しない者には単位は与えられないので注意すること。レポートの詳細については第1回に指示をする。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

David Hare 『The Absence of War』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571325894

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習 I) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代英国演劇演習B									
【授業の概要・目的】											
David Hare, The Absence of War, Act Twoの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。特にAct Oneの内容を振り返り、あわせて第14回に提出するレポートについて説明する。</p> <p>第2回： The Absence of War 57 - 60ページの講読と討論 第3回： The Absence of War 61 - 64ページの講読と討論 第4回： The Absence of War 65 - 68ページの講読と討論 第5回： The Absence of War 69 - 72ページの講読と討論 第6回： The Absence of War 73 - 76ページの講読と討論 第7回： The Absence of War 77 - 80ページの講読と討論 第8回： The Absence of War 81 - 84ページの講読と討論 第9回： The Absence of War 85 - 88ページの講読と討論 第10回： The Absence of War 89 - 92ページの講読と討論 第11回： The Absence of War 93 - 96ページの講読と討論 第12回： The Absence of War 97 - 100ページの講読と討論 第13回： The Absence of War 101 - 104ページの講読と討論 第14回： The Absence of War 105 - 108ページの講読と討論 第15回： The Absence of War 109 - 110ページの講読と討論。あわせてAct Twoのまとめと劇全体についての討論を行う。</p> <p>定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
----- アメリカ文学(演習 I)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[履修要件]

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

到達目標の達成度に基づき、第14回に提出するレポートの内容30%、平常点70%（担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加20%）にて評価する。

上記レポートの提出が単位取得の条件となる。提出しない者には単位は与えられないので注意すること。レポートの詳細については第1回に指示をする。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

David Hare 『The Absence of War』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571325894

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		20世紀アメリカ短篇を読む									
【授業の概要・目的】											
20世紀アメリカ(北米)文学を代表する作家たちの短篇小説を読む。取り上げる予定の作家は、Ernest Hemingway, William Faulkner, Flannery O' Connor, John Cheever, Bernard Malamud, Vladimir Nabokov, Alice Munroの7名。授業は精読(輪読)と発表形式を組み合わせる。各作家につき2回の授業をあて、1回目は作品の精読、2回目は読み切れなかった範囲についての発表とディスカッションを行う。学期末には、授業で読んだいずれかの作品について各自の視点から論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
丁寧な辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：Ernest Hemingway(精読) 第3回：Ernest Hemingway(発表、ディスカッション) 第4回：William Faulkner(精読) 第5回：William Faulkner(発表、ディスカッション) 第6回：Flannery O' Connor(精読) 第7回：Flannery O' Connor(発表、ディスカッション) 第8回：John Cheever(精読) 第9回：John Cheever(発表、ディスカッション) 第10回：Bernard Malamud(精読) 第11回：Bernard Malamud(発表、ディスカッション) 第12回：Vladimir Nabokov(精読) 第13回：Vladimir Nabokov(発表、ディスカッション) 第14回：Alice Munro(精読) 第15回：Alice Munro(発表、ディスカッション)											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

青山南 『短編小説のアメリカ 52講』（平凡社ライブラリー）

[授業外学習（予習・復習）等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『八月の光』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>フォークナー『八月の光』を講読する。20世紀アメリカ文学の最重要作品の一つとして名高い本作は、文体や視点の置き方など、表現面において種々の工夫を凝らしつつ、奴隷制度や宗教といった、アメリカという国が抱える根本問題を取り扱うものである。本作の表現・主題の両面を検討することで、英文テキストの読み方とアメリカ文学における歴史表象のあり方を包括的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
『八月の光』の講読を通じて、20世紀の言語芸術とアメリカ南部の歴史を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクションその1--William Faulknerとモダニズム 第2回：イントロダクションその2--William Faulknerとアメリカ南部 第3回：Light in August講読--Ch. 1 第4回：Light in August講読--Ch. 2 第5回：Light in August講読--Ch. 3 & 4 第6回：Light in August講読--Ch. 5 & 6 第7回：Light in August講読--Ch. 7 & 8 第8回：Light in August講読--Ch. 9 & 10 第9回：Light in August講読--Ch. 11 & 12 第10回：Light in August講読--Ch. 13 & 14 第11回：Light in August講読--Ch. 15 & 16 第12回：Light in August講読--Ch. 17 & 18 第13回：Light in August講読--Ch. 19 & 20 第14回：Light in August講読--Ch. 21 第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表は担当作品に関するもので、20分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。予習度合いについては、毎授業冒頭にて行われる【あらすじ小テスト】によって確認される。つまり、読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。</p>											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[教科書]

Faulkner, William 『Light in August』 (Vintage) ISBN:0099283158

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

毎授業で指定されたテキストの範囲内に関する小テストを行うので、予習は必須である。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 1 2 2

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		佐々木 徹 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イギリス小説精読									
【授業の概要・目的】											
Robert Louis Stevenson, "Dr. Jekyll and Mr. Hyde"を精読する。翻訳ではなく、原書の英語を読む面白さを知ってほしい。											
【到達目標】											
一語一語にこだわりながら、辞書を引いて丁寧に読む癖をつけ、英語による文学作品読解の基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 PP. 1-4 第3回 PP. 5-8 第4回 PP. 9-12 第5回 PP. 13-17 第6回 PP. 18-22 第7回 PP. 23-27 第8回 PP. 28-32 第9回 PP. 33-37 第10回 PP. 38-42 第11回 PP. 43-47 第12回 PP. 48-52 第13回 PP. 53-57 第14回 PP. 58-62 第15回 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、平常点により評価する。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはパブリック・ドメインにあるので、ネットからダウンロードできる。紙媒体を好む人はペーパーバックのテキストを各自購入すること。真剣に勉強したい人にはNorton Critical Edition (ISBN-13: 978-0393974652)を薦める。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜14:15~15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		廣田 篤彦 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Philip Larkin, The Whitsun Weddings 講読									
【授業の概要・目的】											
Philip Larkin (1922-85)は、20世紀英国を代表する詩人の一人である。この詩人の最初の詩集 The Whitsun Weddings の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英国詩と詩の言語についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の詩の特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 ・ Philip Larkinの詩の世界を楽しめるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者ならびに作品についての解説と、時代背景の概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 詩の精読と内容についての討論。講読した詩は次回までに暗記してくることが求められる（書いて提出）。</p> <p>詩の長さや難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね1 - 2篇程度を読み進めることになる。なお、講読する詩の選択には参加者の意向も考慮に入れる。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈40%、詩の暗記40%、討論への参加20%）にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[教科書]

Philip Larkin 『The Whitsun Weddings』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571326297

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は詩全体を理解したうえで暗記をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		桂山 康司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度は特にワーズワス(1770-1850)の抒情詩を中心に読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

筆記試験の成績(60点)に、発表を含む平常点評価(40点)を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

上島建吉(解説注釈)『リリカル・バラッズ(II) 愛と人生ー』(研究社小英文叢書)ISBN:9784327013013

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』(世界思想社)ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』(研究社)ISBN:9784327452216

[授業外学習(予習・復習)等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの(英詩を含む)を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度後期は、前期に引き続きWilliam Wordsworth(1770-1850)の抒情詩を読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

筆記試験の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

上島建吉（解説注釈）『リリカル・バラッズ（II）－愛と人生－』（研究社）ISBN:9784327013013

小泉博一他（編）『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

[授業外学習（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.</p> <p>2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.</p> <p>3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”</p> <p>4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.</p> <p>5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).</p> <p>6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”</p> <p>7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples</p> <p>8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).</p> <p>9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)</p>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Review Test

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Class attendance and participation in discussions (20%)
Written assignments (25%)
Class presentations (30%)
In-class test (25%)

【教科書】

Dougill, John 『Kyoto: A Cultural History』 (Oxford University Press) ISBN:978-0195301380
Kyoto Journal 『Kyoto Lives: Interviews, Memoirs, Essays』 (Kyoto Journal 70) ISBN:ISSN0913-5200 (<http://kyotojournal.org/backissues/kj-70/> (digital issue also available))
Whelan, Christal 『Kansai Cool: A Journey into the Cultural Heartland of Japan』 (Tuttle Publishing) ISBN:978-4-8053-1280-3

【参考書等】

(参考書)

【授業外学習 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 1 2 7

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film " Water, the Lifeblood of Kyoto " (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 " Dry Landscapes "; pp. 133-138 " Tea Garden " " Tea Room " .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, " The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan " (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, " Machiya Townhouses " (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film " Traditional Skills in the Kyoto State Guest House " (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Review Test

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

In-class test (25%)

【教科書】

Dougill, John 『Kyoto: A Cultural History』 (Oxford University Press) ISBN:978-0195301380

Kyoto Journal 『Kyoto Lives: Interviews, Memoirs, Essays』 (Kyoto Journal 70) ISBN:ISSN0913-5200 (<http://kyotojournal.org/backissues/kj-70/> (digital issue also available))

Whelan, Christal 『Kansai Cool: A Journey into the Cultural Heartland of Japan』 (Tuttle Publishing) ISBN:978-4-8053-1280-3

【参考書等】

(参考書)

【授業外学習 (予習・復習) 等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as ‘ Orientalist ’ or ‘ Imagist ’ . The second wave, in the 1950's, were those written by the ‘ Beat ’ poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. Students will anthologise and critique their selection of the best American and British haiku during the first semester and present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA 3. Oriental translations 4. Orientalism 5. Imagism 6. Western view of Zen 7. Beat poets 8. 1960s 9. Haiku Society of America 10. British Haiku Society 11. World Haiku 12. Haiku radio 13. Haiku in other Western media 14. Internet haiku (and critiqued anthology reports) 15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports) 											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

[履修要件]

Active participation in class.

[成績評価の方法・観点及び達成度]

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

[教科書]

使用しない

Handouts will be provided by the teacher in every class.

[参考書等]

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

[授業外学習(予習・復習)等]

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at cultivating the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for their special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation and links from last semester 2. Japanese and English: linguistic differences 3. pond frog plop! 4. Lineation, translation workshop 5. Break, image contrast (cf. famous poets' work) 6. Seasons in English Haiku I: spring 7. Seasons in English Haiku II: summer 8. Seasons in English Haiku III: autumn 9. Creating an English haiku, composition workshop 10. Seasons in English Haiku IV: winter 11. Seasons in English Haiku V: all/no season 12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku 13. Haiku 'moment' and hints on researching examples 14. Rensaku, rengay and report preparation/submission 15. Haibun and report preparation/submission 											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in class.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない

Handouts will be provided by the teacher in every class.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Cobb, David & Lucas, Martin 『The Iron Book of British Haiku』 ISBN:0906228670

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学習(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 永盛 克也 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス古典演劇入門									
【授業の概要・目的】											
フランス17世紀演劇の諸相 - 歴史的背景、劇場と劇団、主要な劇作家と作品、美学的争点 - を紹介する。18世紀以降の文学および文化の規範としての、またロマン主義以降の批判の対象としての「フランス古典演劇」を理解するためにも、まずは17世紀という時代を十分に理解する必要がある。											
【到達目標】											
「フランス古典演劇」の特質と歴史的背景を理解すること、および文学作品の分析の具体的な手法を習得することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序やテーマを変更することがある。											
第1回 イントロダクション 演劇流行の社会的背景 リシュリユの文化政策											
第2回 パリの常設劇場の誕生 新世代の劇作家と新たな観客層の出現											
第3回 演劇の擁護(コルネイユ『舞台は夢』)											
第4回 悲喜劇の流行 バロックと古典主義(『ル・シッド』論争)											
第5回 悲喜劇から悲劇へ 17世紀の劇作法の確立(コルネイユ『シンナ』)											
第6回 世紀の転換期(フロンドの乱)と新たな感性の出現(プレシオジテ)											
第7回 モリエールの喜劇 娯楽と諷刺の総合(『人間嫌い』)											
第8回 モリエールの喜劇(『タルチュフ』)											
第9回 ラシーヌの悲劇 劇作法と文体の洗練(『アンドロマック』)											
第10回 ラシーヌの悲劇(『イフィジェニー』)											
第11回 古典主義理論の確立(ボワロー『詩法』)											
第12回 オペラの流行(リュリー/キノー)											
第13回 パリの劇場の再編 レパートリー化 「古典演劇」の誕生											
第14回 17世紀演劇と新旧論争											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
期末レポート(100%)											
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみることを、授業で紹介する関連図書を参照することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 1 3 1

科目ナンバリング		U-LET21 13606 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		第一次世界大戦とフランス文学									
【授業の概要・目的】											
20世紀の起点となった第一次世界大戦（1914-1918）は、フランス近現代文学においてひとつの転換点をなしている。本講義ではこの戦争が、おもに兵士として前線に赴いた作家たちによってどのようにして、詩、小説、日記、回想録、戯曲、エッセイなどの多岐にわたる作品の中で表象されているのかを、アポリネール、ロマン・ロラン、アンリ・バルビュス、セリーヌ、ジオノ、ドリウ・ラ・ロシェル、ティヤール・ド・シャルダン、アラン、ブルースト、シュールレアリストらの作品の抜粋を読みながら解説する。											
【到達目標】											
抜粋と翻訳を通して20世紀フランス文学の代表的作品群に直接触れるとともに、文学作品の批評的読解の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
初回に第一次世界大戦の流れを紹介した上で、二回目から十五回目では、資料を配布し、作品の解説を行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートを提出してもらう予定											
【教科書】											
プリントを使用する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業中に指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 23607 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小田 涼 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス語学概論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。											
【到達目標】											
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。											
第1回：ソシールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か。											
第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(être)」的言語 (Have languageとBe language)											
第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか											
第4回：カテゴリー化 (= 範疇化) について											
第5回：冠詞と意味の切り分け (英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか)											
第6回：総称 (ものごと一般) をあらわす定冠詞単数・複数と不定冠詞単数											
第7回：名詞を修飾する形容詞の位置 「le petit Chaperon rouge (赤頭巾ちゃん) では形容詞rougeを名詞の後ろにおくのに、Blanche Neige (白雪姫) では形容詞blancheを名詞の前におくのはなぜか」											
第8回：さまざまな副詞：文副詞・様態副詞											
第9回：否定：分離的否定、否定の作用域											
第10回：叙法(mode)について (直説法、条件法、接続法、命令法)											
第11回：情報構造と語順「フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか」											
第12回：代名動詞のさまざまな用法 (再帰用法・相互用法・受動的用法)											
第13回：語調緩和の半過去「Je voulais vous demander un petit service.のような半過去になぜ語調を緩和する働きがあるのか」											
第14回：Benvenisteの人称論											
第15回：期末試験											
(第16回：フィードバック)											
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス語学)(講義)(2)

[履修要件]

フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

定期試験の成績（85％）や授業への参加度・平常点（15％）などを総合的に判断して評価を行う。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

常日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系 1 3 3

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 永盛 克也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラ・フォンテーヌ研究									
[授業の概要・目的]											
フランス17世紀の詩人ラ・フォンテーヌ(Jean de La Fontaine, 1621-1695)は古代のジャンル(イソップ寓話)を翻案により復活させ、独自の技法によって『寓話』(Fables, 1668-1694)に結実させた。フランス文学の古典として現在でも広く親しまれている作品である。授業では韻文作品を読むための基礎的な知識を確認しながら、ユーモアと批判精神にあふれたラ・フォンテーヌの世界への理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
フランス17世紀文学の特質とその成立の背景を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のようなプランで授業を進める予定である。 第1～第3週 ラ・フォンテーヌとその時代 第4～第8週 ラ・フォンテーヌの作品(1)『寓話』 第9～第11週 ラ・フォンテーヌの作品(2)その他 第12～第13週 ラ・フォンテーヌの詩学 第14週 ラ・フォンテーヌと新旧論争 第15週 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業での発表(20%)および期末レポート(80%)											
[教科書]											
プリント等を配布する											
[参考書等]											
(参考書) La Fontaine 『Fables』(folio) ISBN:2070466590 Marc Fumaroli 『Le Poète et le roi : Jean de La Fontaine en son siècle』(Éditions de Fallois) ISBN: 2253904619											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目	Travel and Utopia in eighteenth century France : Diderot's Supplément au voyage de Bougainville (1772).										
【授業の概要・目的】											
<p>This class will be focused on the analysis of a famous utopian novel written by Denis Diderot, a French philosopher of the Enlightenment (1713-1784) : Le Supplément au voyage de Bougainville (1772). We will present different backgrounds to understand its importance : European travels and discoveries in eighteenth century, the utopian novels and philosophical tales of the time, the political and philosophical debate about nature, moral and society before the French Revolution.</p>											
【到達目標】											
<p>This class aims at developing the knowledge of eighteenth century French literature, culture and philosophical debates. At the same time, we will analyse specific excerpts with French analytic tools used in French commentaries.</p> <p>This study of one of the most famous writer of the century will also give us the opportunity to think about the relationship between literature (fiction, utopia) and political debates.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) on the subject of Diderot's live and work, during the remaining weeks 2 to 14, we will read and analyze the Supplément au voyage de Bougainville (1772) ”</p> <p>Every lecture will be divided into two parts : a thematic presentation of the backgrounds of the book (life of Diderot, history, literature and philosophy of the time), and the analysis of an excerpt of the novel, going from the start to the end, or the analysis of an excerpt which can be compared to the text.</p>											
【履修要件】											
<p>The class is open to every kind of students who are interested in French literature, philosophy and history. They must have a good level in (academic) French to understand the documents and the explanations entirely given in French.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final essay in French about the contents of the whole course. However, the global grade will be given in consideration not only of these tests but also of the attendance and activity during the whole semester.</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Edition :

Le Supplément au voyage de Bougainville, Michel Delon (ed.), Paris, Gallimard, Folio classique 3775, 2002.

[授業外学習(予習・復習)等]

It is asked to students to read and prepare beforehand some texts that we will comment during the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Love, passion and hatred in Diderot's and Laclos's novels									
【授業の概要・目的】											
<p>This class will be a study of different tales and novels by Diderot (1713-1784) and one of the most famous French novel in eighteenth century : Les Liaisons dangereuses, by Choderlos de Laclos (1741-1803). We will develop a structural approach of the relationship between the characters engaged in very complicated, problematic and sometimes libertine love affairs.</p> <p>We will at the same time explain the cultural environment of these texts, love affairs being related to the very specific way of life in eighteenth century France.</p>											
【到達目標】											
<p>This class aims at developing the knowledge of eighteenth century French literature, culture and philosophical debates. At the same time, we will analyse specific excerpts with French analytic tools used in French commentaries.</p> <p>This study of some of the most famous novels and tales of French eighteenth century will also give us the opportunity to think about the relationship between literature and cinema.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) on the subject of Diderot's and Laclos's life and works, during the remaining weeks 2 to 14, we will read and analyze tales by Diderot and Les Liaisons dangereuses by Laclos. Every lecture will be divided into two parts : a thematic presentation of the backgrounds of the books, and the analysis of an excerpt of the novel, going from the start to the end, or the analysis of an excerpt which can be compared to the text. Some extracts from movies adapted from those specific novels will be used.</p>											
【履修要件】											
<p>The class is open to every kind of students who are interested in French literature, philosophy and history. They must have a good level in (academic) French to understand the documents and the explanations entirely given in French.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final essay in French about the content of the whole course. However, the global grade will be given in consideration not only of these tests but also of the attendance and activity during the whole semester.</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する Editions : Choderlos de Laclos, Les liaisons dangereuses, Paris, Gallimard, Folio Classiques, 2006.</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

Denis Diderot, Jacques le fataliste, Paris, Gallimard, Folio Classiques, 2006.

Denis Diderot, Madame de la Pommeraie, suivi de Madame de la Carli#232re, Paris, Le Livre de Poche, 2012.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

It is asked to students to read and prepare beforehand some texts that we will comment during the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ポール・ヴァレリー「若きパルク」を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ポール・ヴァレリー（1871-1945）の代表作にして最重要詩篇である「若きパルク」（1917）を精読する。マラルメの愛弟子として若くして優れた詩篇を発表していたヴァレリーは、「レオナルド・ダ・ヴィンチの方法序説」（1895）や「テスト氏との一夜」（1896）などの作品を発表した後、文学への深い懐疑から作品の発表をやめ沈黙期に入っており、1894年以来書き始めた思索ノート「カイエ」だけが彼のエクリチュールの実践の場であった。しかし、青年期の詩篇を詩集にまとめるための改訂作業がきっかけとして、文学への訣別として書き始めた詩篇は当初の予想を裏切って512行の長篇詩篇「若きパルク」となる。4年以上にわたるその執筆過程において、ヴァレリーは文学に対するそれまでの抽象的思索を実際の詩作体験と結びつけ、第一次大戦後に華々しく展開される批評テキストの基礎となる省察を行うことにもなった。「若きパルク」を書かなければヴァレリーはヴァレリーにならなかつたと言っても過言ではない。</p> <p>本講義では、このように重要な意義をもつ「若きパルク」を参加者による輪読形式で精読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。 ・ 複雑な構文、豊富な語彙をもつ文学作品をある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。 ・ 文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 イントロダクション：ポール・ヴァレリー、人と作品。 第3回～第14回 「若きパルク」：各担当者による発表と原文精読。 第15回 まとめ。</p>											
【履修要件】											
フランス語文法の概要を習得していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点 50%、期末試験 50%											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

必ず予習をして授業に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『失われた時を求めて』における戦争とユダヤ人									
【授業の概要・目的】											
マルセル・プルースト（1871-1922）の作品におけるユダヤ性・反ユダヤ主義の問題は、近年欧米・日本をはじめとする世界の研究者たちの間で最も重要な研究課題のひとつとなりつつある。本年度の授業では、前年度に行ったプルーストの『ソドムとゴモラ』第一部におけるユダヤ人とドレフュス事件の描写の分析成果を踏まえつつ、『失われた時を求めて』（1913-1927）の第一次世界大戦勃発以降に執筆された部分に現れたユダヤ人像を読み解きながら、文学作品と政治・歴史との関わりを考察する。											
【到達目標】											
文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には【 】で指示した週数を充てるが、各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
1. 『ゲルマンのほう』第2部と『ソドムとゴモラ』第2部におけるスワンの病と死【3～4週】											
2. 『囚われの女』におけるフェルメールの黄色い壁【2～3週】											
3. アルベルチーヌの物語（『囚われの女』、『消え去ったアルベルチーヌ』）におけるドレフュス事件の記憶およびユダヤ民族の記憶の隠喩化【3～4週】											
4. 『見出された時』におけるドレフュス事件と第一次世界大戦の記述【3～4週】											
5. 総括【1週】											
フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート（一回、100点満点、60点以上で合格） 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
授業中にプリント等を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

【授業外学習（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジャック・ランシエール『文学の政治学』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>現代フランスを代表する哲学者ジャック・ランシエールの『文学の政治学Politique de la littérature』(2007)を精読する。</p> <p>ランシエールは、19世紀以降の近代文学を特徴づけるために、それ以前の古典主義的詩学について語っている。すなわち、アリストテレスの詩学に大きく規定された古典主義的文芸は、次の四つの原理によって成立していたという。第一に、フィクションないし模倣の原理。文学は言語的特性によってではなく、ある物語を模倣することにおいて成立する。第二、ジャンルの原理。ジャンルと、その表象する対象の性質とは一致しなければならない(例えば、描かれているのが偉人か普通の人かで悲劇と喜劇が区別される、など)。第三、適切さ(convenance)の原理。登場人物はそれにふさわしい行為と調子を持っていなくてはならない。そして最後に現動性(actualité)の原理。古典主義文学でもっとも重要なのは行為化された言葉、実践された言語であり、話し方の技術である。19世紀以降の近代文学はこの4つの原理をすべて転覆させた、というのがランシエールの見立てである。フィクションの原理は言語の優位によって、ジャンルの原理はすべての主題の平等性によって、適切さの原理は描かれる対象と文体との乖離によって、行為的言語の原理はエクリチュールの優位によって。近代文学では誰もが作家になりえるし、誰もが読者になりえる。このとき言葉は、古典主義に特徴的であった確固とした宛先を失い、「沈黙した言葉」、「彷徨する文字(手紙)」と化す。そして、文学の生産者と受容者が匿名化し任意の存在になると同時に、主題を秩序づけていたヒエラルキーも解体され平準化される。つまり、あらゆることが主題となりえ、特定の表現手段が特権化されることもない。ひとことで言えば、近代のエクリチュールは「民主化」されたのである。</p> <p>ランシエールの言う文学と政治の問題は、作家の政治参加(アンガジュマン)を指すわけでもないし、作品において社会組織や政治運動がどのように表象されているかといった問題でもない。彼自身の定式化によれば、「文学は文学として政治に携わる」。ここで言われる政治は、いわゆる「感覚的なものの分割(パルタージュ)」と呼ばれるものにかかわる。政治とは、何が共同のものなのか、共同のものについて語りうるのは誰か(そして誰が語りえないのか)、その境界を別つ分割をめぐって行われる。ランシエールが「文学の政治」というときに意味しているのは、文学は、このようにして引かれるさまざまな分割線を攪乱するように介入するのだ、ということである。つまり、さまざまな領域に分割され配分された存在・行為・言語のおりなす諸関係を再編する作用を、文学のうちに見るわけである。</p> <p>授業では「仮説」と題された理論的省察と『ボヴァリー夫人』を題材としたエッセーを輪読形式で読むこととする。</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

【到達目標】

- ・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。
- ・複雑な構文、豊富な語彙をもつ思想的テキストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。
- ・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。

【授業計画と内容】

- 第1回 イン트로ダクション：授業の概要と進め方
第2回～第7回 Politique de la littérature (p. 11-39)
第7回～第9回 Le Malentendu littéraire (p. 41-55)
第10回～第14回 La mise à mort d'Emma Bovary (p. 59-83)
第15回 まとめ

【履修要件】

フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点50%、期末試験50%

【教科書】

Jacques Rancière 『Politique de la littérature』(Galilée) ISBN:9782718607351
現在絶版のようですので、コピーを配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 教授 岩根 久 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス・ルネサンスにおける古典の受容と詩の実践 - ロンサールを中心に -									
【授業の概要・目的】											
中世から古典期へと移行する時期にあたる16世紀は、フランス文学史において重要な位置を占めている。古典期に与えた影響は言うに及ばず、19世紀において特にロマン派の詩に与えた影響は大きい。本授業は、この時期のテキストの正確な読解と評価の仕方について考察を行い、フランス16世紀の詩および詩論を通して、フランス文学史の知見を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語への基本的な理解、当時の詩人たちが目指していた文芸上の理想について理解を深める。											
【授業計画と内容】											
第1回 ヨーロッパにおけるルネサンスと人文主義(1)											
第2回 ヨーロッパにおけるルネサンスと人文主義(2)											
第3回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(1)											
第4回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(2)											
第5回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(3)											
第6回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(4)											
第7回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(5)											
第8回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(6)											
第9回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(7)											
第10回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(8)											
第11回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(9)											
第12回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(10)											
第13回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(11)											
第14回 古典の受容と詩の実践：ロンサール(12)											
第15回 これまでの授業の統括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートで、成績を評価する。ただし、授業内容を理解した上で、オリジナルな見解が盛り込まれていること。 授業回数の3分の2以上出席すること、3回以上連続で欠席しないことが、単位取得の条件である。											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is an initiation to speech and debate about French contemporary society, but also the comparison between French and Japanese culture. We will analyse different sorts of documents to start the discussion, press articles, radio or tv programs, documentaries, songs, etc. The course proposes a progressive training to the debate, interview, critical report, etc.</p> <p>We will adapt to cultural, social and political news and current events and each lecture will be focused on a topic. We will view vocabulary, phrases and grammatical structures on those topics to develop a critical point of view.</p>											
【到達目標】											
<p>This class is meant for every kind of students who want to complete their specialization with a more concret approach of French contemporary society. It is a good way to prepare a trip to France by improving your skills to talk and debate. It helps to develop your reflexion in French about current events.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercices of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will debate on different themes, exploiting written and visual documents.</p> <p>This class requires an active participation of the students to furnish and exploite the subjects of debates. Students must talk, ask question to each other and sometimes present short presentations to the others.</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to every kind of students with this only condition that they can speak and understand enough French to participate in a discussion and also to read the documents.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>Students will receive grades due to their presence and participation. They will have to propose a short presentation during the semester to the class, and a short report to the professor at the end of the semester.</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

Students are invited to read the documents given during the class and to check regularly French main newspapers website to identify the current events.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is an initiation to speech and debate about French contemporary society, but also the comparison between French and Japanese culture. We will analyse different sorts of documents to start the discussion, press articles, radio or tv programs, documentaries, songs, etc. The course proposes a progressive training to the debate, interview, critical report, etc.</p> <p>We will adapt to cultural, social and political news and current events and each lecture will be focused on a topic. We will view vocabulary, phrases and grammatical structures on those topics to develop a critical point of view.</p>											
【到達目標】											
<p>This class is meant for every kind of students who want to complete their specialization with a more concret approach of French contemporary society. It is a good way to prepare a trip to France by improving your skills to talk and debate. It helps to develop your reflexion in French about current events.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercices of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will debate on different themes, exploiting written and visual documents.</p> <p>This class requires an active participation of the students to furnish and exploite the subjects of debates. Students must talk, ask question to each other and sometimes present short presentations to the others. We shall talk about new issues, different from the ones of the first semester.</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to every kind of students with this only condition that they can speak and understand enough French to participate in a discussion and also to read the documents.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>Students will receive grades due to their presence and participation. They will have to propose a short presentation during the semester to the class, and a short report to the professor at the end of the semester.</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

Students are invited to read the documents given during the class and to check regularly French main newspapers website to identify the current events.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 永盛 克也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
【授業の概要・目的】											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、テキスト解釈法 explication de texte やコメンタリー執筆 commentaire composéを通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。											
【到達目標】											
文学的テキストの分析手法やコメンタリー執筆の手順を身につけることによってフランス文学研究の基本的な技法を身につけることをめざす。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション テキスト解釈法 explication de texte の方法 第2回 イン트로ダクション コメンタリー執筆 commentaire composé の手順 第3回～第9回 テキスト解釈法の実際を学ぶ（基礎的な読解力の養成） 第10回 中間レポートのフィードバック 第11回～第13回 コメンタリー執筆の実際を学ぶ（分析結果の文章化） 第14回 口頭発表 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（授業での発表と課題の提出）が重視される（80%）。そのほかに、中間レポート、学期末レポートが課される（20%）。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
[授業の概要・目的]											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。											
[到達目標]											
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。											
[授業計画と内容]											
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第10回 文学批評テキストの抜粋を和訳および要約 第11回～第15回 受講者による発表											
[履修要件]											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価											
[教科書]											
授業中にプリント等を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 1 4 4

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 永盛 克也 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランス文学の古典を読む									
[授業の概要・目的]											
フランス19世紀の作家スタンダール (Stendhal, 1783-1842) の代表作 『赤と黒』 Le Rouge et le Noir (1830) の抜粋を精読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 音読も重視しつつ、訳読を進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習と授業への積極的な参加が求められる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業での発表 (90%) と期末課題 (10%)											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと (その他 (オフィスアワー等))											
授業内での積極的な質問を歓迎する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 1 4 5

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		プルーストの芸術論を読む									
[授業の概要・目的]											
フランス19・20世紀文学を代表する小説家マルセル・プルースト (Marcel Proust, 1871-1922) の小説『失われた時を求めて』 (A la recherche du temps perdu, 1913-1927) に描かれた、絵画、音楽、建築を中心とする芸術作品の描写、芸術論の抜粋を読む。必要に応じてプルーストの美術批評も併読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 いくつかの抜粋を、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習が求められる。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと (その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松原 冬二 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アンドレ・ピエール・ド・マンディアルグの短篇小説を読む									
【授業の概要・目的】											
フランス20世紀を代表する幻想作家アンドレ・ピエール・ド・マンディアルグ (A. Pieyre de Mandiargues, 1909-1991) の幻想短篇小説を数篇とりあげ、精読する。マンディアルグのテキストの読解をとおして、20世紀から現代までの科学全盛の時代における (SFとはことなる) 幻想文学の今日性をさぐる。											
【到達目標】											
フランス語の読解能力を高め、短篇小説を独力で通読する体験をとおして、達成感とともに外国語への抵抗感をなくすことを目指す。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 作者とその作品の紹介および授業の進め方の説明。 第2回～第14回 マンディアルグの短篇小説の精読 (毎回担当者を決めて訳文を発表してもらう)。 扱うテキストは、マンディアルグの短篇小説集『黒い美術館』、『狼たちの太陽』、『燠火』、『海嘯』、『みだらな扉』、『刃の下で』、『薔薇の葬列』のなかから、進度に応じて適宜選択する。 第15回 まとめ 20世紀フランス文学における幻想文学の位置づけ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
訳読に基づいた平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習 (予習・復習) 等】											
予習: 担当者は訳文を準備すること。担当者以外も次回に進む部分を訳読し、授業に臨むこと。 復習: 授業で進んだ部分の構文や表現を理解し、次回以降に生かすこと。											
(その他 (オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 23662 PJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(外国語実習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Charles VINCENT 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	実習	使用 言語	フランス語
題目		Grammar and expression. Initiation to linguistic and stylistic analyses.									
【授業の概要・目的】											
Grammar, vocabulary, the logic of the speech are analysed in this class, as well as it initiates students to some stylistic tools. The class both aims at reinforcing important notions of French language and at showing how a message is shaped by the way we choose to express it.											
【到達目標】											
The aim of this class is to help students to use the linguistic structures which are the most appropriate to what they intend to say, and to teach them how to analyze the meaning of any type of text and speech through their formal organization.											
【授業計画と内容】											
After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, during the remaining weeks 2 to 14, we will train on various exercises, fitting the schemes of the exam : questions, sentences to complete, simple text writing, transformations of sentences due to a change in the point of view. Grammatical structures, lexical fields, story and speech categories, are the main objects of this course.											
【履修要件】											
This course is meant for third year students who are specialized in French Literature, but every student who wants or must use French language in his research can find an interest in it.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
There shall be an intermediary test and, at the end of the semester, a final DELF test. However, the global grade will be given in consideration not only of these tests but also of the attendance and activity during the whole semester.											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- フランス語学フランス文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学 (外国語実習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

Before the lecture, it is necessary to learn grammar and lexical elements and to do preparatory exercises (indications will be given each time by the teacher).

(その他 (オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史									
【授業の概要・目的】											
イタリア文学は中世から現代に至るまで長きにわたって多数の傑作を生みだしています。特に13世紀から16世紀の俗語文学は、イタリアのみならず広くヨーロッパ諸地域の文学作品に影響を及ぼしています。前期の講義では特に13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。											
【到達目標】											
イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション											
第2-14回：（1つの項目につき2・3回の授業）。											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語（俗語）の成立について ・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち ・ダンテと『神曲』について ・ペトラルカと『カンツォニエーレ』 ・ボッカッチョと『デカメロン』 											
第15回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（30％）出席確認をかねた質問票を数回配布する予定。 期末のレポート（70％）。											
【教科書】											
プリント配布。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介する作品を、積極的に読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史									
【授業の概要・目的】											
イタリア文学は中世から現代に至るまで長きにわたって多数の傑作を生みだしています。特に13世紀から16世紀の俗語文学は、イタリアのみならず広くヨーロッパ諸地域の文学作品に影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。											
【到達目標】											
イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション											
2回～14回：(1つの項目につき2・3回の授業)。											
<ul style="list-style-type: none"> ・人文主義について ・騎士物語(ボイアルドとアリオスト) ・言語論争 ・マキアベッリと『君主論』 ・インプレーザとメタファーについて ・創作理論の探求(トルクァート・タッソの詩論) 											
第15回：フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(30%)出席確認をかねた質問票を数回配布する予定。 期末のレポート(70%)。											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介する作品や論考を、積極的に読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菊池 正和 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		レオナルド・シャーシャが見るシチリア									
【授業の概要・目的】											
シチリア出身の作家レオナルド・シャーシャは、イタリア文学史上初めてマフィアを告発する作品を書いた作家として知られているが、その射程となった社会問題は広範にわたる。この講義においては、シチリアを題材とした初期の評論作品を精読しながら、統一後のイタリアにおいて社会的・文化的に特異な位置を占めるシチリアについての理解を深めたい。											
【到達目標】											
現代イタリアにおけるシチリアの特異性を理解する。 評論文を正確に理解し、その内容について討論できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の概要の説明											
第2回～第5回 評論 "Sicilia e sicilitudine" の読解と検証											
第6回～第8回 評論 "La corda pazza" の読解と検証											
第9回～第11回 評論 "La zolfara" の読解と検証											
第12回～第14回 評論 "La vera storia di Giuliano" の読解と検証											
第15回 フィードバックと全員によるテーマ討論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(50%)と期末レポート(50%)を基に評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Leonardo Sciascia 『La corda pazzo』 (Adelphi) ISBN:88-459-0853-4

[授業外学習(予習・復習)等]

テキストの精読をベースにした授業なので予習が不可欠である。単語の意味を調べ終えた後にどれだけ内容理解に時間をとれるかが学習の鍵となる。

また、授業後は履修した箇所を音読すること。イタリア語を正確に発音しながら内容が頭に入ってくるまで繰り返し読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。

m_kikuch@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Monografico di Letteratura Italiana									
[授業の概要・目的]											
Manoscritti, incunabula e cinquecentine nelle biblioteche giapponesi.											
[到達目標]											
Il corso si propone di esaminare la presenza di manoscritti e stampe antiche di opere in lingua italiana conservati presso le biblioteche giapponesi pubbliche e private.											
[授業計画と内容]											
Durante il corso si esamineranno i cataloghi a stampa e digitali delle varie biblioteche giapponesi alla ricerca di manoscritti e stampe antiche (fino all'anno 1601) in lingua italiana. Si raccoglieranno informazioni su possessori, collezionisti, glossatori, venditori, compratori e conservatori, attraverso cui si potrà tracciare una più accurata storia della cultura italiana in Giappone dal tardo Medioevo ai giorni nostri.											
[履修要件]											
Corso destinato esclusivamente a studenti con un ottimo livello d'italiano.											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
È ammessa una sola assenza. Si valuterà l'acquisizione degli argomenti svolti durante le lezioni; la conoscenza dei testi e dei saggi previsti sarà verificata durante il corso, misurando la capacità di commentare e interpretare i testi letterari e di inquadrarli nel periodo storico-letterario a cui essi appartengono.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
È richiesto agli studenti del corso un intenso coinvolgimento nelle attività seminariali attraverso l'approfondimento individuale o di gruppo di alcuni argomenti trattati.											
(その他(オフィスアワー等))											
Lezioni di tipo seminariale. È prevista la partecipazione attiva degli studenti. オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系 1 5 2

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Monografico di Letteratura Italiana									
[授業の概要・目的]											
Iter Iaponicum: per un censimento del libro antico italiano in Giappone.											
[到達目標]											
In questo corso si avviano le operazioni preliminari alla creazione di un catalogo -in formato digitale e cartaceo- di manoscritti medievali e rinascimentali e di antichi libri a stampa in lingua italiana conservati in Giappone.											
[授業計画と内容]											
Il corso è complementare a un lavoro svolto sul campo: i dati raccolti attraverso l'osservazione diretta degli esemplari in biblioteche e istituti saranno elaborati ed analizzati al fine di redigere delle schede del catalogo unico. Si forniranno tutte le nozioni di codicologia, paleografia, cultura della stampa, storia del libro, bibliografia necessarie alla realizzazione del censimento.											
[履修要件]											
Corso destinato esclusivamente a studenti con un ottimo livello d'italiano.											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
È ammessa una sola assenza. Si valuterà l'acquisizione degli argomenti svolti durante le lezioni; la conoscenza dei testi e dei saggi previsti sarà verificata durante il corso, misurando la capacità di commentare e interpretare i testi letterari e di inquadrarli nel periodo storico-letterario a cui essi appartengono.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
È richiesto agli studenti del corso un intenso coinvolgimento nelle attività seminariali attraverso l'approfondimento individuale o di gruppo di alcuni argomenti trattati.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Istituzionale di Storia della Letteratura Italiana									
【授業の概要・目的】											
Storia della Letteratura Italiana I: Il Trecento											
【到達目標】											
Scopo di questo corso è la conoscenza della storia della letteratura italiana, suddivisa in due fasi (I. Il Trecento. II: Il Quattro e Cinquecento). La lettura diretta di alcuni testi fornirà allo studente una buona conoscenza degli autori e dei periodi della letteratura italiana, nonché gli strumenti teorici, metodologici, critici necessari all'analisi e all'interpretazione delle opere letterarie.											
【授業計画と内容】											
Il corso è dedicato all'apprendimento della storia della letteratura italiana, dalle origini fino alla seconda metà del Novecento. Si esamineranno le nozioni principali dell'analisi metrica, stilistica e retorica, le questioni storico-critiche fondamentali della letteratura e della lingua letteraria. Sono previste alcune lezioni di introduzione alla storia della lingua italiana e all'analisi testuale.											
【履修要件】											
Corso particolarmente impegnativo e destinato esclusivamente a studenti di lingua italiana di livello intermedio e superiore, e a coloro che affrontano per la prima volta lo studio della letteratura italiana. È richiesta allo studente, oltre alla padronanza della lingua italiana, la conoscenza di base della Storia letteraria, e degli elementi basilari di metrica e stilistica e retorica.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Lezioni di tipo seminariale, con lettura, analisi, commento dei testi, discussione ed elaborazione di ipotesi interpretative. È ammessa una sola assenza. Allo studente è richiesto settimanalmente di studiare alcune nozioni di storia della letteratura italiana tratte dai manuali e di leggere in anticipo il testo letterario argomento della lezione.											
【教科書】											
授業中に指示する Dispense saranno consegnate settimanalmente in classe. Nelle lezioni di introduzione saranno fornite informazioni su manuali, antologie, bibliografia e altri strumenti.											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

Allo studente è richiesto settimanalmente di studiare alcune nozioni di storia della letteratura italiana tratte dai manuali e di leggere in anticipo il testo letterario argomento della lezione.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Istituzionale di Storia della Letteratura Italiana									
【授業の概要・目的】											
Storia della Letteratura Italiana II: Il Quattro e Cinquecento.											
【到達目標】											
Scopo di questo corso è la conoscenza della storia della letteratura italiana, suddivisa in due fasi (I. Il Trecento. II: Il Quattro e Cinquecento). La lettura diretta di alcuni testi fornirà allo studente una buona conoscenza degli autori e dei periodi della letteratura italiana, nonché gli strumenti teorici, metodologici, critici necessari all'analisi e all'interpretazione delle opere letterarie.											
【授業計画と内容】											
Il corso è dedicato all'apprendimento della storia della letteratura italiana, dalle origini fino alla seconda metà del Novecento. Si esamineranno le nozioni principali dell'analisi metrica, stilistica e retorica, le questioni storico-critiche fondamentali della letteratura e della lingua letteraria. Sono previste alcune lezioni di introduzione alla storia della lingua italiana e all'analisi testuale.											
【履修要件】											
Corso particolarmente impegnativo e destinato esclusivamente a studenti di lingua italiana di livello intermedio e superiore, e a coloro che affrontano per la prima volta lo studio della letteratura italiana. È richiesta allo studente, oltre alla padronanza della lingua italiana, la conoscenza di base della Storia letteraria, e degli elementi basilari di metrica e stilistica e retorica.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Lezioni di tipo seminariale, con lettura, analisi, commento dei testi, discussione ed elaborazione di ipotesi interpretative. È ammessa una sola assenza. Allo studente è richiesto settimanalmente di studiare alcune nozioni di storia della letteratura italiana tratte dai manuali e di leggere in anticipo il testo letterario argomento della lezione.											
【教科書】											
授業中に指示する Dispense saranno consegnate settimanalmente in classe. Nelle lezioni di introduzione saranno fornite informazioni su manuali, antologie, bibliografia e altri strumenti.											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

Allo studente è richiesto settimanalmente di studiare alcune nozioni di storia della letteratura italiana tratte dai manuali e di leggere in anticipo il testo letterario argomento della lezione.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菊池 正和 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		レオナルド・シャーシャの初期短編作品を読解する									
[授業の概要・目的]											
前期に引き続きレオナルド・シャーシャを取り上げ、初期の短編作品を読解しながら、作家の問題意識を理解する。											
[到達目標]											
作家の問題意識を正確に把握し、社会背景に関する知識と絡めて文学研究に取り組む能力を養う。 現代の小説を正確に速く読解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 授業の概要の説明											
第2回～第6回 短編集"Le parrocchie di Regalpetra"から作品を選び精読する。 第7回～第11回 短編集"Gli zii di Sicilia"から作品を選び精読する。 第12回～第14回 短編集"Il mare colore del vino"から作品を選び精読する。											
第15回 フィードバックと全員によるテーマ討論											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(50%)と期末レポート(50%)を基に評価する。											
[教科書]											
プリント等を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Leonardo Sciascia 『Opere [1956.1971]』 (Bompiani) ISBN:88-452-3254-9											
[授業外学習(予習・復習)等]											
テキストの精読をベースにした授業なので予習が不可欠である。単語の意味を調べ終えた後にどれだけ内容理解に時間をとれるかが学習の鍵となる。 また、授業後は履修した箇所を音読すること。イタリア語を正確に発音しながら内容が頭に入ってくるまで繰り返し読むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等は授業前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。 m_kikuch@lang.osaka-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史概説講読(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colarizziの“Storia del Novecento italiano”の第1章を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア現代史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。なおフィードバックについては学期末に指示を出す予定です。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、小テスト、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を紹介します。また第一章の冒頭部分を実際に読みながらイタリア語の読解にあたって注意すべき点を確認する予定です。</p> <p>2回～14回 必要に応じて文法事項を確認しながら読み進めます。文法の知識にしたがって正確に読解することを重視します。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
小テストをもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握するよう努めてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを確認することが肝要です。また小テストでチェックされたところも見直しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史概説講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーダ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第6章<La prima lotta fra papato e impero>を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、小テスト、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。またテキストの冒頭部分を試しに読んでみる予定です。</p> <p>2回～14回(講読) 文法の知識にしたがって正確にイタリア語を読み進めます。重要な文法事項についてはその都度確認をします。また専門用語や固有名詞については適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
小テストをもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解することを心がけてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを確認することが重要です。また小テストでチェックされたところを見直しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36										
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際教育総合センター 教授 文学研究科			河合 成雄 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語	
題目		ルイーゼ・ピランデッロの代表的作品の抜粋の講読										
[授業の概要・目的]												
2019年度は前後期一貫してピランデッロを読むが、特に前期は入門的な位置づけで、できるかぎり多くの作品を概観する。 ピランデッロの作品に親しむとともに、文学史的に位置づけることも学ぶ。同時に、イタリア語の基礎的な読解力を習得する。												
[到達目標]												
授業時の読み物だけでなく、自主的に読解する力を養う。さらには、文学史的に作品を考察する力を身につける。また、ピランデッロの全体像を把握できるようになる。												
[授業計画と内容]												
ピランデッロの戯曲や長編の代表的作品の抜粋を読む一方で、短篇小説も一つ選び鑑賞する。 第1回～第3回：ピランデッロの作品の時代背景、文学史的な説明をしながら簡単なイタリア語の文章を読む。 第4回～第9回：ピランデッロの代表的作品『作者を探す6人の登場人物』『エンリーコ四世』などを2週間に一遍ずつ選び、その抜粋を読む。 第11回～第14回：短篇小説を選び、1, 2本を読み切る。 授業時に何を読むかは、参加者で選ぶ。												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
平常点50%（授業時の発表）、期末試験（筆記）50% ただし、単位取得が必要な学生が5名以下の場合には、授業時の発表を重視する。												
[教科書]												
適宜、プリントを配布する。												
[参考書等]												
（参考書） 授業中に紹介する												
[授業外学習（予習・復習）等]												
必ず次回に読む部分については予習すること。詳細については授業時に指示する。												
（その他（オフィスアワー等））												
少人数が予想されるので授業時間後に対応。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36										
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際教育総合センター 教授 文学研究科			河合 成雄 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語	
題目		ルイーゼ・ピランデッロの劇中劇『各人各様に』を読む										
[授業の概要・目的]												
前期に引き続きピランデッロの作品を読むが、後期では、一つの演劇作品に絞ることにより、より深く原文を読み取る力を養う。												
[到達目標]												
イタリア語の原文を正しく読み取るだけでなく、時代背景や著者の意図なども考えながら自力で読解する力も養う。												
[授業計画と内容]												
第1回 ピランデッロの劇中劇三部作についてのイントロダクション 第2回～第14回 『各人各様にCiascuno a suo modo』を精読する。その一方で、他の劇中劇も意識しながら、作品についてディスカッションを行う。 第15回 試験												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
原則として、期末試験(筆記)50%、平常点(授業内での発表および発言)50%で評価する。極端に参加人数が少ない場合には筆記試験は実施せず、最終回では『各人各様に』とピランデッロについて議論をすることにして、平常点のみでの評価とする。												
[教科書]												
ピランデッロの『各人各様に』のテキストはコピーと電子版と両方を授業時に配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学習(予習・復習)等]												
必ず次回に読む部分については予習すること。詳細については授業時に指示する。												
(その他(オフィスアワー等))												
少人数が予想されるので授業時間後に対応 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

西洋文化学系 160

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学（外国語実習） Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Esercitazioni di lingua italiana: Cronache di viaggio tra Italia e Giappone									
【授業の概要・目的】											
Il corso mira al perfezionamento della conoscenza della lingua italiana attraverso la lettura di: Primo semestre: alcune cronache italiane di viaggio in Giappone.											
【到達目標】											
Consentire allo studente di migliorare le proprie competenze linguistiche in fatti di lessico, morfologia, sintassi, di ampliare il registro linguistico e perfezionare pronuncia e comprensione scritta.											
【授業計画と内容】											
L'esame di alcune cronache di viaggio, romanzi, blog e videoblog consentirà allo studente di migliorare le proprie competenze linguistiche in fatti di lessico, morfologia, sintassi, di ampliare il registro linguistico e perfezionare pronuncia e comprensione scritta.											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente attraverso la lettura e lo svolgimento di esercizi settimanali. Inoltre, periodicamente saranno assegnati esercizi preparatori alla lezione, da svolgere individualmente o in gruppo.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
Periodicamente saranno assegnati esercizi preparatori alla lezione, da svolgere individualmente o in gruppo.											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学（外国語実習） Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当准教授 Marco Daniele LIMONGELLI 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Esercitazioni di lingua italiana: come scrivere in italiano									
【授業の概要・目的】											
Il corso mira al perfezionamento della conoscenza della lingua italiana attraverso la lettura di: Secondo semestre: alcuni saggi sulla corretta scrittura in italiano											
【到達目標】											
Consentire allo studente di migliorare le proprie competenze linguistiche in fatti di lessico, morfologia, sintassi, di ampliare il registro linguistico e perfezionare pronuncia e comprensione scritta.											
【授業計画と内容】											
Secondo semestre: la lettura di alcuni saggi sulla lingua italiana fornirà agli studenti utili indicazioni su come si scrive: si analizzeranno cattivi e buoni esempi, argomentazioni scorrette e artifici retorici e si forniranno le regole necessarie per accrescere la dimestichezza con la lingua italiana.											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Si richiede una partecipazione attiva da parte dello studente attraverso la lettura e lo svolgimento di esercizi settimanali. Inoltre, periodicamente saranno assegnati esercizi preparatori alla lezione, da svolgere individualmente o in gruppo.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
Periodicamente saranno assegnati esercizi preparatori alla lezione, da svolgere individualmente o in gruppo.											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36									
授業科目名 <英訳>	西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	准教授	CIESKO, Martin		
							文学研究科	教授	中村 唯史		
						文学研究科	准教授	川島 隆			
						文学研究科	教授	廣田 篤彦			
						文学研究科	准教授	小林 久美子			
						文学研究科	准教授	永盛 克也			
						文学研究科	准教授	村瀬 有司			
						文学研究科		確認用			
配当 学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	西洋文学入門										
[授業の概要・目的]											
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、英文学、フランス文学、ロシア文学、アメリカ文学、ドイツ文学等の作品やジャンルやモチーフをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。											
[到達目標]											
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
西洋古典文学(Ciesko)											
第1週 イントロダクション(廣田)/ ソフォクレス『オイディプス王』											
第2週 エウリピデス『メデア』											
イタリア文学(村瀬)											
第3週 物語の魅力：大枠から細部まで(ボッカッチョ『デカメロン』)											
第4週 力と運命(マキアヴェッリ『君主論』)											
英文学(廣田)											
【どの版でも良いので『ハムレット』の日本語訳(または英語版)を持参すること】											
第5週 演劇テキストと劇場構造(シェイクスピア『ハムレット』1)											
第6週 西洋古典とエリザベス朝演劇(シェイクスピア『ハムレット』2)											
フランス文学(永盛)											
第7週 モラリスト文学の系譜(モンテーニュ『エッセー』、パスカル『パンセ』、ラ・ロシュフーコー『箴言集』)											
第8週 青年の野心の物語(スタンダール『赤と黒』、バルザック『ゴリオ爺さん』、フロベール『感情教育』)											
ロシア文学(中村)											
第9週 プーシキン『ベールキン物語』序文をめぐって：近代小説における語り手の問題											
----- 西洋文学入門(講義)(2)へ続く -----											

西洋文学入門(講義)(2)

第10週 プーシキン 『吹雪』 『スペードの女王』 考：先行作品、milieuとの間テキスト性について

アメリカ文学（小林）

第11週 アメリカ詩の鑑賞法（ホイットマン、ディキンソン、ギンズバーグ各人による代表的一篇）

第12週 アメリカ小説の味読法（フォークナー 『響きと怒り』）

ドイツ文学（川島）

第13週 ハンス・ペーター・リヒター 『あのころはフリードリヒがいた』

第14週 ベルンハルト・シュリンク 『朗読者』

第15週 まとめ・フィードバック（廣田）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては授業中に指示をするのでそれに従うこと。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する。

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

（関連URL）

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2（「西洋文学この百冊」）

【授業外学習（予習・復習）等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。